

南関町地域未来構想

令和4年3月

南 関 町

目次

はじめに 構想策定の背景と目的	1
1. 構想策定の背景	1
2. 構想策定の目的	1
3. 対象区域と業務内容	1
第1章 南関町の特徴	2
1. 位置、地勢、交通条件	2
2. 歴史及び自然環境特性	3
3. 社会特性	4
4. 都市的環境特性	8
5. 財政及び公共施設の管理状況	12
第2章 上位・関連計画	14
1. 南関町総合振興計画 第六次基本構想・基本計画（平成30年12月）	14
2. 南関町人口ビジョン（令和2年3月改定）	16
3. 第2期南関町まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和2年3月）	16
4. 南関町住生活基本計画（平成30年2月）	17
5. 南関町公共施設等総合管理計画（平成29年3月）	19
6. 第三期住んでよかったプロジェクト推進事業（令和3年4月）	21
第3章 住民意識調査結果	23
1. 調査概要	23
2. 住民アンケートの結果	23
3. 中学生アンケートの結果	32
第4章 町内企業従業者アンケート調査結果	37
1. 調査概要	37
2. アンケート結果	37
第5章 住民ワークショップによる意見	45
1. ワークショップの構成	45
2. 若者編ワークショップ（令和3年11月5日開催/36名参加）	45
3. 校区別編ワークショップ（令和3年11月18日・19日開催/60名参加）	47
4. モデル地区編ワークショップ（令和3年12月16日開催/30名参加）	50
第6章 まちづくりの課題	53
1. 町全体に係る課題	53
2. 校区別課題及び今後の取り組みの方向性	55
第7章 地域未来構想（まちづくりの方向）	64
1. 町全体の未来構想	64
2. 校区別未来構想	68
3. モデル地区のまちづくり構想	76
4. 実現化に向けて	83
資料編 策定体制・策定経緯等	87
1. 策定体制	87
2. 委員名簿	87
3. 策定経緯	88

はじめに 構想策定の背景と目的

1. 構想策定の背景

南関町はこれまで、昔は関所、現在は県北の玄関口として歴史と緑豊かな自然を守りながら、町民一人ひとりが支えあい誇りを持ってまちづくりを進めてきました。

また、行政運営では、第6次南関町総合振興計画「新しい未来の幕開けとともに新たなチャレンジができる町」を基盤とし、人口減少に対する事業を「南関町人口ビジョン」、「南関町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に位置付け、誰もが住みよいまちづくりを目指すこととしています。

近年、本町では、町の一大プロジェクトとして、庁舎の旧南関高校跡地への移転とこれに伴う防災及びまちづくりの拠点形成を進めてきました。一方で、旧庁舎跡地の活用や公民館の耐震性の不足、うから館の温浴施設廃止後の活用など、今後のまちづくりを方向付ける事業が控えています。

こうした状況を踏まえて、町内各地域の特性を生かし、持続可能なまちづくりの方向性を示す指針を定めることが必要になりました。

2. 構想策定の目的

本構想は、町内の4つの小学校区を基本として、地域が持つそれぞれの特性を生かしつつ、南関町全体が持続可能なまちづくりを進めるための指針となる「南関町地域未来構想」を取りまとめることを目的とします。

なお、本構想中に示す今後の取組案や構想図は、今後の開発・整備や事業を決定・拘束するものではなく、まちづくりの方向性を示すものです。

3. 対象区域と業務内容

本構想の対象区域は南関町全域とし、以下の業務を行い取りまとめました。

- 1) 南関町に関する基礎的データの整理・分析
- 2) 町民アンケート及びワークショップ等に基づく、地域ごとの住民ニーズの整理
- 3) 南関町及び各地域における、まちづくりの課題の整理
- 4) まちづくりの全体構想の立案
- 5) 地域（小学校区）ごとのまちづくり構想の立案
- 6) モデル地区（第一小学校区）における実行計画の立案

第1章 南関町の特性

1. 位置、地勢、交通条件

(1) 位置・地勢

本町は、熊本県の西北端に位置し、北西は福岡県大牟田市、北は福岡県みやま市、東は和水町、南は玉名市、南東は荒尾市に接しています。

町域の面積は68.92k㎡で、南北11km、東西10kmのまとまりのある形状をしており、地形は南に標高501mの小岱山、北に大津山、東に二城山、西に三池山を擁し、中央には丘陵高台を形成し、畑地が拓けています。

水系は、大津山山系に源を発した関川が西部を流れ、地域には平坦な水田地帯を形成し有明海へ、また、小岱山山系に源を発した内田川が南部を流れ水田地帯を形成し、菊池川へと流れ注いでいます。

(2) 交通条件

町の中央部を南北に九州自動車道が通り、南関インターチェンジは熊本県の北の玄関に位置しています。南関インターチェンジから県都熊本市へは40km、福岡市へは70kmの距離にあります。

町内には、福岡県みやま市及び山鹿市方面に通じる国道443号、福岡県大牟田市方面に通じる県道5号（大牟田南関線）及び県道10号（南関大牟田北線）、荒尾市方面に通じる県道29号（荒尾南関線）、国道443号から分岐して玉名方面に通じる県道4号（玉名八女線）、町の南部を東西に通り大牟田市及び和水町方面に通じる県道3号（大牟田植木線）など、多くの幹線道路が通り、交通の要衝となっています。

公共交通としては、大牟田市方面と結ぶ西鉄バス、山鹿方面と結ぶ産交バス、玉名方面と結ぶ産交バスがあります。また、九州自動車道小原バス停から高速バスを利用することが出来ます。

■道路網図



2. 歴史及び自然環境特性

(1) 歴史的特性

奈良時代には、官道（現在で言う国道）の重要な駅（大水駅）が置かれ、平安時代には関所「大津山の関」が置かれました。

江戸時代には、豊前街道は熊本城から南関を経て豊前・小倉を結ぶ参勤交代路となり、南関は筑後国と肥後国の国境という交通の要衝に位置した街道警備の拠点となりました。

明治 22 年（1889 年）の町村制施行により、玉名郡関町、関下村、関村、関外目村、関東村及び細永村の一部の区域をもって“南関町”が成立しましたが、昭和 30 年（1955 年）に大原村、賢木村、坂下村、米富村と新設合併し、改めて“南関町”が発足し、翌年（1956 年）には三ツ川地区を玉名市に編入して現在に至っています。

南関町は現在も交通の要衝としての特性を持ち、町内各所に歴史的な名所・旧跡、まつり、特産品などがあるほか、輸送面での優位性を背景に町内には多くの企業が立地しています。

(2) 自然環境特性

本町の地形は、周囲を東に二城山、西に三池山、南に小岱山、北に大津山が連なり、所々に高台河川を形成しながら内陸に丘陵台地が広がっています。その丘陵台地をめぐる河川の流域に、田、畑、山林が複雑に交錯しており、森林や農地といった自然的土地利用が町域の70%を占めています。

本町の森林の44%はスギを主体とした人工林で、その他は自然林や住民生活に密着した里山となっています。

河川も良好な自然環境を形成する要素の一つになっており、“ホタルの里百選”に2箇所が選ばれています。

また、良質で豊富な地下水は“南関そうめん”づくりや“南関あげ”などの伝統的な特産品づくりを発展させて来ましたが、近年は宅地等の面積の増大や開発により、水源涵養機能を有する山林や農地が減少しているほか、ごみの不法投棄の増加等による環境への不安が増大しています。



□大津山自然公園からの景色



□里山と田園の風景



□琵琶瀬川のホタルの里



□河川と桜並木の風景

3. 社会特性

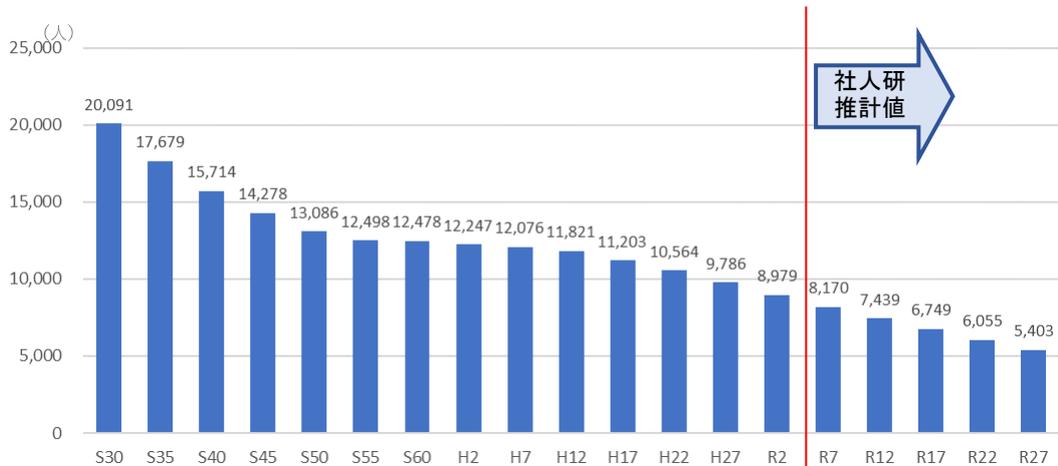
(1) 人口及び世帯特性

1) 人口特性

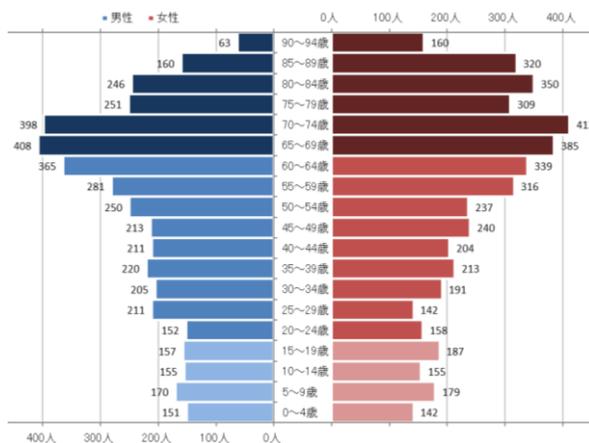
本町の人口は、昭和30年からの高度成長期にかけて著しく減少し、現在も減少傾向にあります。また、国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の推計では今後も減少する見通しとなっています。

令和2年の国勢調査によると、65歳以上の高齢者が総人口に占める割合は39%（20年間で11ポイント増加）、14歳以下の年少人口率は11%（20年間で4ポイント減少）と、少子高齢化が進んでいます。

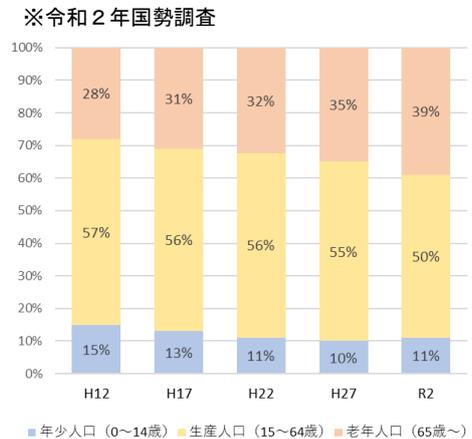
■南関町の人口推移 ※R2年までは国勢調査、R7年以降は社人研による推計値



■南関町の人口ピラミッド ※令和2年国勢調査

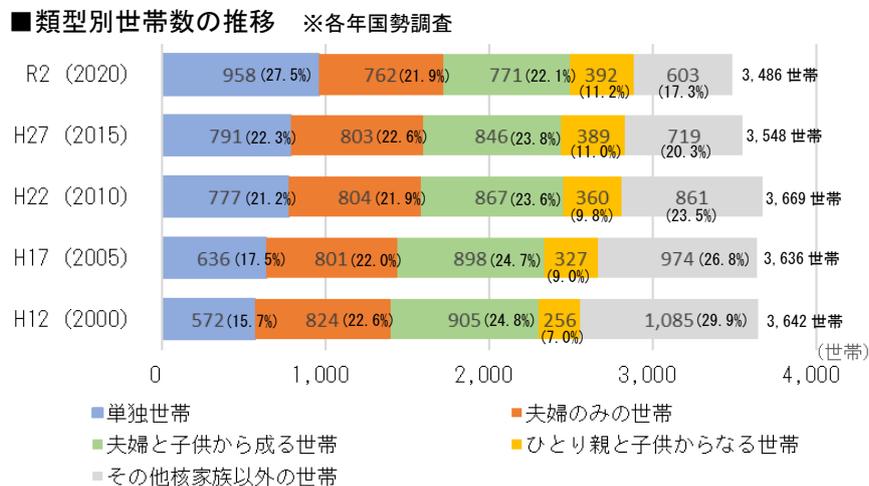


■年齢3区分別人口割合の推移



2) 世帯特性

本町の世帯数は減少傾向にあり、ひとり親と子供から成る世帯を除く核家族及びその他核家族以外の世帯は減少しています。一方、単独世帯は大幅に増加するなど、小家族化が進んでいます。また、核家族の中でも、夫婦と子供から成る世帯の割合は低下してきています。



3) 校区別人口及び世帯特性

国勢調査データから分かる校区別の人口及び世帯特性をまとめると、以下のようになります。

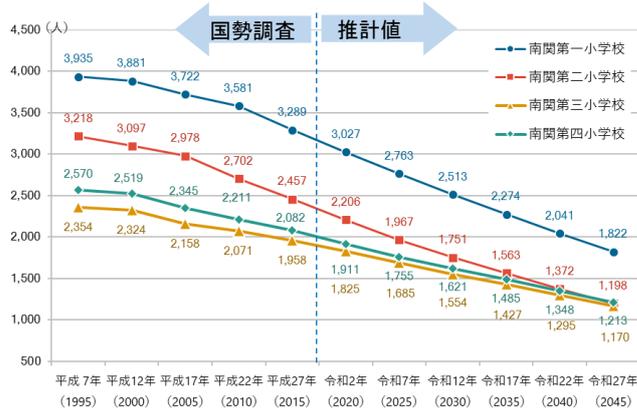
■ 校区別人口及び世帯特性

校区名称	現状
第一小学校区	<ul style="list-style-type: none"> 人口、世帯数ともに最も多い校区。(1位) 平成7年～27年の20年間の人口減少率は16.4%で最も少ない。(1位) 平成27年の年少人口割合は10.4%で2番目に少ない。(3位) 年少人口割合は平成17～27年の10年間で急激に減少したが、令和2年には増加に転じ、その後はほぼ横ばいで推移する見込み。 平成27年時点の老年人の割合は35.7%で第二校区に次いで高い。社人研の推計値によると25年後の令和27年には47.0%に達する見込み。
第二小学校区	<ul style="list-style-type: none"> 人口、世帯数ともに2番目に多い校区。(2位) 平成7年～27年の20年間の人口減少率は23.7%と最も大きい。(4位) 平成27年の年少人口の割合は9.2%で最も少ない。(4位) 年少人口割合は10年前の平成22年から横ばいになっているが、令和7年頃からは増加に転じる見込み。 平成27年時点の老年人の割合は40.8%で最も高い。社人研の推計値によると25年後の令和27年には47.3%に達する見込み。(4位)
第三小学校区	<ul style="list-style-type: none"> 人口、世帯数ともに最も少ない校区。(4位) 平成7年～27年の20年間の人口減少率は16.8%で2番目に小さい。(2位) 平成27年の年少人口割合は14.6%で最も多い。(1位) 年少人口割合は10年前の平成22年から増加に転じたが、今後は低下していく見込み。 平成27年時点の老年人の割合は31.8%で最も低い。社人研の推計値によると25年後の令和27年も40.1%に留まる見込み。

第四小学校区

- ・人口、世帯数ともに2番目に少ない校区。(3位)
- ・H7~H27年の20年間の人口減少率は19.0%で2番目に大きい。
- ・H27年の年少人口割合は10.5%で第一校区とほぼ同じ。
- ・年少人口割合はH27まで減少してきたが、今後R7年まで増加し、その後は再び減少していく見込み。
- ・平成27年時点の老年人の割合は33.7%で2番目に低い。社人研の推計値によると25年後の令和27年には42.2%になる見込み。

■校區別人口推移 ※令和2年度以降は推計値



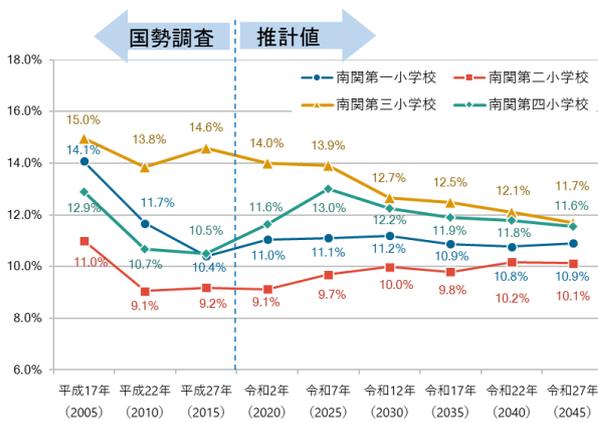
■校區別世帯数推移



資料：政府統計の総合窓口(e-Stat) 500mメッシュ国勢調査(平成27年)、国土数値情報ダウンロードサービス 500mメッシュ別将来推計人口(H30国政局推計)をもとに集計

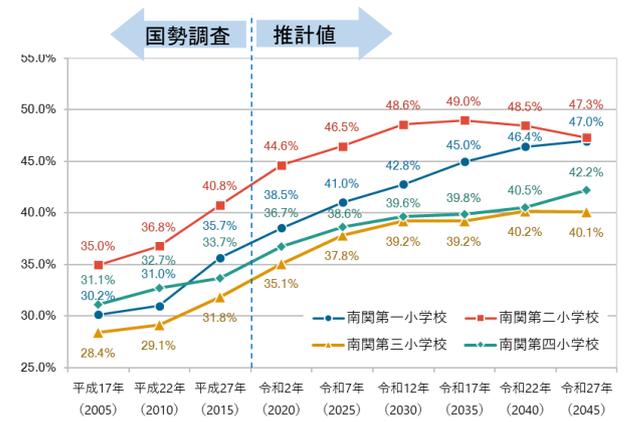
■校區別年少人口割合の推移

※令和2年度以降は推計値



■校區別老年人口割合の推移

※令和2年度以降は推計値

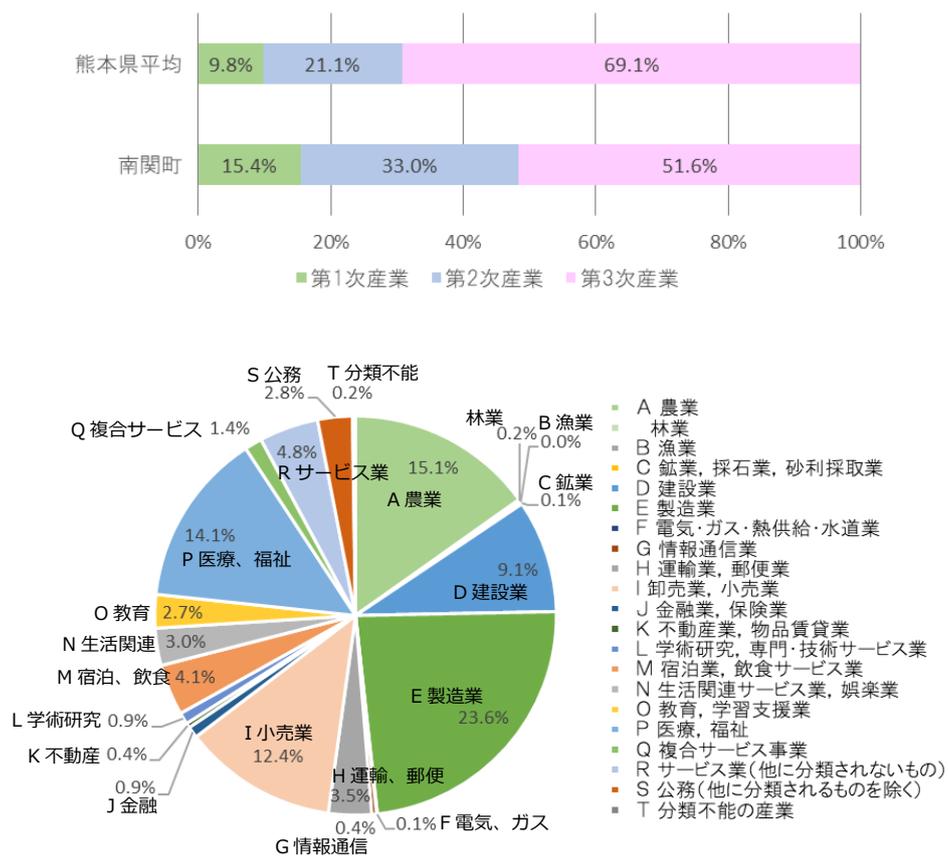


資料：政府統計の総合窓口(e-Stat) 500mメッシュ国勢調査(平成27年)、国土数値情報ダウンロードサービス 500mメッシュ別将来推計人口(H30国政局推計)をもとに集計

(2) 産業特性

平成 27 年の国勢調査によると、県平均と比較して、第 1 次産業と第 2 次産業への従事者の割合が多いことが特徴となっています。特に、第 1 次産業では“農業”への従事者が、第 2 次産業では“建設業”や“製造業”への従事者が、第 3 次産業では“卸売・小売業”や“教育・学習支援業”への従事者が多くなっています。

■産業別就業状況 ※平成 27 年 10 月 1 日調査時点



4. 都市的環境特性

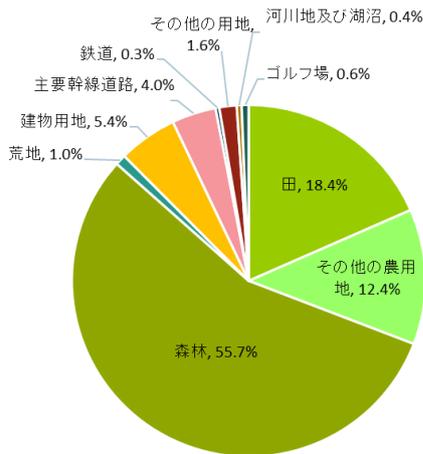
(1) 土地利用特性

1) 町全体の土地利用特性

平成 28 年の国土数値ダウンロードサービスの土地利用細分メッシュデータによると、森林が町域全体の 55.7%を占め、田・その他の農用地を含む“自然的土地利用”が 86.6%を占めています。

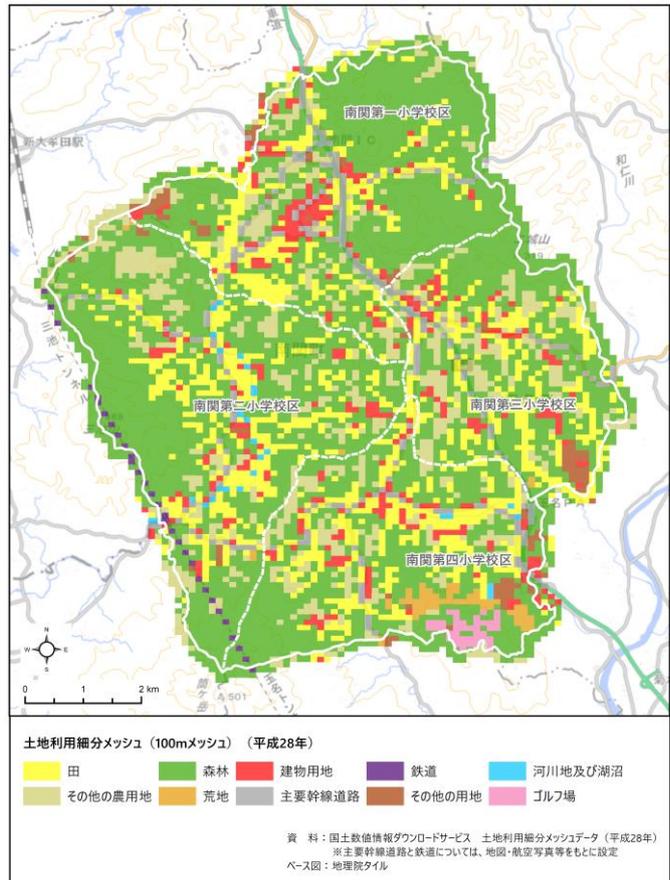
これに対し、建物用地や幹線道路用地などの“都市的土地利用”は 11.3%（概ね町域の 1 割程度）となっています。

■土地利用面積の割合 ※平成 28 年調査時点



	合計	
	面積 (ha)	割合
田	1,268.6	18.4%
その他の農用地	856.4	12.4%
森林	3,841.5	55.7%
自然的土地利用	5,966.5	86.6%
荒地	67.6	1.0%
建物用地	370.7	5.4%
主要幹線道路	278.4	4.0%
鉄道	23.6	0.3%
その他の用地	109.1	1.6%
都市的土地利用	781.9	11.3%
河川地及び湖沼	30.6	0.4%
ゴルフ場	44.3	0.6%
合計	6,890.9	—

■土地利用細分メッシュ図 ※平成 28 年調査時点



2) 校区別土地利用及び施設立地状況

平成 28 年の国土数値情報ダウンロードサービスのデータから分かる校区別の土地利用及び施設立地状況をまとめると、以下のようになります。

■校区別土地利用及び施設立地状況 ※平成 28 年調査時点

校区名称	現状
第一小学校区	<ul style="list-style-type: none"> ・都市的土地利用面積：校区面積の 14.0%（1 位） ・自然的土地利用面積：校区面積の 86.0% ・町内の公共施設の約半数が立地（12 施設）、歴史、観光施設も多く立地（4 施設）
第二小学校区	<ul style="list-style-type: none"> ・都市的土地利用面積：校区面積の 7.3%（4 位） ・自然的土地利用面積：校区面積の 91.4%（1 位） ・高齢者福祉施設が最も多く立地（7 施設）
第三小学校区	<ul style="list-style-type: none"> ・都市的土地利用面積：校区面積の 13.3% ・自然的土地利用面積：校区面積の 86.5% ・高齢者福祉施設が第一小学校区と同数立地し 2 番目に多い（5 施設）

第四小学校区

- ・都市的土地利用面積：校区面積の12.1%
- ・自然的土地利用面積：校区面積の80.8%（4位）
- ・児童福祉施設（2施設）と医療施設（3施設）は第一小学校区と並んで多く立地、商業施設（4施設）は第一小学校区の次に多い

■校区別土地利用状況 ※平成28年調査時点

	南関第一小学校区		南関第二小学校区		南関第三小学校区		南関第四小学校区		合計	
	面積(ha)	割合	面積(ha)	割合	面積(ha)	割合	面積(ha)	割合	面積(ha)	割合
田	292.1	15.7%	388.6	17.9%	266.2	20.9%	321.7	20.4%	1,268.6	18.4%
その他の農用地	180.8	9.7%	267.0	12.3%	215.5	16.9%	193.1	12.2%	856.4	12.4%
森林	1,130.0	60.6%	1,329.4	61.2%	621.3	48.7%	760.8	48.2%	3,841.5	55.7%
自然的土地利用	1,602.9	86.0%	1,985.0	91.4%	1,103.0	86.5%	1,275.7	80.8%	5,966.5	86.6%
荒地	0.2	0.4%	5.2	7.6%	2.2	3.2%	60.0	3.8%	67.6	1.0%
建物用地	117.2	6.3%	78.5	3.6%	77.7	6.1%	97.4	6.2%	370.7	5.4%
主要幹線道路	110.5	5.9%	45.8	2.1%	58.0	4.6%	64.1	4.1%	278.4	4.0%
鉄道	0.0	0.0%	21.4	1.0%	0.0	0.0%	2.2	0.1%	23.6	0.3%
その他の用地	33.5	1.8%	13.2	0.6%	34.5	2.7%	27.8	1.8%	109.1	1.6%
都市的土地利用	261.2	14.0%	158.9	7.3%	170.2	13.3%	191.5	12.1%	781.9	11.3%
河川地及び湖沼	0.0	0.0%	23.1	75.3%	0.0	0.0%	7.6	0.5%	30.6	0.4%
ゴルフ場	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	44.3	2.8%	44.3	0.6%
合計	1,864.3	—	2,172.2	—	1,275.4	—	1,579.0	—	6,890.9	—

■校区別施設立地状況 ※平成28年調査時点

	南関第一小学校区		南関第二小学校区		南関第三小学校区		南関第四小学校区		合計
	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合	
公共施設	12	48.0%	3	12.0%	4	16.0%	6	24.0%	25
行政系施設	3	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3
市民文化系施設	2	28.6%	1	14.3%	1	14.3%	3	42.9%	7
社会教育系施設	2	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2
保健・福祉施設	1	50.0%	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%	2
スポーツ・レクリエーション系施設	2	66.7%	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	3
学校施設	1	16.7%	1	16.7%	2	33.3%	2	33.3%	6
小学校	1	25.0%	1	25.0%	1	25.0%	1	25.0%	4
中学校	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	1
その他学校施設	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	1
業務施設	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1
その他施設	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	1
高齢者福祉施設	5	27.8%	7	38.9%	5	27.8%	1	5.6%	18
地域包括支援センター	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1
老人憩いの家	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	1
通所系サービス	1	25.0%	2	50.0%	1	25.0%	0	0.0%	4
通所系+相談系サービス	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	1
通所系+居住系サービス	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	1
訪問系サービス	2	66.7%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%	3
訪問系+相談系サービス	0	0.0%	1	50.0%	1	50.0%	0	0.0%	2
居住系サービス	1	20.0%	2	40.0%	1	20.0%	1	20.0%	5
児童福祉施設	2	40.0%	0	0.0%	1	20.0%	2	40.0%	5
保育所	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	1
認定こども園	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	50.0%	2
福祉型障害児入所支援	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	1
障害児通所施設	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1
医療施設	3	37.5%	1	12.5%	1	12.5%	3	37.5%	8
診療所	1	33.3%	1	33.3%	0	0.0%	1	33.3%	3
歯科診療所	2	40.0%	0	0.0%	1	20.0%	2	40.0%	5
商業施設	5	38.5%	2	15.4%	2	15.4%	4	30.8%	13
スーパーマーケット	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1
物産館	1	33.3%	1	33.3%	0	0.0%	1	33.3%	3
直売所	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	1
ドラッグストア	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1
家電量販店	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1
コンビニエンスストア	1	16.7%	1	16.7%	1	16.7%	3	50.0%	6
金融機関	3	50.0%	1	16.7%	1	16.7%	1	16.7%	6
銀行・信用金庫	2	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2
郵便局	1	25.0%	1	25.0%	1	25.0%	1	25.0%	4
自然・歴史・観光施設	4	36.4%	3	27.3%	2	18.2%	2	18.2%	11
公園	1	16.7%	2	33.3%	1	16.7%	2	33.3%	6
歴史施設	2	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2
観光施設	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	1
宿泊施設	1	50.0%	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%	2
施設数合計	22	36.1%	14	23.0%	12	19.7%	13	21.3%	61

(2) 公共公益的施設の立地状況

本町の公共公益的施設の多くは第1小学校区の関町地区に立地しています。

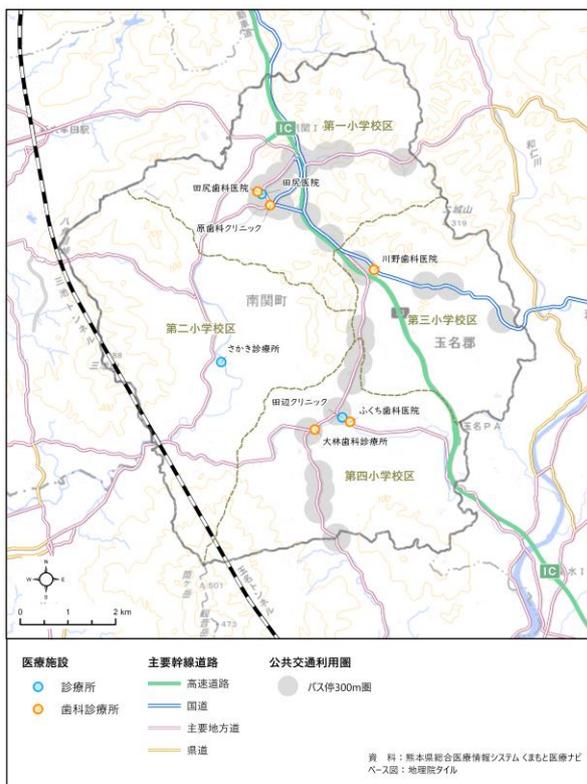
校区別に見ると、第2小学校区では小学校がある高久野地区にふるさとセンターやふれあい広場、町営住宅等が立地し、第3小学校区では小原地区に交流センターや社会福祉協議会、町営住宅のほか、町内で唯一の中学校が立地しています。また、第4小学校区では坂下地区に給食センター、南町民センター、町営住宅が立地しています。

■ 公共公益的施設分布図

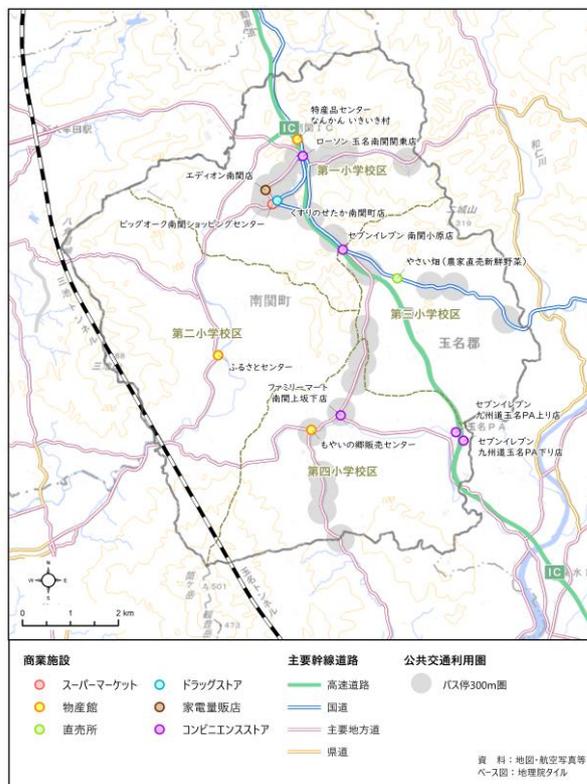


また、第1小学校区の関町地区には医療施設、商業施設、金融機関、高齢者福祉施設も集積しています。このほか、第2小学校区の高久野地区や久重地区には高齢者福祉施設、第3小学校区の小原地区には商業施設、第4小学校区の坂下地区には医療施設が立地しています。

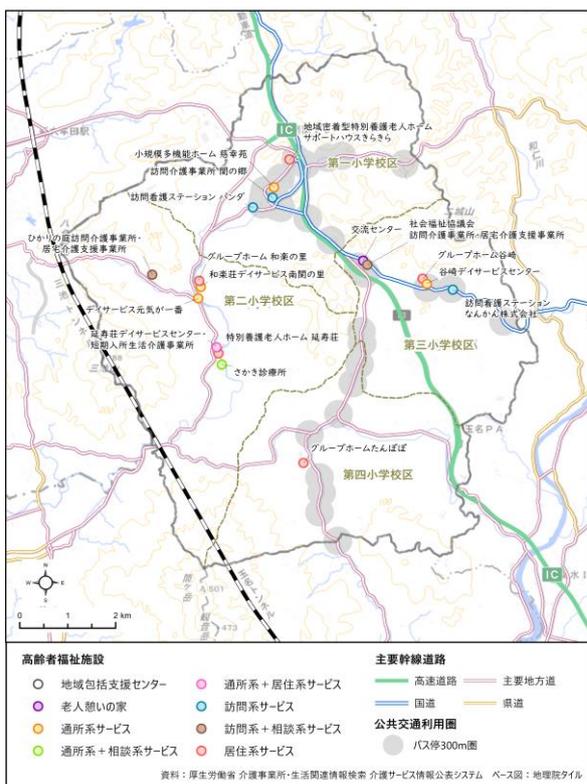
■医療施設の分布図



■商業施設の分布図



■高齢者福祉施設の分布図



(3) 空き家の状況

本町では、令和2年度に空き家の調査を行いました。その結果、空き家は365件あり、外観から利用可能と判断されたのは256件となっています。

5. 財政及び公共施設の管理状況

(1) 歳入・歳出

1) 歳入

令和2年度決算における本町の財政状況をみると、約83.7億円の収入のうち、地方交付税、町税、国庫支出金の合計で約6割を占めています。

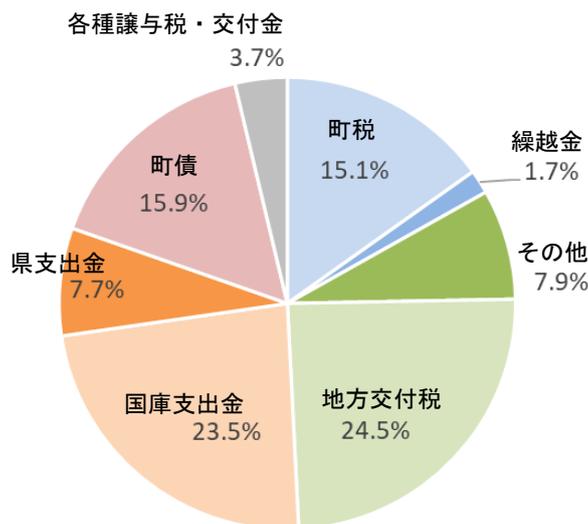
■南関町の歳入の状況 ※令和2年度決算

歳入		令和2年度	構成比(%)
自主財源	町税	12億6,356万円	15.1
	繰越金	1億4,216万円	1.7
	その他 ※1	6億6,431万円	7.9
	小計	20億7,003万円	24.7
依存財源	地方交付税	20億5,261万円	24.5
	国庫支出金	19億6,674万円	23.5
	県支出金	6億4,648万円	7.7
	町債	13億2,773万円	15.9
	各種譲与税・交付金 ※2	3億510万円	3.7
	小計	62億9,866万円	75.3
歳入合計		83億6,869万円	100.0

※1:その他の内訳	決算額
地方譲与税	5,812万円
利子割交付金	48万円
配当割交付金	208万円
株式等譲渡所得割交付金	204万円
法人事業税交付金	596万円
地方消費税交付金	2億1,651万円
ゴルフ場利用税交付金	728万円
環境性能割交付金	373万円
地方特例交付金	761万円
交通安全対策特別交付金	129万円
※2 各種譲与税・交付金の内訳	決算額
分担金・負担金	2億2,646万円
使用料・手数料	1億1,033万円
財産収入	161万円
寄附金	1億5,163万円
繰入金	1億1,640万円
諸収入	5,788万円

自主財源：町が自主的に収入しうる財源

依存財源：国・県の意志により定められた額を交付されたり、割り当てられたりする収入

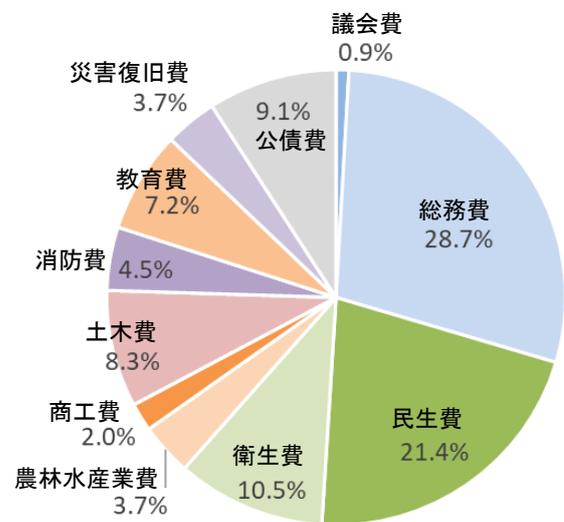


2) 歳出

歳出においては、総務費、民生費、衛生費の分野が大きな割合を占めています。

■南関町の歳出の状況 ※令和2年度決算

区分	決算額	構成比(%)
議会費	7,468万円	0.9
総務費	23億6,107万円	28.7
民生費	17億5,551万円	21.4
衛生費	8億6,277万円	10.5
農林水産業費	3億509万円	3.7
商工費	1億6,539万円	2.0
土木費	6億7,774万円	8.3
消防費	3億6,806万円	4.5
教育費	5億8,819万円	7.2
災害復旧費	3億831万円	3.7
公債費	7億4,807万円	9.1
総計	82億1,488万円	100.0



第2章 上位・関連計画

1. 南関町総合振興計画 第六次基本構想・基本計画（平成30年12月）

本町の最上位計画である「南関町総合振興計画 第六次基本構想・基本計画」において、以下のように定められています。

◇町の将来像、まちづくりの基本理念・基本目標

■町の将来像

“新しい未来の幕開けとともに新たなチャレンジができる町”

新庁舎建設を機に、南関版コンパクトシティの実現に向け、新たな一歩を踏み出すとともに、夢や希望を叶えるための新たなチャレンジを、地域住民、各種団体、行政が一体となった「チーム南関」で支え合い、誰もが住みやすいまちづくりを目指す。

■まちづくりの基本理念

“住民と行政による協働のまちづくり”

住民すべてが、「自分たちのまちは、自分たちの手で」という自治意識を持ち、住民、地域、行政がそれぞれの責任と役割を認識し協力し支え合う。

■まちづくりの基本目標

1. 産み育てやすい環境の整備

出会い・結婚・妊娠・出産・子育てに対する支援等を行い、“南関町で子育てをしたいと思えるような子育て環境の充実に取り組む。

2. 住む場所と働く場所の確保

移住・定住の支援や基幹産業である農業の振興、山林資源を活かした物産振興、新たな起業支援、各種人材の育成等を行い、“南関町にずっと住みたい”と思えるようなまちづくりに取り組む。

3. 高齢者や障害のある方も安心して暮らせる環境の整備

住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、医療・介護・健康に関する支援や生活基盤の充実、地域の歴史・文化、自然や景観を守りながら、“南関に住んでよかった”と思えるような豊かな地域づくりに取り組む。

◇まちづくりのキャッチフレーズ

“緑にいきづく関所の里”

◇施策体系

1) 誰にでもどんなとき にもやさしいまちづ くり	① 福祉の充実 ② 保健の充実 ③ 医療の充実
2) 緑豊かな環境と共生 するまちづくり	① 自然環境の保全 ② ごみ処理と再資源化の推進 ③ 新エネルギーの導入 ④ 排水処理施設の整備
3) 心が通いふれあうま ちづくり	① 地域コミュニティの強化 ② 男女共同参画社会の推進 ③ 人権教育・啓発の推進
4) 産業が盛んな元気の あるまちづくり	① 農業の振興 ② 林業の振興 ③ 製造業・工業の振興 ④ 商業の振興 ⑤ 観光の振興
5) 交通・情報通信基盤の 整ったまちづくり	① 道路交通体系の整備 ② 生活交通の確保 ③ 情報通信基盤の整備
6) ゆとりある住環境の まちづくり	① 定住の促進 ② 公園、緑地等の整備 ③ 安全な町づくり
7) 共に学びあえるまち づくり	① 学校教育の充実 ② 社会教育の充実 ③ 社会体育の充実 ④ 国際交流の推進 ⑤ 文化の振興
8) 分権社会を担う自立 したまちづくり	① 住民参加のまちづくり ② 情報公開の推進 ③ 行財政の効率化

2. 南関町人口ビジョン（令和2年3月改定）

本町の将来人口について検討した、「南関町人口ビジョン」の概要を以下に示します。

◇対象期間

国の長期ビジョンの期間（令和42年（2060年））を対象期間とするが、中期的（令和22年（2040年））な将来人口推計に重点を置く。

なお、国の方針転換や、今後の本町における住宅整備等の影響、社会経済動向の変化など、人口に大きな影響を与える要因があった場合などにおいては、適宜見直しを行う。

◇人口の将来展望（本町がめざす将来人口）

“2040年 7,047人” ⇒ “2060年 6,000人”

3. 第2期南関町まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和2年3月）

「第2期南関町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の概要を以下に示します。

◇計画期間

令和2年（2020年）～令和6年（2024年）の5ヶ年

◇基本目標

- 基本目標1. 南関町の地域資源を活かす産業と、魅力ある雇用を創出する
- 基本目標2. 南関町への人の流れを創るとともに、各種人材の育成に取り組む
- 基本目標3. 町民の結婚・出産・子育ての希望を実現する
- 基本目標4. 町民が誇りをもち元気に暮らし続けられる地域を創る

◇施策の体系

基本目標1. 南関町の地域資源を活かす産業と、魅力ある雇用を創出する		
1. 農林業の振興	(1) 農業支援の充実	
	(2) 農地の整備	
	(3) 6次産業の支援	
	(4) 山林資源を活用した物産振興	
	(5) 就農支援の充実	
2. 企業誘致・雇用の創出	(1) 起業・継業支援	
	(2) 企業・施設の誘致	
	(3) 誘致環境の整備	
	(4) 雇用支援	
3. 商工業・観光産業の振興	(1) 商工業支援の充実	
	(2) 観光資源の有効活用	
	(3) イベントの開催	
	(4) ブランディング・PR	
	(5) 農泊の推進	
基本目標2. 南関町への人の流れを創るとともに、各種人材の育成に取り組む		
1. 移住・定住の促進	(1) 空き家・空き店舗の有効活用の促進	
	(2) 定住支援の充実	
	(3) 移住・定住に関する情報提供の強化	

	2. 南関町の魅力づくりの推進	(1) ブランディング・PR
		(2) 子育て応援宣言の町
		(3) 多文化共生の地域づくり
		(4) 自然・歴史・文化とのふれあいの促進
	3. 次代を担う人づくり	(1) 教育環境の充実
		(2) 各種人材育成
		(3) グローバル人材の育成
		(4) 地域を担う「ひと」の確保・育成
基本目標3. 町民の結婚・出産・子育ての希望を実現する		
1. 子育て世代への支援の充実	(1) 子育て支援の充実	
	(2) 教育・保育環境の充実	
	(3) 出会い・結婚に対する支援	
	(4) 妊娠・出産に対する支援	
	(5) 経済的支援の充実	
2. 女性の社会参画の推進	(1) ワーク・ライフ・バランスの実現	
	(2) 家庭における男性の主体的参画の促進	
基本目標4. 町民が誇りを持ち元気に暮らし続けられる地域を創る		
1. 医療・福祉・介護の充実	(1) 高齢者・介護・健康に関する支援	
	(2) 人材の確保・育成	
	(3) 医療体制の整備	
2. 地域コミュニティの育成	(1) 地域コミュニティ活動に関する意識の普及啓発	
	(2) 地域づくりの担い手の育成・確保	
	(3) 地域コミュニティ活動への支援	
3. 生活基盤の充実	(1) 公共交通基盤の整備	
	(2) 公共交通ネットワークの確保	
	(3) コンパクト+ネットワークシティの形成	
	(4) 災害に強いまちづくり	
	(5) 生活環境の整備	

4. 南関町住生活基本計画（平成30年2月）

本町における今後の住宅政策を総合的に示した、「南関町住生活基本計画」の概要を以下に示します。

◇計画期間

平成29年度（2017年度）～令和8年度（2026年）の10年間

◇住宅市街地の整備方針

■住宅市街地・住宅地（集落）の将来像

“豊かな緑に抱かれたやすらぎとうるおいのある住みよい住宅・住環境”

■住宅市街地の類型別整備方針

類型	整備方針
住宅市街地	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢世帯が住み続けられる多様な住まいの確保の検討 ○高齢者、障がい者が安心・安全に暮らせる住まいづくり。まちづくりの推進の検討 ○住宅困窮者のための低廉で安心して生活できる公営住宅等の維持管理への取り組み ○地域内幹線道路、生活道路の拡幅整備による安全・安心・快適な生活空間の創出の検討 ○空き家・空き地の利活用による市街地の活性化の検討 ○安全・安心な住まい、住環境向上のための耐震化を促進する取り組みの検討 ○町の中心として計画的にコンパクトなまちづくりの取り組みによる魅力ある、住みたくなる住宅市街地の創出の検討
住宅地（集落）	<ul style="list-style-type: none"> ○企業従業者や移住希望者をはじめ、多様な世帯の住宅要求に対応した住宅確保の検討 ○高齢者、障がい者が安心・安全に暮らせる住まいのバリアフリー化の促進の検討 ○住宅困窮者のための低廉で安心して生活できる公営住宅等の維持管理への取り組み ○災害時や緊急時の救急車両等の円滑な進入、日常的な円滑な車両利用が可能な生活道路の整備の検討 ○老朽危険空き家への対策、良好な状態にある空き家の活用による移住者の受け入れ促進の取り組みの検討 ○安全・安心な住まい、住環境向上のための耐震化を促進する取り組みの検討

◇地域別住宅施策の方針

地域	住宅施策の課題と目標	基本的な施策の推進方針
第一 小学校区	<p>《課題》 町の中心として、市街地の居住環境の向上、自立的生活困難者を支援する場の形成</p> <p>《目標》 住宅市街地として多様な機能の立地や交通条件を生かしたコンパクトなまちづくりに取り組む</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○本町の中心となる市街地として、一体的にまちづくりに取り組むことについての住民の合意形成 ○コンパクトなまちづくりの核としての高校跡地や行政施設跡地の有効活用への取り組み ○住宅市街地の骨格となる道路、歩道の整備などの検討
第二 小学校区	<p>《課題》 移住・定住人口の増加による地域環境の保全やコミュニティの維持</p> <p>《目標》 自然環境を生かし、生活環境の向上を図り、空き家の活用などにより移住・定住の増加に取り組む</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○緑や農地、集落景観の保全などによる自然環境の維持への取り組み ○住宅地、集落内の生活道路の拡幅、改善などによる生活環境の向上 ○空き家の所有者等の維持管理意識の向上。老朽危険空家の改善・除却等の対策及び良好な空き家の利活用促進の取り組み ○新たな宅地や住宅供給への取り組みへの支援

地域	住宅施策の課題と目標	基本的な施策の推進方針
第三 小学校区	<p>《課題》 企業誘致による就業の場の拡大と企業従業員の移住・定住の促進</p> <p>《目標》 新たな企業誘致を検討するとともに、空き家の活用や新たな住宅供給による人口確保に取り組む</p>	<p>○住宅地、集落内の生活道路の拡幅、改善などによる生活環境の向上</p> <p>○企業立地ニーズを踏まえた新たな用地確保への取り組み</p> <p>○企業従業員移住・定住意向の実態把握</p> <p>○空き家の所有者等の維持管理意識の向上。老朽危険空家の改善・除却等の対策及び良好な空き家の利活用促進の取り組み</p> <p>○新たな宅地や住宅供給への取り組みへの支援</p>
第四 小学校区	<p>《課題》 既存企業の従業員の移住・定住の促進</p> <p>《目標》 玉名市と隣接する立地条件、多くの企業従業員がいることを生かした空き家の活用や新たな住宅供給による人口確保に取り組む</p>	<p>○住宅地、集落内の生活道路の拡幅、改善などによる生活環境の向上</p> <p>○企業従業員移住・定住意向の実態把握</p> <p>○空き家の所有者等の維持管理意識の向上。老朽危険空家の改善・除却等の対策及び良好な空き家の利活用促進の取り組み</p> <p>○新たな宅地や住宅供給への取り組みへの支援</p>

5. 南関町公共施設等総合管理計画（平成 29 年 3 月）

本町における公共施設等の維持管理に関する方向性を示した、「南関町公共施設等総合管理計画」の概要を以下に示します。

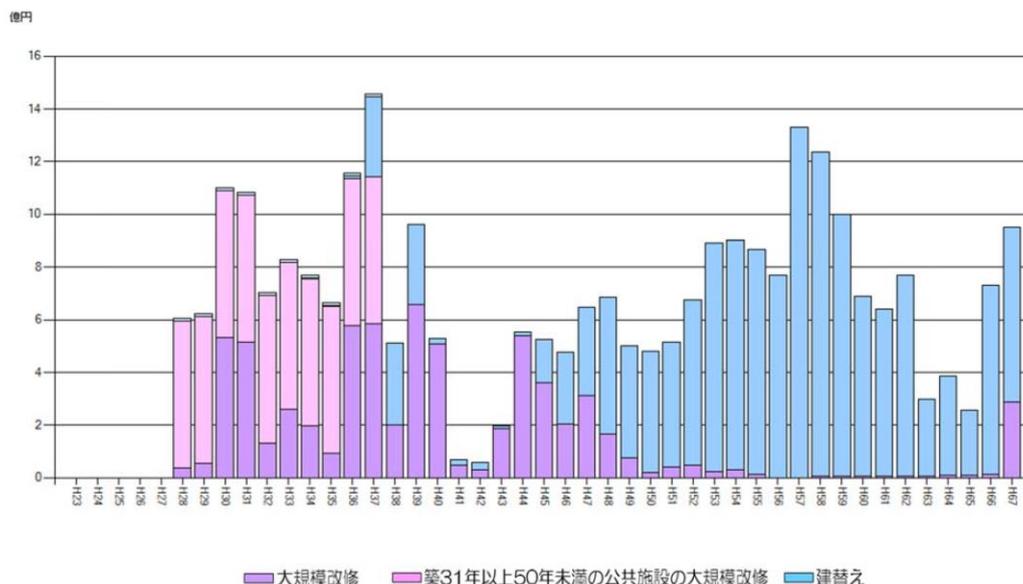
◇計画期間

平成 29 年度（2017 年度）～令和 8 年度（2026 年）の 10 年間

◇建物系公共施設の更新費用の見通し

全て大規模改修を実施し、現状規模のまま建替えを行った場合、今後 40 年間で 278.9 億円（年平均 7.0 億円）かかる見込みです。

■今後 40 年間の更新費用の見通し



◇公共施設の維持管理方針

■基本方針

- 【建物系公共施設】 1. 既存施設を最大限有効活用する
 2. 新規施設の建設は必要最小限にする
 3. 施設にかかるコストを削減する
- 【インフラ施設】 1. ライフサイクルコストを縮減する
 2. バランスを考えて、新設、改修を行う
 3. 資産を安全に長期的に活用する

■維持管理方針

項目	実施方針
1) 点検・診断等	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に劣化診断を実施し、施設等の利用状況、経年劣化の状況、外的負荷による性能低下状況及び管理状況を把握する。 安全性、機能性、環境性、経済性を主な診断項目とし、施設間における保全の優先度を判断する。
2) 維持管理・補修・更新等	<ul style="list-style-type: none"> 全体対象施設の点検・診断を実施することにより、修繕等の必要な対策を適切な時期に効率的に実施する。 改修や更新の時期が重ならないよう、計画的に事業を実施し、財政負担の平準化を図る。
3) 安全確保	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の安全性を確保し、資産や情報を保全するため、点検・診断等により高度の危険性が認められた公共施設等や老朽化等により供用廃止され、今後とも利用見込みのない公共施設等に対しては、スピード感をもって修繕等の安全対策や除却等を推進する。
4) 耐震化	<ul style="list-style-type: none"> 「南関町耐震改修促進計画」に基づき、耐震化を進める。 防災拠点となる施設で耐震性がない施設は、令和2年度までに耐震化する。
5) 長寿命化	<ul style="list-style-type: none"> 診断と改善に重点を置いた総合的かつ計画的な管理に基づく予防保全により、公共施設等の長期使用を図る。 長寿命化が必要と判断された施設は、経済的かつ効果的で、環境負荷の低減や災害対応にも配慮した予防保全措置を講じる。
6) 統合・廃止	<ul style="list-style-type: none"> 将来人口の見通しや行政コストの削減を考慮し、施設の総量や配置の適正化を図る。 ただし、施設の統廃合や遊休施設の活用については、住民、議会等と協議しながら検討する。
7) フォローアップ	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に計画の進捗状況を確認し、必要に応じて適宜計画の見直しを行う。 住民への積極的な情報開示を行い、公共施設等の現状や課題を共有しながら計画を推進する。
8) 住民との情報共有	<ul style="list-style-type: none"> 計画の推進に当たっては住民との問題意識や情報の共有が不可欠であるため、公共施設等のあり方について住民目線に立った幅広い議論を進めていくとともに、公共施設等に関する情報について、各種広報媒体等を通じ、これまで以上に積極的に開示する。
9) 民間活力の導入	<ul style="list-style-type: none"> 適切な管理・運営方法を実現するため、公共施設等の更新を行う際には、PPP/PFIなどの民間活力の活用可能性についても十分検討する。

6. 第三期住んでよかったプロジェクト推進事業（令和3年4月）

本町においては、町民生活の支援及び移住・定住の支援に向け、以下のような「住んでよかったプロジェクト推進事業」を実施しています。

◇第三期推進事業の期間

令和3（2021）年4月1日～令和8（2026）年3月31日の5年間

◇事業の概要

あらゆる世代を対象に、「住んでよかった」「住み続けたい」「住んでみたい」と思えるよう、定住促進を柱としたさまざまな施策に取り組んでおり、第三期推進事業では以下の事業を実施しています。

事業名	要件等	助成内容
定住住宅取得等補助金	○住宅の新築・購入・リフォームをした世帯内に65歳以下の者がいる人 ※リフォームの場合は世帯員の増加があること	○新築・新築住宅の購入 50万円 (加算25万円) ○中古住宅の購入 25万円 (加算25万円) ○リフォーム 上限50万円 (加算上限25万円) ※町内登録事業者利用の場合は加算あり
関所っ子応援金	○出生した子または児童・生徒の保護者	○出生時 10万円 ○小学校・中学校・高等学校入学時 各5万円
空き家バンク事業	○空き家・空き地（宅地）・空き店舗の所有者等	○ホームページでの物件情報の提供、紹介
タクシー料金助成事業	○運転免許証を持っている人がいない世帯で、おおむね65歳以上の人または65歳以下で障害者手帳等を持っている人	○タクシー利用料金の1/2 (月6回まで)
乗合タクシー事業	○原則どなたでも（要事前登録） ※利用の際は電話予約が必要	○町内 300円/回 ※免許返納者は返納日から6ヵ月間無料 ※小学生、障害者手帳等を持っている人 150円/回
就職激励金	○新卒1年以内に正社員として就職した人	○5万円
空き店舗等活用開業支援事業	○空き店舗や空き家等を活用して開業する個人または法人等	○開業に伴う改修や備品購入等の経費の1/3（上限30万円） ※要事前申請
子ども用品リユース事業	○譲渡者：町内在住・在勤者 ○譲受者：町内在住者	○子ども用品等のリユース推進
家庭内保育世帯応援金	○満4ヵ月から満6歳までの未就学の子どもを家庭内で保育している保護者	○満4ヵ月～1歳未満 1万円/月 ○満1～6歳 5千円/月

事業名	要件等	助成内容
保育料助成金	○保育所等に在籍する子どもの保護者	○納付した保育料の1/2
放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）	○保護者が労働等により昼間家庭にいない町内の小学校に就学する児童	○月～土曜日、春冬休み 5,000円/月 ○夏休み 一律11,000円 ※別途、入会手数料（保険代）、おやつ代等の負担あり
子どもインフルエンザ予防接種助成金	○生後6ヵ月から高校生までの子どもの保護者	○1回あたり上限2千円（年2回まで）
こども医療費助成金	○新生児から高校生までの子どもの保護者	○医療費のうち保険診療費の自己負担分
小中学校給食費補助金	○町内の小中学校に就学する児童・生徒の保護者	○児童・生徒1人につき2千円/月
町外・小中学校等給食費等補助金	○町外の小中学校等に就学する児童・生徒（市区町村立を除く）の保護者	○児童・生徒1人につき2千円/月
家庭用再生可能エネルギー導入促進事業助成金	○新たに太陽光発電用蓄電池、太陽熱温水器、薪・ペレットストーブ等を購入した人	○地球温暖化対策として家庭内に導入する機器の設置費用の1/5（上限5万円）※要事前申請
ファミリー・サポート・センター事業	○生後6ヵ月から小学生までの子どもの保護者（要事前登録）	○家庭で保育できない時に預かってほしい人（協力会員）との仲介を行う。 【子ども一人の1時間の利用料金】 ・月～金曜日 午前8時～午後5時 300円 午前6～8時、午後5～8時 350円 ・土曜日・日曜日・祝日 350円
くらしいきいきサポート事業	○高齢者等で食事の用意が困難な人	○みまもり弁当宅配（弁当の配達と併せて見守りを行う）
	○お住まいの修繕等にお困りの人	○お住まいのお悩み解消し隊（登録事業者の中から相談内容に応じた事業者をあっせんする）

第3章 住民意識調査結果

1. 調査概要

■ 調査の主旨	○これからの時代にあった新しいまちづくりを進めるため、また、各地域の特性や伝統等を継承しながら今後も維持していくための指針となる構想を策定するため、住民の意向を把握する。
■ 調査方法	○アンケートによる意識調査 ○有効回答者数：310名
■ 調査対象	○18歳以上の町民（1,000人を無作為抽出）
■ 調査時期	○令和元年8月
■ アンケートの設問概要	1. 性別、年齢、居住地等、回答者の属性に関する設問 2. 現在の居住地域の魅力等に関する設問 3. 新庁舎周辺の整備と今後のまちづくりに関する設問

2. 住民アンケートの結果

(1) 回答者の属性（有効回答者数 340人）

1) 男女比

○男性：女性＝45%：55%

2) 年齢層

○全体では、年齢の偏りがなく各年代がほぼ均等な割合で回答。

○第一小学校区の回答者は、各年代がほぼ均等な割合となっている。

○第二小学校区の回答者は、70歳代・80歳代が37.7%を占め、30歳代以下の若い世代は21.4%。

○第三小学校区の回答者は、40歳代以下が4校区の中で最も多い50.7%。

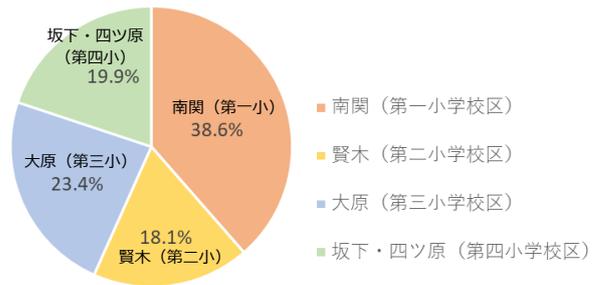
○第四小学校区の回答者は、30歳代が23.9%、70歳代も23.9%で、中間の40～60歳代の回答者の割合が少ない。

回答者の年齢構成



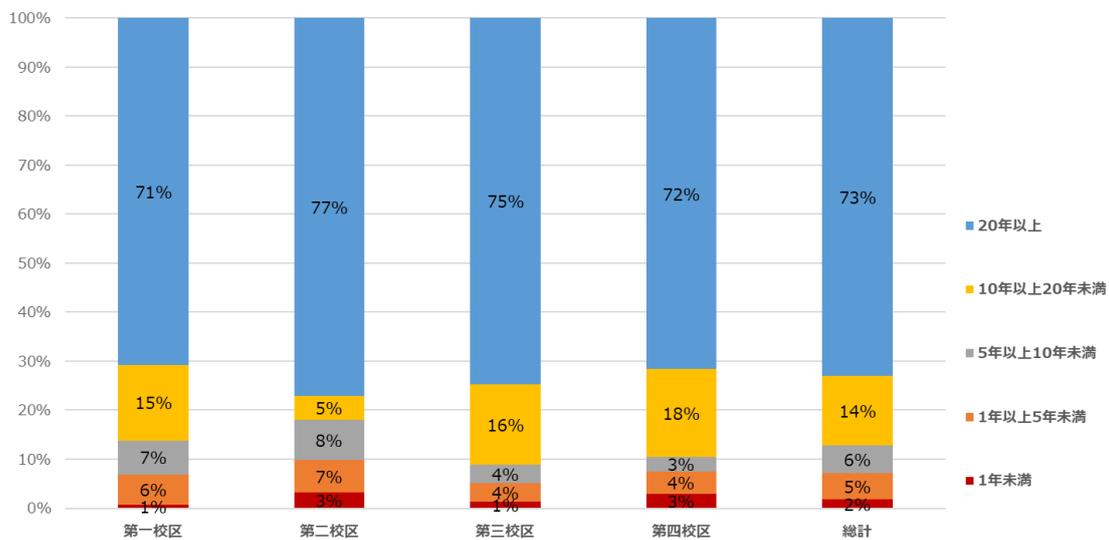
3) 居住地区

- 中心部の第一小学校区が全体の約4割。
- その他の校区は各地区ともに概ね2割程度で居住地区の大きな偏りは見られない。



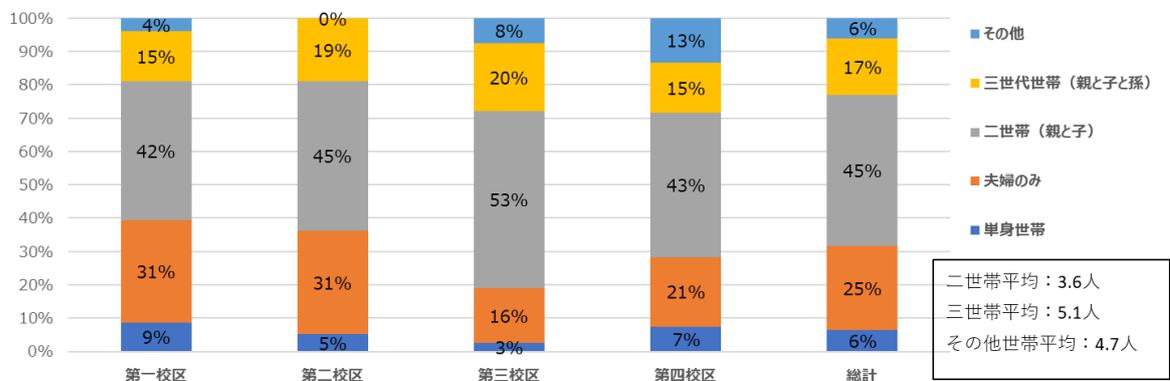
4) 居住年数

- 各小学校区とも、居住年数20年以上が多い。
- 中でも第二小学校区は20年以上が77%で、居住年数が20年未満の新しい居住者は少ない。
- 第四小学校区では、居住年数が10年以上20年未満の居住者が18%と、他校区に比べて多い。



5) 世帯構成

- 第一小学校区及び第二小学校区では、「夫婦のみ」の世帯と「親と子」の世帯を合わせて73%~76%。
- 第三小学校区は「親と子」の世帯が53%と多く、回答者の年齢構成を考慮するとファミリー世帯が多いものと推測される。



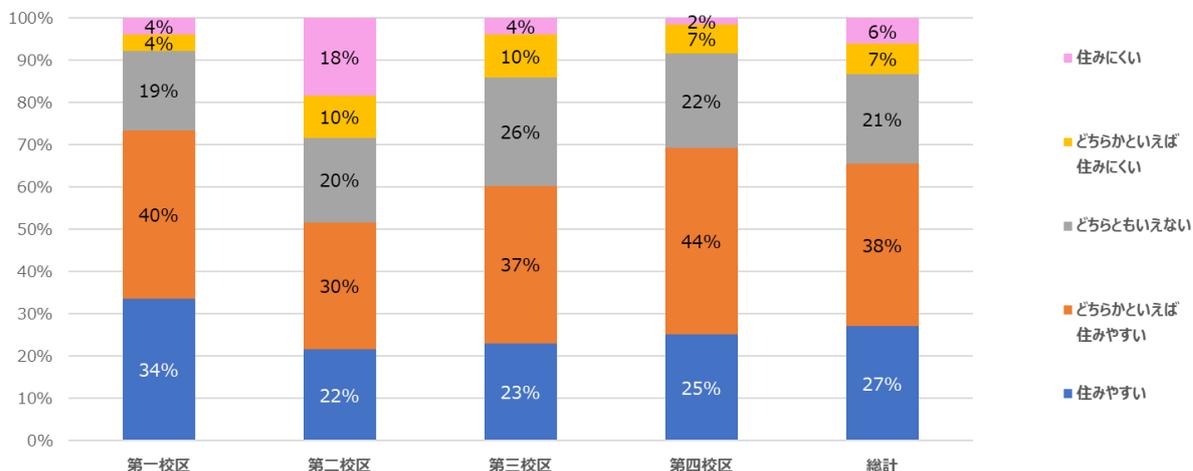
(2) 住みやすさや地域の魅力に関する意識

1) 現在住んでいる地域の住み心地

○全体では「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせて65%。

○「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」の回答が多いのは、第一小学校区（74%）、第四小学校区（69%）、第三小学校区（60%）、第二小学校区（52%）の順。

○第二小学校区では「住みにくい」との回答が18%（約2割）。

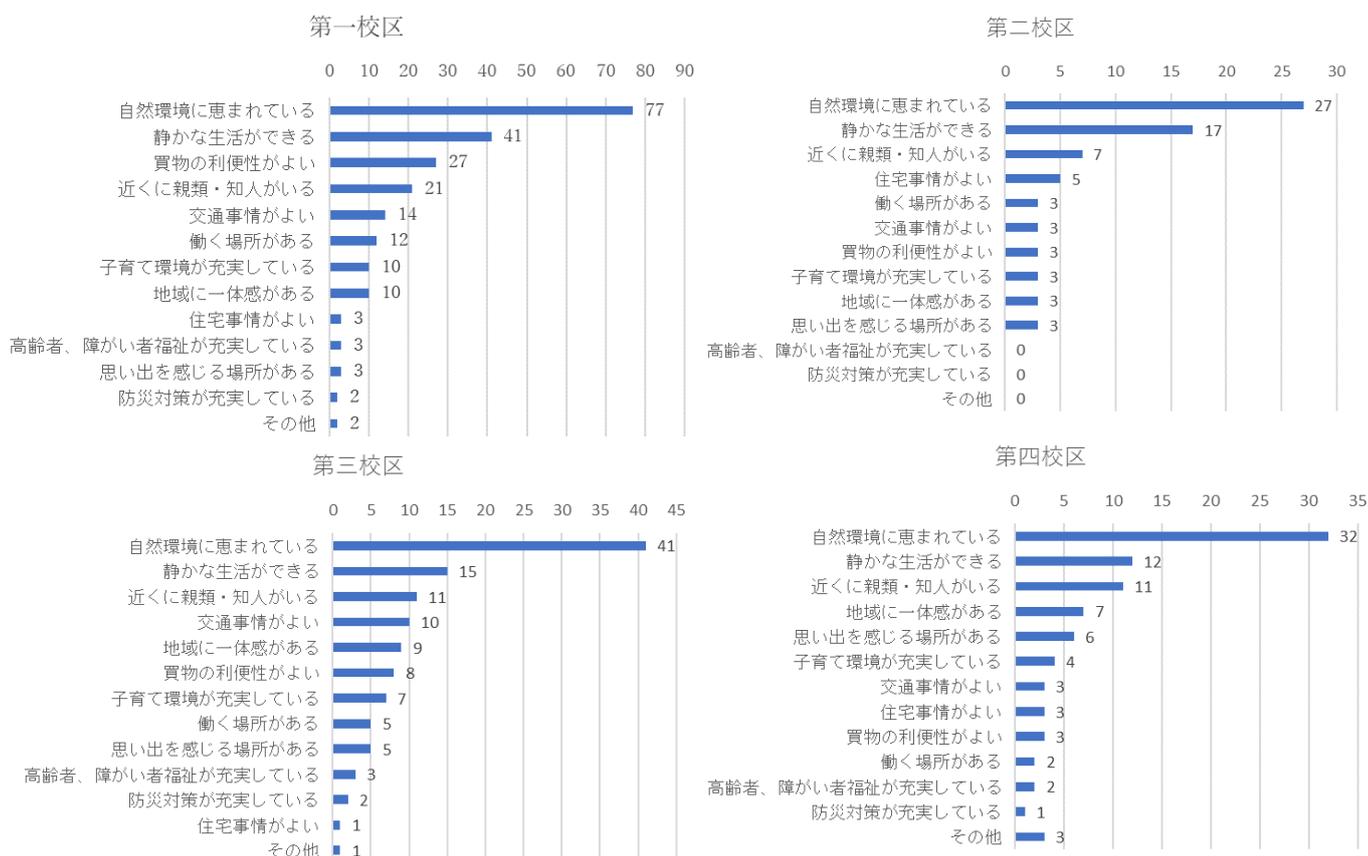


2) 現在の居住地が“住みやすい”と思う理由

○各校区とも、「自然環境に恵まれていること」が第1位、「静かな生活ができること」が第2位。

○第3位は、第二、第三、第四小学校区では「近くに親類・知人がいること」であるが、第一小学校区では「買物の利便性がよいこと」が第3位。

○第4位は、第一小学校区では「近くに親類・知人がいること」、第二小学校区では「住宅事情がよいこと」、第三小学校区では「交通事情がよいこと」、第四小学校区では「地域に一体感があること」。

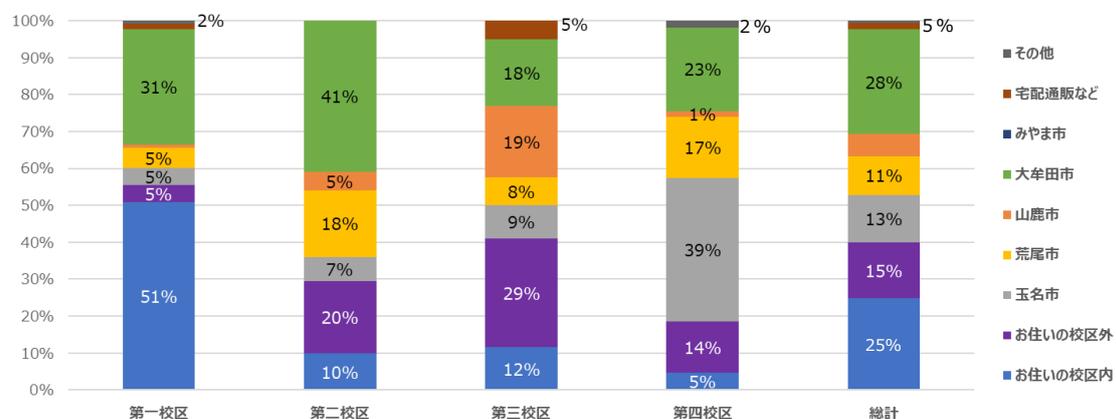


(3) 生活圏域等に関する意識

1) 日常的な買い物の場所と使用する交通手段

○第一小学校区のみ「自校区内」が51%。

○第二小学校区では「大牟田市」が41%、第三小学校区では「町内の他校区」が29%、「山鹿市」が19%、第四小学校区では「玉名市」が39%で、それぞれの地区の隣接市に買い物に行っていることが伺われる。

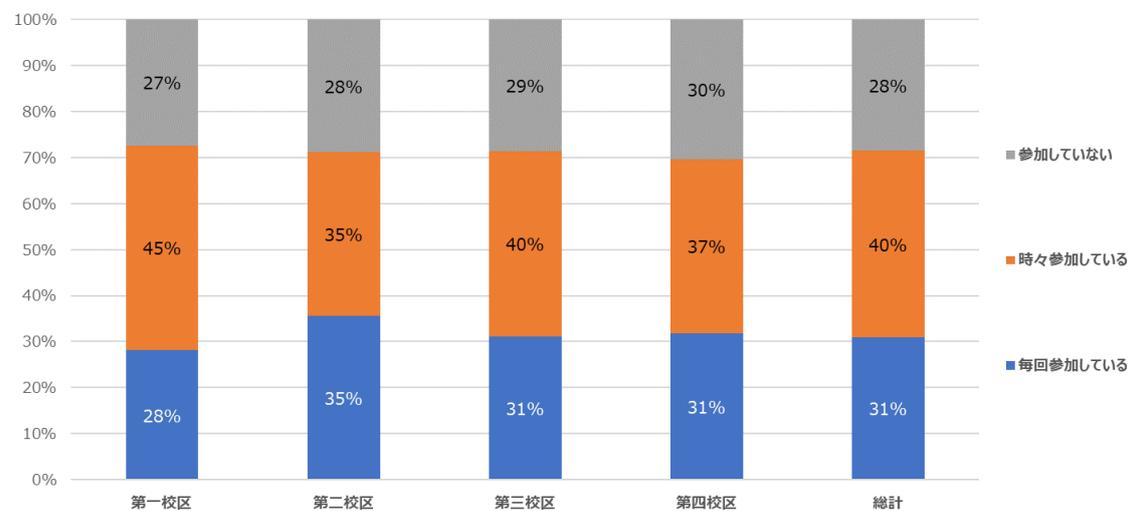


2) 現在住んでいる地域の行事への参加

○各小学校区とも、概ね7割が「毎回または時々参加している」と回答。

○中でも、第二小学校区では35%が「毎回参加している」と回答。

○第一小学校区では45%が「時々参加している」と回答。



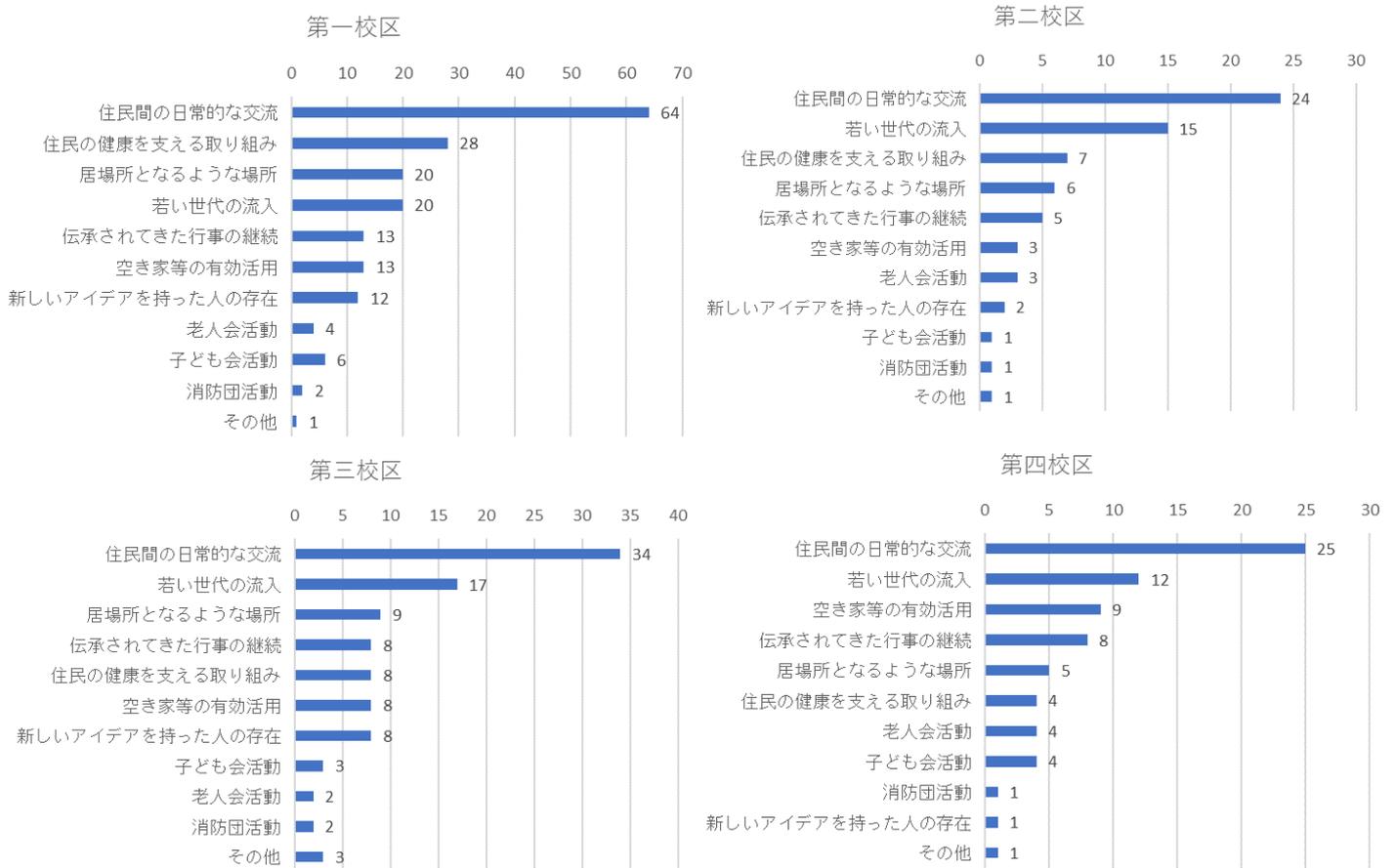
3) 現在住んでいる地域の活性化のために必要と思うこと

○各校区ともに「住民間の日常的な交流」が第1位。

○第一小学校区では、第2位に「住民の健康を支える取り組み」、第3位に「居場所となるような場所」。

○第二小学校区と第三小学校区では、第2位に「若い世代の流入」、第3位に「住民の健康を支える取り組み」。

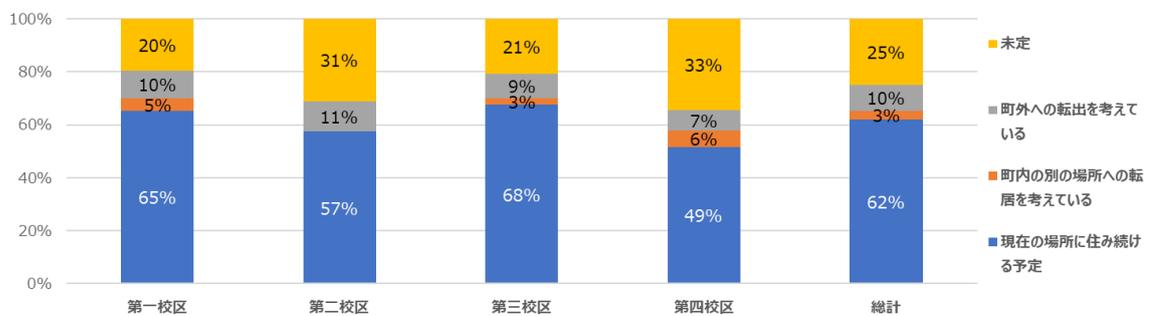
○第四小学校区では、第2位に「若い世代の流入」、第3位に「空き家等の有効活用」。



(4) 将来の居住に関する意識

○「現在の場所に住み続ける」との回答が多かったのは、第一小学校区(65%)と第三小学校区(68%)。

○「未定」との回答が多かったのは、第二小学校区(31%)と第四小学校区(33%)。



(5) “住み替え”を考えている特徴的な理由

○「町内の別の場所への転居」及び「町外への転出」と回答した人の特徴的な理由を地区別にみると以下のとおり。

<p>■第一小学校区</p> <ul style="list-style-type: none">・結婚（3名）・仕事の都合（2名）・実家に戻る為。旦那の実家へ戻る予定。（2名）・限られた買い物しかできない為（2名）・他の町、村と比べて、介護保険、国保等の保険料額が高い。・街灯が少なく、夜は暗く、防犯上。・産廃処理場を反対してる人が多いのにあまり長くない期間で施行されたときに、ここは田舎で取り残された地域だからだろうと感じたので。南関をもっと大切にしてほしい。・人が住む環境が整備されていない（下水道・道路など）。今は文明社会ですよ、非常に遅れている。・町内の条例や規制に車やバイクのエンジンアイドリング禁止がないため、昼夜や睡眠時に関わらず騒音や排ガスに苦しめられ、近年は、農薬、タバコ、洗濯洗剤や柔軟剤等でも苦しみ、今後一層自然環境や大気や水を守ることを最優先してほしい！・定年退職して勉強するためこの地を選んだから・この団地は1人、2人、人の行動を監視する人物がいる。言い掛かりし、人をまかす人物がいる。何回も問題を起こす人物がいる。
<p>■第二小学校区</p> <ul style="list-style-type: none">・地元に戻る予定があるため・町内も不便ですので、関東地方の娘の所に行く予定です・交通の便が悪い。車の運転が出来なくなったら生活が出来ないので、買い物、病院等、近くにあった方がよい。・高齢になり、バスがないので不自由をしている人がたくさんいる。町内バスはあるが連絡がめんどろ！定期的に時刻表を作り、巡回バスを巡回させるようにすることが必要→老人のひきこもりになる。・空家になっているかも。高齢の為、病院で生活してる方が強いかも（施設に入所出来れば）
<p>■第三小学校区</p> <ul style="list-style-type: none">・結婚（2名）・老後、自家用車を運転できなくなる年齢になった時に買い物や通院に不便。（2名）・夫の地元に戻らなければならない。・職場が遠く、子育てをするようになれば、通勤時間に多く時間をとられたくないから。・健康であれば、現在の場所に住んでいます、認知症等になっていたら施設入居等になるでしょう。・南関町に、年老いて住んで生活していく自信がない。車の運転ができなくなったら、南関町には住めない。・借家（一軒家）があるなら今の住宅から出たい。できれば南関がいいが、今のところ、好物件が少ないので動けない状態。
<p>■第四小学校区</p> <ul style="list-style-type: none">・希望の就職先がない、働く場所がない。（2名）・子育てがしにくそうだから。・交通が不便（仕事）・主人の実家が岱明町です。義母が一人になったので夫はすでに岱明町に住んでいます。私は南関町がいいのですが。・家の新築を考えている。役場や学校が近い場所を考えている。・買い物が不便。公園などもない為。・工場ばかりで商店が一つもないから。

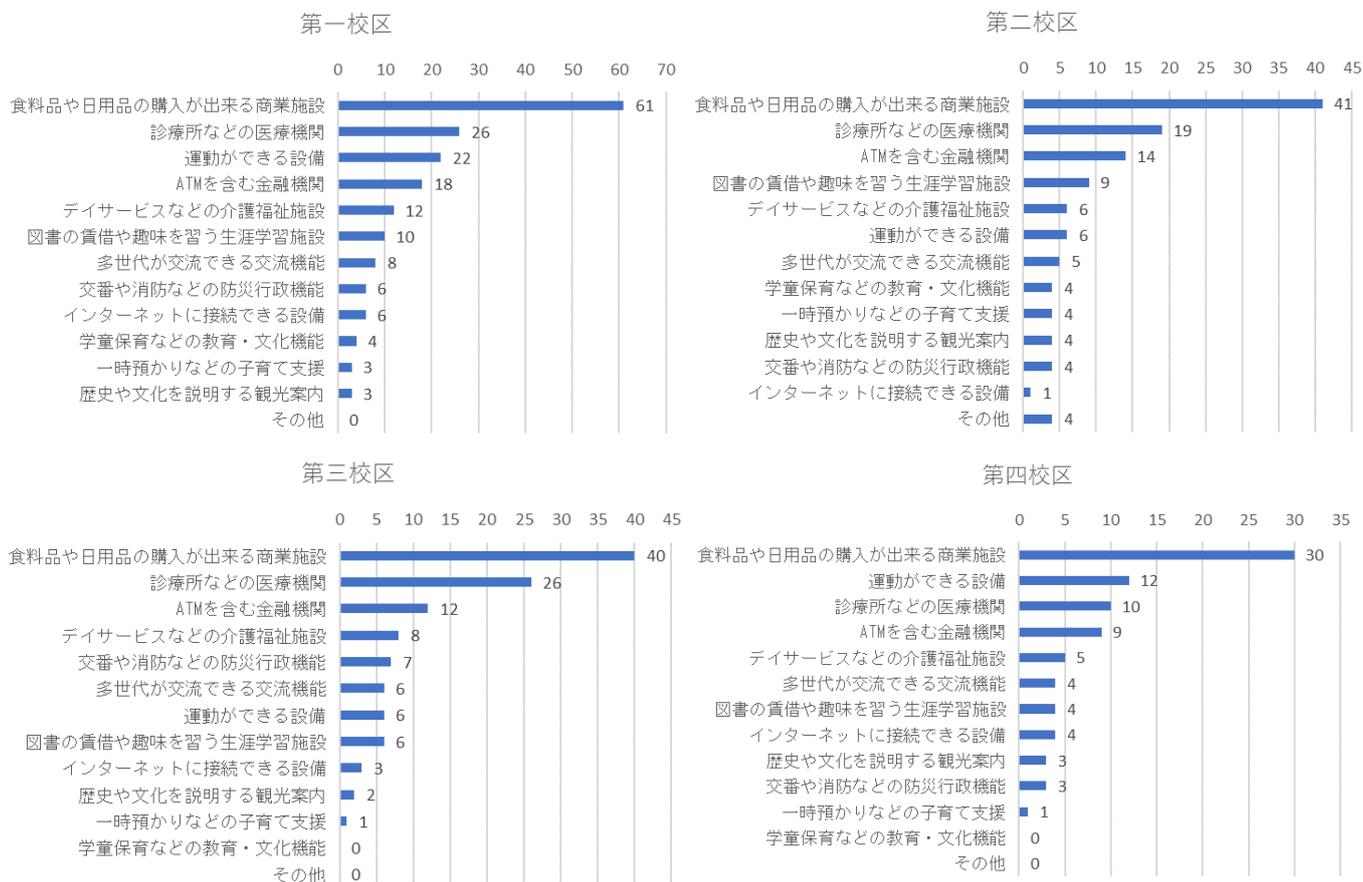
(6) 新庁舎周辺のまちづくりに関する意識

1) 新庁舎周辺にあると良いと思う施設

○各小学校区とも、「食料品や日用品の購入が出来る商業施設」が第1位。

○第四小学校区以外では、第2位は「診療所などの医療機関」であるが、第四小学校区では「運動ができる設備」が第2位。

○第3位にあげられたものは、第一小学校区では「運動ができる設備」、第二及び第三小学校区では「ATMを含む金融機関」、第四小学校区では「診療所などの医療機関」。



2) “うから館” にあると良いと思う場や機能

○各小学校区とも、「住民同士の交流が図れる場所や機能」が第1位。

○第一小学校区では、第2位に「健康の維持・増進を目的とした運動を推進する場所」、第3位に「軽食やその他飲食を提供する設備」があげられている。

○第二小学校区では、第2位に「趣味やサロンの仲間が集まる場所」、第3位に「軽食やその他飲食を提供する設備」。

○第三小学校区と第四小学校区では、第2位に「軽食やその他飲食を提供する設備」、第3位に「趣味やサロンの仲間が集まる場所」。

○「住民同士の交流が図れる場所や機能」「軽食やその他飲食を提供する設備」「趣味やサロンの仲間が集まる場所」の3つは各小学校区とも“ベスト3”。



(7) 今後のまちづくりに関する意識（重要と思うもの）

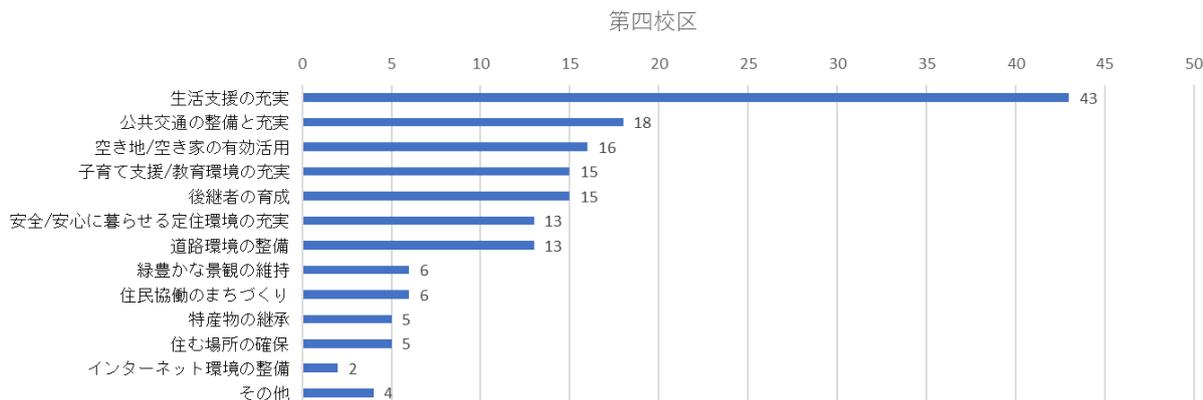
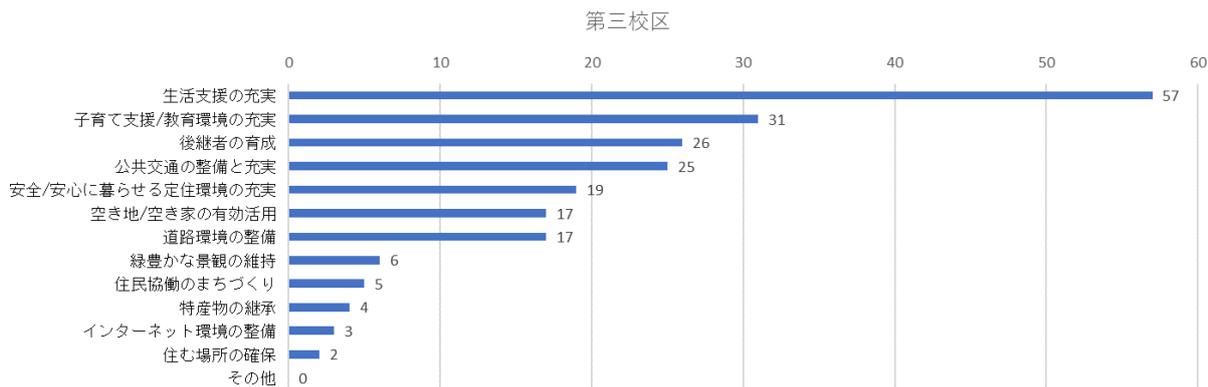
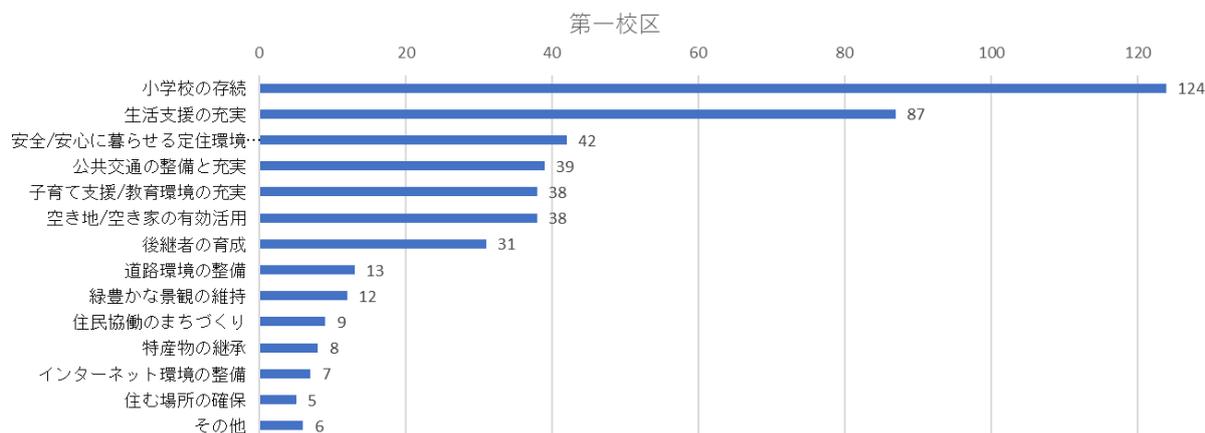
○第1位は、第一小学校区を除いて「生活支援の充実」。

○第一小学校区は1位「小学校の存続」、2位「生活支援の充実」、3位「安全/安心に暮らせる定住環境」の順。

○第二小学校区の2位は「公共交通の整備と充実」、3位は「子育て支援/教育環境の充実」「空き地/空き家の有効活用」「後継者の育成」の3つが同数。

○第三小学校区の2位は「子育て支援/教育環境の充実」、3位は「後継者の育成」の順。

○第四小学校及の2位は「公共交通の整備と充実」、3位は「空き地/空き家の有効活用」の順。



3. 中学生アンケートの結果

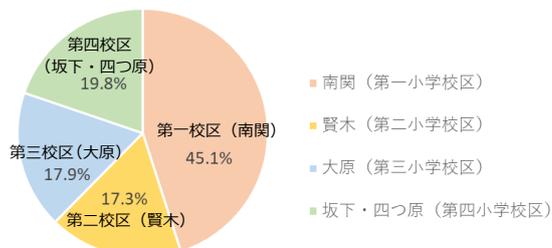
(1) 回答者の属性（中学生 163 名）

1) 男女比

○男子：女子=39%：61%

2) 居住地区

○中心部の南関地区（第一校区）が多く、賢木地区（第二校区）がやや少ないものの、その他の校区は概ね2割程度であり、居住校区に大きな偏りは見られない。

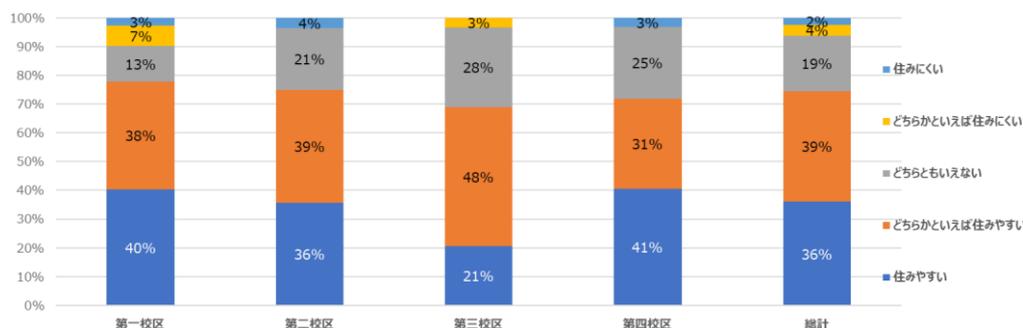


(2) 住みやすさや地域の魅力に関する意識

1) 現在住んでいる地域の住みやすさ

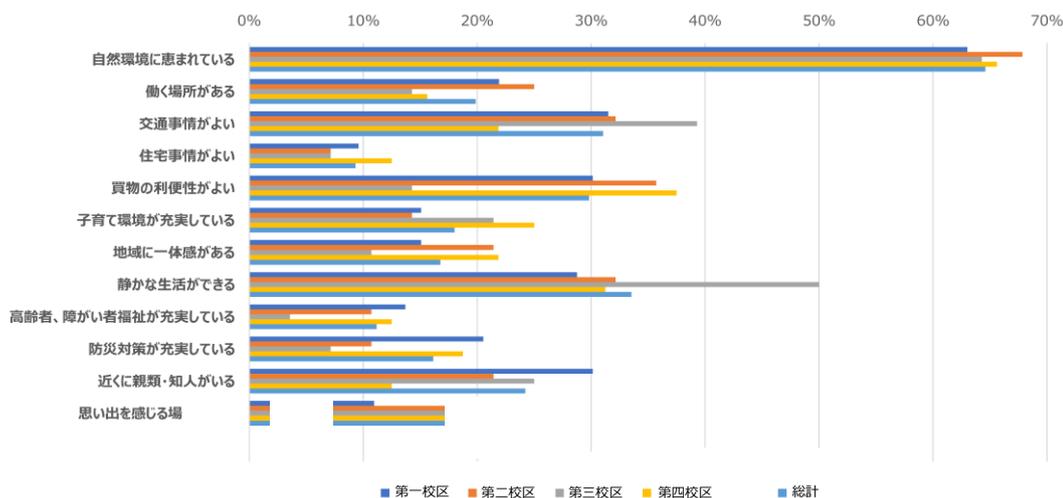
○「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせると、各校区とも7割程度。

○第三小学校区（大原地区）では「住みやすい」との回答が他の校区に比べて少ない。



2) 現在の居住地が“住みやすい”と思う理由

○住みやすいと思う理由として、各校区とも「自然環境に恵まれている」や「静かな生活ができる」「交通事情がよい」といった理由をあげた生徒が多く、「住宅事情がよい」や「高齢者、障がい者福祉が充実している」をあげた生徒は少ない。

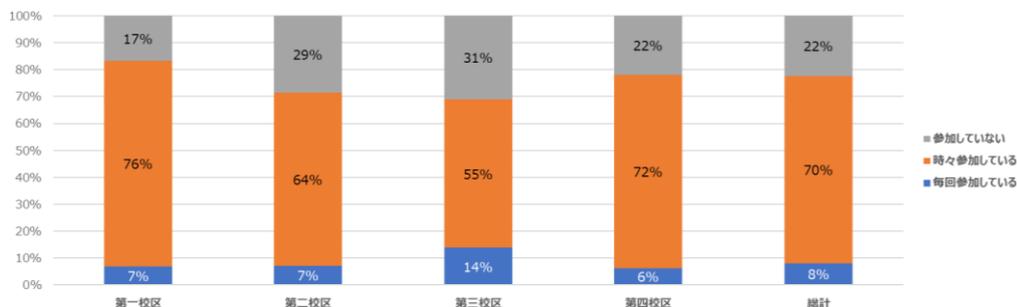


(3) 居住している地域に対する意識

1) 現在住んでいる地域の行事への参加

○各校区とも5割から7割の生徒が「時々参加している」と回答。

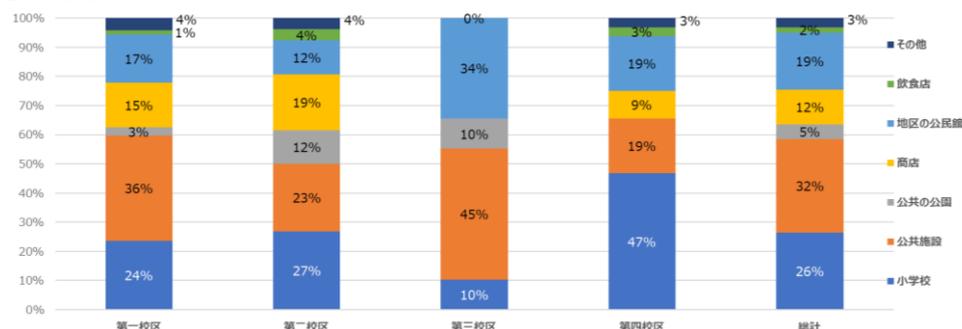
○第三小学校区（大原地区）では「毎回参加している」との回答が他校区と比べて最も多く、「参加していない」の割合も他校区と比べて多い。



2) 地域の人たちとふれあえる場所

○各校区の生徒の多くが「小学校」や「公共施設」と回答。

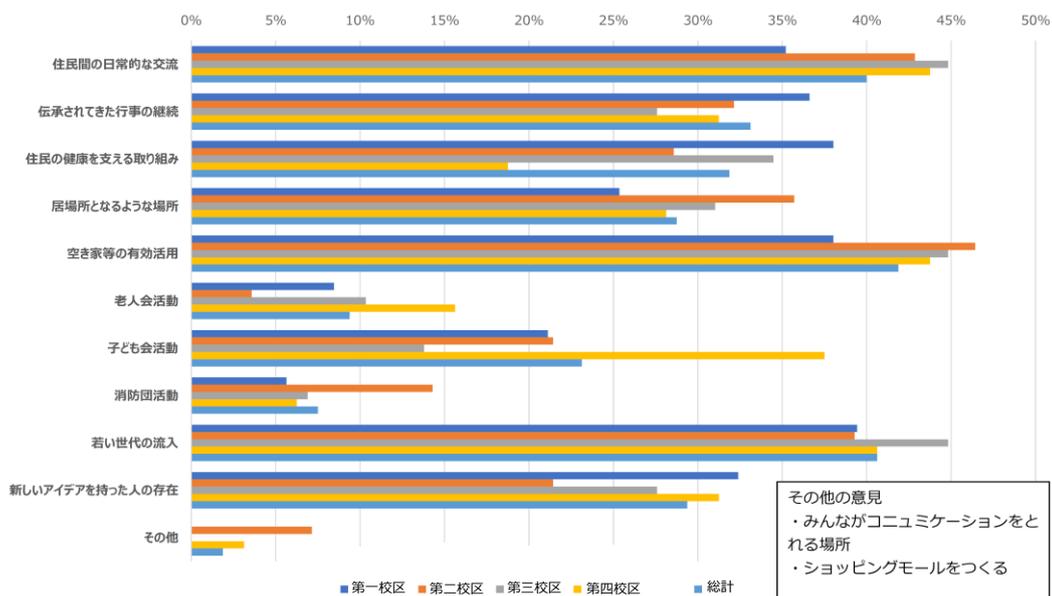
○中でも第三小学校区（大原地区）の生徒は、他校区の生徒と比較して「地区の公民館」と回答した生徒の割合が多い。



3) 現在住んでいる地域の活性化のために必要と思うこと

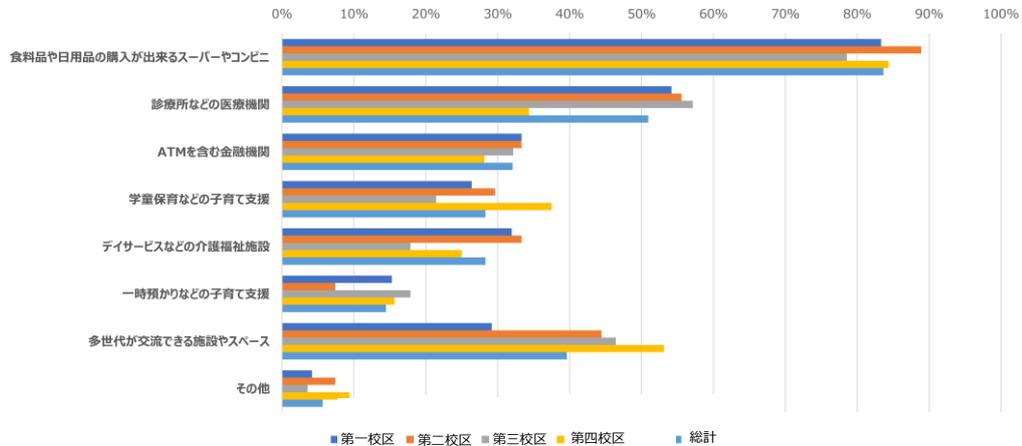
○各校区の生徒が「住民間の日常的な交流」や「空き家等の有効活用」、「若い世代の流入」をあげている。

○また、「老人会活動」や「消防団活動」を除いて、活性化のためにはどの施策も必要だと考えている。



4) 現在住んでいる校区にあると良いと思うこと

○各校区とも「スーパーやコンビニ」、「診療所などの医療機関」、「多世代が交流できる施設やスペース」をあげている。

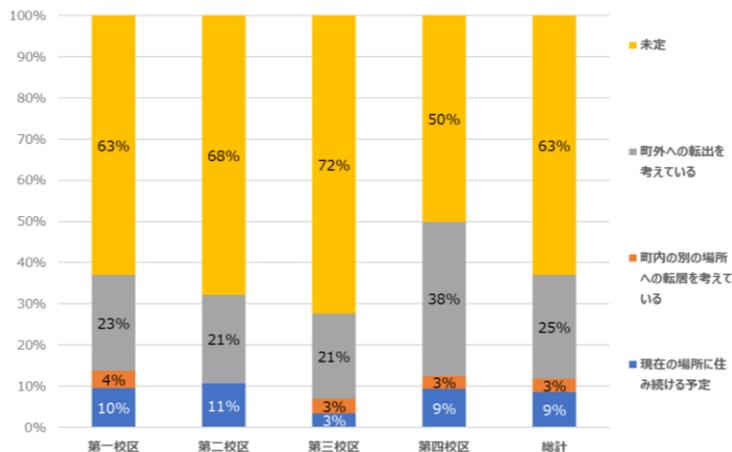


(4) 将来の居住に関する意識

1) 10年後の居住地

○平均して25%（4人に1人）が「町外への転出」を選択。

○中でも第四小学校区（坂下・四ツ原地区）の生徒の概ね4割が「町外への転出」を選択。



2) “町外への転出”を選択した理由

○「町外への転出」を選択した理由は以下のとおり。

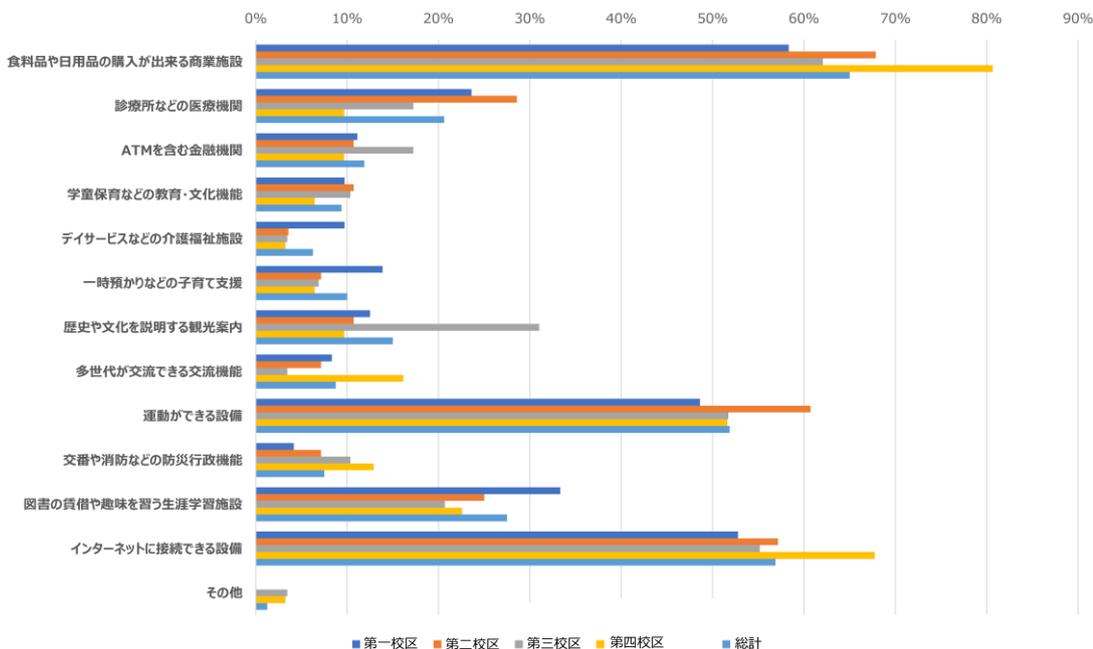
■町外に転出する理由

- ・都会に出てみたい（8名）
- ・熊本を出て仕事がしたいから（6名）
- ・働いて仕事場の近くに住みたいから（5名）
- ・買い物するところが少なすぎる（3名）
- ・自分の将来の職場の事を考えて
- ・市街地にすることで、仕事場所も多く、店も多く、生活が充実するから
- ・美容師になりたいから、都会に行きたい。
- ・進路がもっと遠いところでまわりの環境をしてみたいし、親にも迷惑かけたくないから
- ・将来の夢が町には叶えることが難しいから
- ・南関町に仕事ができる場所が少ない
- ・自分が働きたい仕事が南関にはない
- ・親と話して外の仕事場を見たいと思った
- ・夢があるから

(5) 新庁舎周辺のまちづくりに関する意識

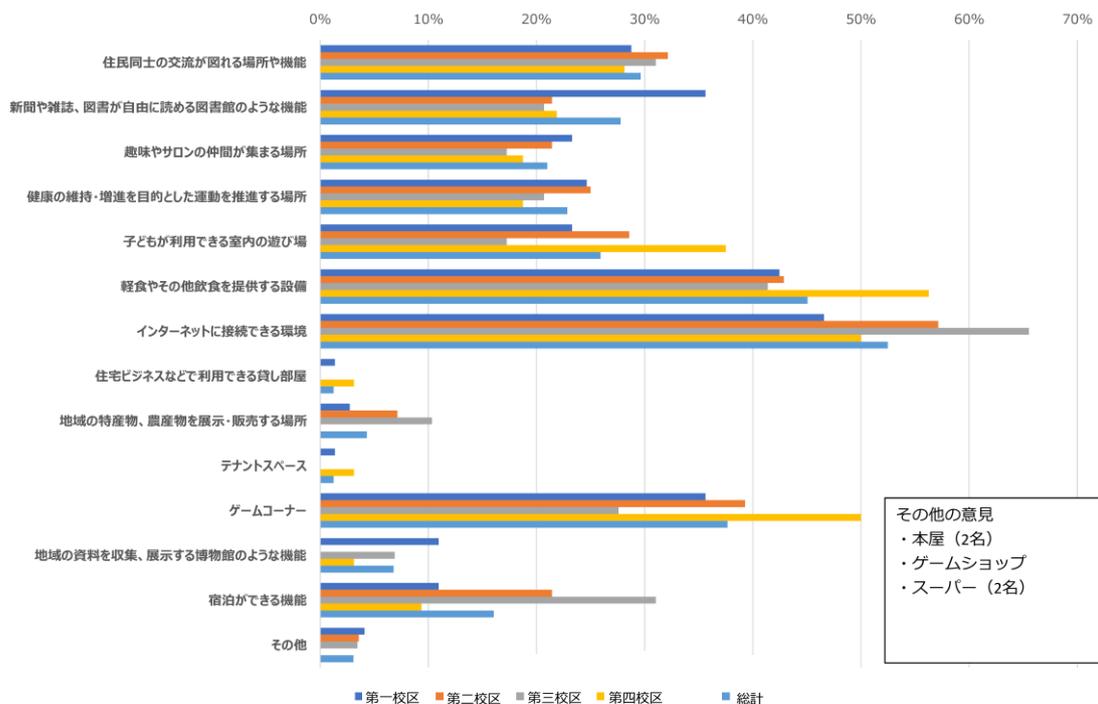
1) 新庁舎周辺にあると良いと思う施設等

○各校区の生徒が、「食料品や日用品等の商業施設」「運動が出来る施設」「インターネットに接続できる設備」を選択。次いで「図書館等の生涯学習施設」。



2) “うから館”にあると良いと思う場や機能

○全体では、「健康の維持・増進を目的とした運動を推進する場所」「軽食やその他飲食を提供する設備」「住民同士の交流が図れる場所や機能」「図書館のような機能」が多い。

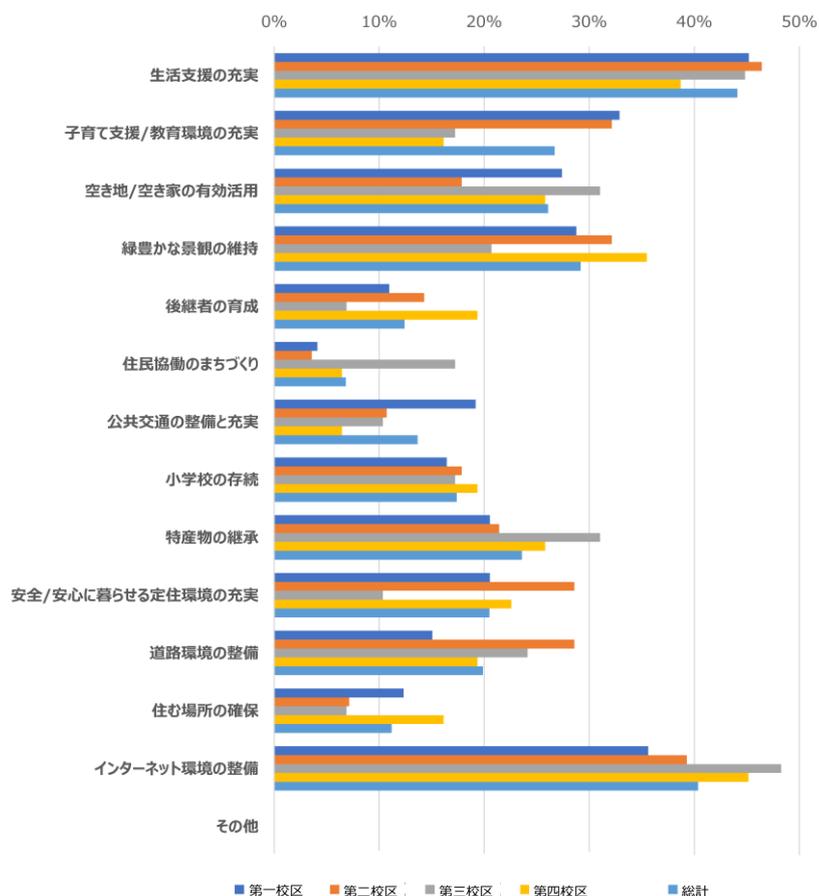


(6) 今後のまちづくりに関する意識

1) 今後のまちづくりに重要と思うこと

○各校区の生徒が「生活支援の充実」や「インターネット環境の整備」を最も多く選択。

○次いで「緑豊かな景観の維持」や「空き地/空き家の有効活用」を選択。



2) その他の意見

○前記の他に、「その他の自由記入欄」に記載された内容は以下のとおり。

■まちづくりに重要と思うこと（その他自由記入への記載事項）

- ・スーパー（2名）
- ・運動施設などをつくってほしい（2名）
- ・もう少しお店を増やしてほしい
- ・大きな病院、交番
- ・事故が少しでも少なくなるようにしてほしい。
- ・足湯などの休憩スペース。
- ・銭湯、飲食店、室内アスレチック
- ・本屋やゲームが売ってあるお店が欲しい。スポーツ店が欲しい。
- ・コンビニを増やしてほしい。喫茶店をつくってほしい（カフェ）。ゆっくりできるところをつくってほしい。ネコカフェがほしい！道路を広くて、きれいにしてほしい（ガタガタです）。大きいショッピングセンターをつくってほしい）。
- ・買い物ができるところを一つ増やしてほしい。緑（自然）を維持してほしい。
- ・緑豊かな所を維持してほしい。スーパーをふやしてほしい。きれいな森にしてほしい。本屋があってほしい。
- ・インターネット環境の整備と南関町にスーパーや飲食店などもっと施設がほしい。

第4章

町内企業従業者アンケート調査結果

1. 調査概要

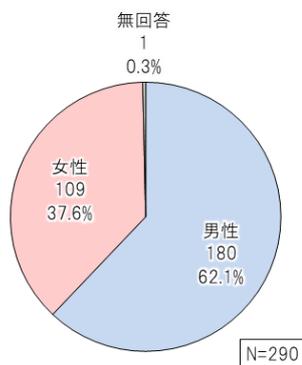
■ 調査の主旨	○これからの時代にあった新しいまちづくりを進めるため、また、各地域の特性や伝統等を継承しながら今後も維持していくための指針となる構想を策定するため、住民の意向を把握する。
■ 調査方法	○アンケートによる意向調査 ○企業・職員による配布、回収（配布数：290票・有効回収数 290票）
■ 調査対象	○町内の企業従業者（184人）及び役場職員（106人）
■ 調査時期	○令和3年9月
■ アンケートの設問概要	1. 回答者の属性、世帯及び住まいの状況 2. 今後の住替え意向 3. 今後のまちづくりに関する提案、意見

2. アンケート結果

(1) 就業者の属性、世帯及び住まいの状況

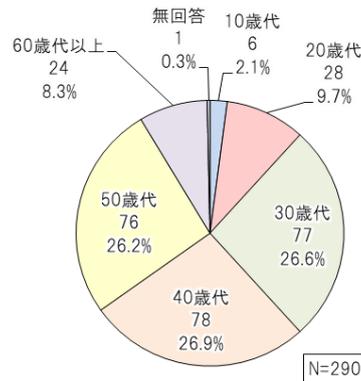
1) 男女比

○男性：女性＝62%：38%



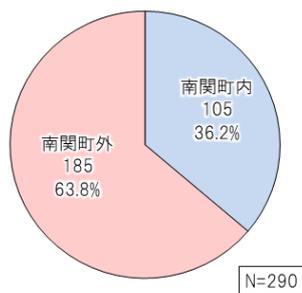
2) 年齢層

○10代・20代は合わせて12%、30代から40代がそれぞれ26～27%、60歳以上が8%。



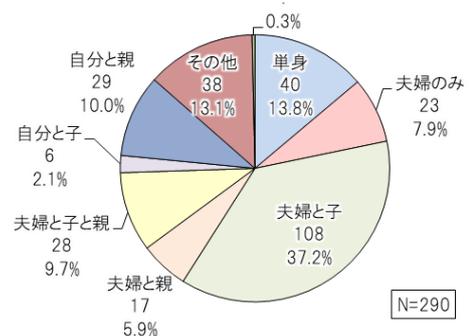
3) 現在の居住地

○町内：町外＝36%：64%



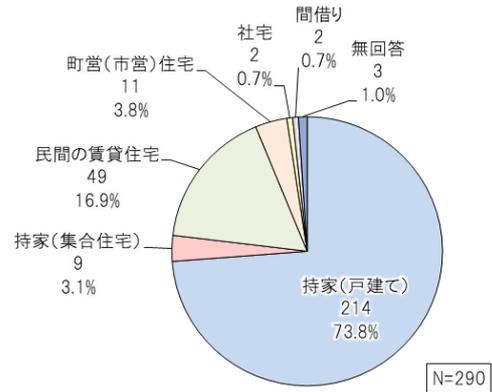
4) 世帯の状況

○夫婦と子のファミリー世帯が最も多く37%、次いで単身世帯が14%、夫婦と子と親10%、自分と親（親との同居）10%、夫婦のみの世帯8%。



5) 住まいの状況

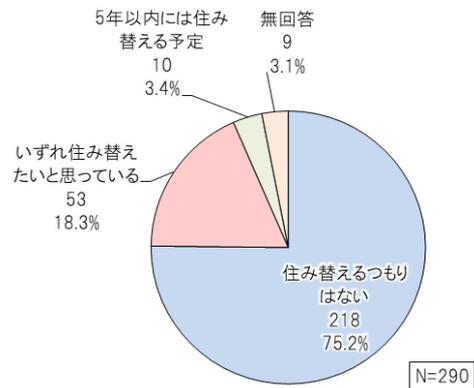
○持家（戸建て）が最も多く 74%、次いで民間の賃貸住宅 17%、町営（市営）住宅 4%、持家（集合住宅） 3%。



(2) 転居意向

1) 転居等の意向

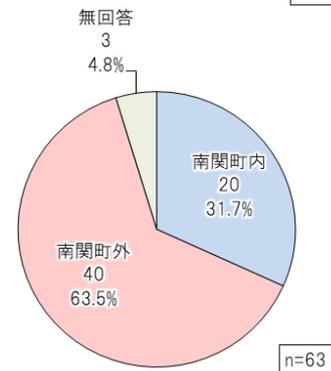
○持家（戸建て+集合住宅）が概ね 8 割（77%）を占めているため、転居の意向があるのは 22%（いずれ住替えたいと思っている 18.3%、5 年以内に住み替える予定 3.4%）。



2) 予定または希望の転居先

○町内：町外 = 32%（20人）：64%（40人）
 ○町外 40 人の具体的な希望先は以下のとおり。

- ・大牟田市 6人
- ・玉名市 5人
- ・荒尾市 4人
- ・熊本市 4人
- ・山鹿市 2人
- ・福岡市 2人
- ・未定 17人



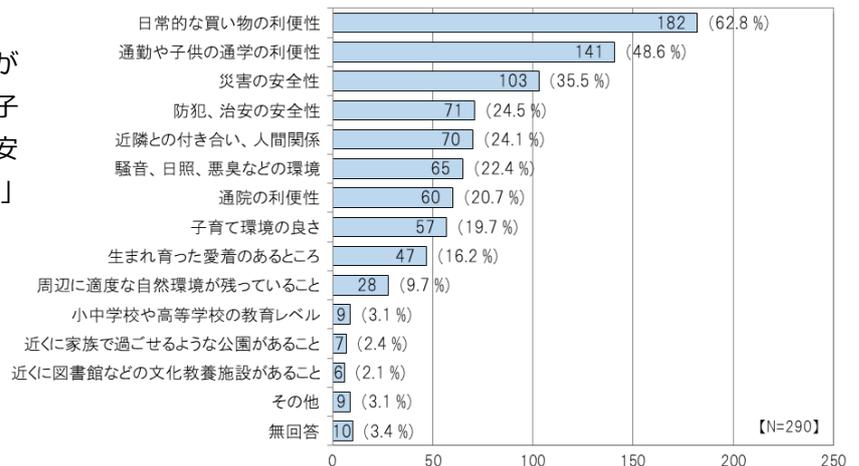
3) 南関町以外に住もうと思う理由

利便性が良いところに住みたいから (12人)	○利便性がない(3人)
	○交通の便が悪いので、駅が近いところに住みたい
	○立地条件がいい為
	○高齢になったとき生活しやすい環境を望む
	○車を運転できなくなった時に住みにくいと思う
	○1人暮らしになったときに生活に不安があるため
	○買い物・病院など公共交通機関を利用できる場所
	○生活環境が整っているから
	○南関町には遊ぶところ、買い物をするところ、休憩するところがない。
○周りに何も無いから	
生まれ育ったところに住みたいから (4人)	○出身のため
	○生まれ育ったところだから
	○自分の地元
	○実家が熊本市のため

現在のところに住み慣れたから (3人)	○住み慣れたところだから ○住み慣れていて便利だから ○玉名市に住んでいるから
子どもの学校のため (2人)	○子の学校等の都合 ○子どもの学校が遠くなる。そのままの市がいいから(電車通学、駅に近いところがいいから)
主人の都合で (2人)	○主人の実家が町外のため ○夫の希望
水害があるから (2人)	○住宅の周りがこれまでの雨などで浸食し、危険を感じる。以前住んでいた。 ○昨年の大雨で床下浸水して怖いから
その他(8人)	○南関は仕事場で住み替えは自由に行い、子供と住みたい為 ○海が近く日本海側で比較的都会で、病院や買い物店が近いところが良いです ○身内の財産管理のため ○家庭の事情 ○見分広めるため ○ライフスタイルに合わせて生活してみたい ○住める選択肢が多いため ○職場が南関町にあるため ○仕事場に合わせる

4) 住まいを選ぶときの条件

○「日常的な買物の利便性」が最も多く、次いで「通勤や子供の通学の利便性」「災害の安全性」「防犯、治安の安全性」の順。



(3) 南関町のまちづくりへの提言

1) 南関町の気になるところ

○「商業施設が少ない」が38人で最も多く、次いで「公共交通が不便」が35人。

商業施設が少ない (38人)	○商業施設等が少なく不便。車がないと生活が不自由。買い物はほぼ町外に出るしかない。(22人)
	○食料品を買えるスーパーとかが少ない。日用品の買い物町内では揃えられない。(11人)
	○大型ショッピングセンター等がない為、近隣の市街地まで出かけなければいけない。(5人)
	○飲食や出前ができる店が少ない。(5人)
	○小売店・外食店のチェーン店が少ない。(2人)
	○コンビニが少ない。(2人)
	○買い物できる場所が少ない。ビックオークはあるが、他と比べると値段も高い。ほかにスーパーはないので競争するところがないため高齢者に不親切だと思う。
	○特産品のそうめんやあげ料理を食べられるお店がない。
	○購入できる食材が限られている(種類が少ない)。
	○ドラッグストア等の日用品を買う店がない。
	○町内にディスカウントストアがない。
	○国道443号線沿いがもたたりない。
	○電子マネーの普及が進んでおらず出遅れている。
	○銀行ATMが少ない。
	○そこまで栄えていない。
○何も無い。	

公共交通が不便 (35人)	○公共交通の利便性が悪い。交通の便（バス・駅）。バスの路線減少。交通インフラが乏しい。自家用車がないと生活しにくそう。交通の便の悪さ、どこに行くにも車が必要。車がないと移動ができない。車がないと何をやるにも不便。商業施設が少なく、近隣へ出向くが車が必要。（16人）
	○買い物に不便で交通機関が少ないため、高齢者の方は不便と思います。買い物に行くのが少し不便。車がないと買い物も行けず、不便である。車がないと買い物にも行けない（特に夜間）、年寄りが暮らしにくい。ちょっとした物は町内で手に入るが、それなりに買い物をしようとすると町外まで出ないといけないうので、高齢の方ほど住みづらいと思う。高齢になったときの移動手段に不安がある。（8人）
	○交通が不便。運転をしなくなった際に病院などの通院を考えると厳しい。車の運転ができなくなったらとたん困る。通勤・通学、通院、買い物等に行く際に自家用車以外の移動手段が少ないため運転ができない人にとって移動は不便である。利便性で考えると他市町村に頼らざるを得ないところ。（5人）
	○生活がしにくい。不便。（3人）
	○公共交通機関が減り、運転免許がない人には住みにくい。施策が現状に合っていない。（一緒に住んでいなくても）家族がいなくてお年寄りだけの生活は難しい。（2人）
	○駅がない（2人）
	○買物が不便。
空き家・空地、耕作放棄地が増加 (12人)	○良好な農地の耕作放棄、荒廃農地が増加。（5人）
	○メガソーラー等が目立ち、今後の自然環境が心配になる。（2人）
	○空き家が増加している。限界集落の危惧。（2人）
	○空きアパートが多い。
	○空き家や耕作放棄地、管理がいき届いてない山林など年々増加していっているところ。 ○耕作放棄が増えているので、規制緩和して民間で買い取るなどで米づくりの継続により食糧自給率を維持する。
人口減少、過疎化、少子・高齢化 (10人)	○人口減少（5名）
	○人口が減少し、近隣の商店が減っている点。
	○人口減少、高齢化
	○子どもが少ない 子育て世代への対策が少ない
	○過疎化が進行しているところ ○若者が少ない。
災害、治安、安全性 (9人)	○街灯の老朽化で夜とても町内全体が暗く感じます。（4人）
	○ここ近年のTV放送で洪水や地滑りが発生しやすい印象がある。
	○大雨や台風等の際に倒木する箇所が多い。
	○大規模な太陽光開発が次々に行われているところ※現在も雨で土砂災害が起きているが今後が不安である。
	○雨で毎回同じ所が浸る。 ○夜交番が不在（？）のため治安が不安。
医療機関が少ない (9人)	○病院等が少ない。（3人）
	○小児科等の病院が少ない。（2人）
	○医療環境が不便。（2人）
	○眼科・耳鼻科などの専門病院が欲しい ○救急だと大牟田市や久留米市まで行かないといけないう。
余暇を楽しむ施設が少ない (7人)	○娯楽が少ない
	○遊興施設がない
	○自然が多いだけでそれを活かした施設が少ない
	○子供を遊ばせられるところが少ない。（3人）
	○若者が集まれる施設が少ない。
	○人が集まれる公園が少ない。 ○「緑にいきづく町」とあるが、山や田畑ばかりで多くの人々がふれあえる自然がない（整備された河川、自然の景観等）

人間関係 (7人)	○田舎特有の人間関係（噂好き・仲間意識）
	○田舎独特の近所付き合いが面倒。不自由・不便すぎる。
	○昔ながらの風習が根強いところがある。
	○地域においていろいろな行事が多い。他人へのお節介等が多い。
	○挨拶をしない、謝ることができない人が多いこと
	○住民のよそ者受け入れない排他的な姿勢
	○我田引水の者が多く、協力的発想力が欲しいところ（他人の批判や揚げ足取りなところ）
町の中心核や観光 の場がない 知名度が低い (6人)	○高速からグリーンランドへの通り道 ここが南関のメインってところがわからない。せっかく南関あげや そうめんなどの名物があるのにもったいない。
	○田舎だけと便利がいい（車）が生かされず通過点になっている。
	○観光アピールできるところが少ない
	○観光名所がない。
	○知名度の低さ
○合志市に住んでいるが近隣の方達と南関町の話になっても行ったことがないとか何処にあるのとか言われ ることがある。ビックリすることがある。	
住宅・宅地の供給 が少ない(4人)	○宅地がない（できない）
	○賃貸住宅が少ない。
	○宅地が少なく、アパートなどあるが家賃が安くない
道路、交通環境が 悪い (3人)	○家賃が高い（田舎の割には）
	○他の市へのアクセスが悪い
	○道路（通学道）草がいっぱい 南関中学校の信号機が朝7:30~8:00に渋滞するのでどうにかしてほしい
電波受信が悪い (3人)	○公共施設等へのアクセスの悪さ（場所がわかりにくい、道が狭い）
	○電波が悪い
	○スマホ・テレビの受信感度が悪い
働く場が少ない (2人)	○地デジ受信困難なところがある点。
	○若い世代が定着できるような職場
良さが生かされい ない(2人)	○仕事が少ない
	○自然にあふれている良い魅力を活用できていないところ
その他(18人)	○交通の利便性を活かされてないところ
	○町が目指す未来像がみえない。自然保全、産業振興、いずれも中途半端な感じがする。
	○将来先行きの不安（南関町がこれからどうありたいのかわからない）
	○近隣の市町村との連携。企業誘致と住宅促進。
	○地元企業等への町外の勤務者が多い。
	○もう一步踏み込んだサービスがない。いろいろ最低限+α程度の部分がある。
	○子供向けのイベントが少ないこと。
	○学校（高校）がない。
	○男女共同参画ができていないと思う（議員・町職員など）。
	○田舎の習慣が多すぎる⇒新しい人、習慣が入ってこない⇒高齢者の割合が増える。
	○出初式の放水合戦は無くしたほうがいい。若者も友人程度しか集まらず、老人とメディアが少し報道する だけで冬場は命の危険もある。
	○山
	○虫が多いところ
	○住民税が高い
	○町職員の不祥事に対する処罰の甘さ
○町職員の質が低すぎる	
○県境 特に大牟田市の隣であること	
○いろいろとあるが言葉にできない	
○住んでいないのでよくわかりません	
特になし(11人)	○特にありません(11人)

2) 南関町まちづくりへの提言

- 「町の魅力づくり、ブランディング（イベントを含む）」に関する提案が 15 人と最も多く、次いで「交通環境の充実」が 12 人、「若い世代の移住・定住の促進」が 10 人、「商業施設の充実」と「防災、安全確保」がそれぞれ 9 人の順。

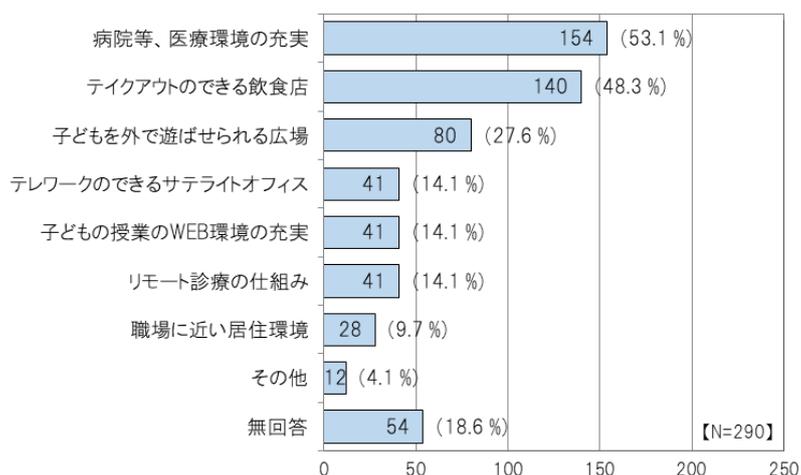
町の魅力づくり、 地域ブランディング（イベントを含む） （15人）	○町おこしになる材料があればいいのだが、例えば大分の昭和のまちみたいな。
	○特産品であるそうめんやあげ料理を楽しめるお店や手作り体験できる施設があれば大人から子供まで人を呼ぶことができるのでは？
	○住人を増やしたいのであれば、若者が遠くても来てくれる施設を誘致するべき（高速があるのだから）。
	○ゴールボールを何かに生かせないでしょうか。浦田選手の出身地でもあることですし。
	○親子で参加できるような活動の場を広げる。
	○南関トッパ丸のキャラクターグッズを全国に展開。グッズは町内の企業に委託。南関町の商品にはトッパ丸を描く。
	○キャンプ場、イベント場、県外から来てもらう。歴史館みたいなもの。パワースポット。
	○通勤を町外にしていると、町の情報をキャッチしにくくつながりも薄くなるので、まつり等のイベントにボランティアを募集したりして町内の仲間づくりができるのもよいのではないのでしょうか。
	○トッパ丸くんや交通アクセスの良さを生かし、周りの市町村からの交流人口が増加すれば町の活気につながり、町全体が良くなると思います。
	○町内町外者、年齢問わず色々な機能を備えたみんなで利用できる融合施設があるといいです（観光・温泉・公園・食事など）。
	○伝統・文化を継承し、心の充実感がある町にしたい。
	○南関町の特有のものを増やしていきたい。町全体の活気が感じられないので、活気のある町にしたい。
	○特産品を活かしたブランド品等の立ち上げを行う等、まちをPRすることを課題とする。
	○新庁舎の防災広場をイベント会場で使用する際のガイドラインを作成してほしい。防災広場等に定期定期にキッチンカーを呼んでほしい。
	○若い女性が観光に来てくれる企画を実施していく。（例：有名人を呼ぶ、食べ物企画）
交通環境の充実 （12人）	○道路を増やしてほしい。
	○他の市へのアクセスの拡充。
	○コミュニティバスなど交通の充実を考えてほしい。
	○町内巡回バスなどの交通の充実。
	○ご高齢の方への乗り合いタクシー、若年層の通学バスの運営を行ってはいかががですか。
	○年寄りで免許返納後、乗り合いタクシーで病院へ行けるようになったら良い。
	○高齢者への交通手段の充実。
	○交通弱者（高齢者等）が住みやすいまちづくり。
	○高齢者等の町外への交通の便。
	○利便性を良くしてほしい。
○移住者等を促進するために南関インターをアピールし通勤の利便性を強調し、利用料金補助を検討したらどうか。	
○町外に移動する際の手段として、バス等の交通機関の本数を増やすことや乗り合いタクシー等での移動の補助をしていく必要があると思います。	
若い世代の 移住・定住の促進 （10人）	○若者が根づくまちづくりをしてほしいが、具体的には難しい
	○若い人が少ないので若い人の住みやすい町にしてほしい
	○世代別に住居環境を整えてほしい
	○若者が住み続けたいくなるような街づくりが必要。
	○若い世代が心惹かれるような魅力あるまち。リモートワークでどこでも仕事ができる時代になり、どうせ住むならと思えるようなまちになればと思います。
	○町や専門機関による相談体制の整備が必要。
	○子ども達が住み続けたい・戻りたいと思えるまち。
	○公有地を起爆剤とした定住施策への取り組み。
	○民間の力を借りて住環境の整備。
○移住者が増えるような施策の実施。	

商業施設の充実 (9人)	○ショッピングモールの誘致（交通の便がいいところ） その中に南関町のアンテナショップを入れる等。
	○もう少し商業施設等を誘致することができれば、若年層の転入するきっかけになるのではないかと思います。
	○ヒライ・すき家等の食堂が増えれば良い。
	○ビックオーク以外のスーパー、ドラッグストア（コスモスみたいな）があると便利だと思う。
	○若者を増やすためのまちづくり 商業施設がほしい。
	○町の基幹産業である農業を守りつつ、他市町からの受け皿もできるようなベッタタウン化を図る。そのためには、商業施設を誘致する必要があると考える。
	○国道443号線の小原からいきいき村までの区間を商業施設などを誘致して活性化につなげたい。そこから新庁舎周辺へ派生し、新庁舎周辺の活性化につなげたい。
	○ドラッグストア等のチェーン店があれば良いと思う。 ○安いドラッグストア等ができてほしい
防災、安全確保 (9人)	○災害への備え。中山交差点の水没。
	○カーブミラーがとこどとこで汚れて見えないので安全に運転できるよう点検整備を徹底してほしい 大雨の時の道路に水がたまる所があり通行止めになるのをどうにかしてほしい。
	○南関町地域の絆を育てる場づくり（コミュニティ活性化）小さな子どもからおじいちゃんおばあちゃんまで皆で助け合う。
	○外灯の設置。
	○外灯が少ない。
	○大通りに街灯が少ない。
	○道路の整備、河川の整備。 ○南関交番に警察官が不在の場合が多いので、不安という話を聞いたことがあるので、交番員の増員をお願いしたい。 ○年齢を重ねても安心して暮らせるまちづくり。
自然環境を生かす (4人)	○自然を生かしたアウトドアな町 ○キャンプ場の整備 ○自然を生かした公園・飲食店がもっとあればいいと思います。 ○福岡の方は熊本に来る際は自然にふれあうことや温泉が目的で来る方が多いため、多くの方がふれあえる環境の整備は長期的な計画で行ってほしい。また南関から1時間半くらいで行ける温泉マップなども作っていいと思う。将来のまちのイメージとしては、子どもやその家族が生き生きと過ごせるまち、またそれが町内者から見てもわかるような町を目指してほしい。
	○公園など多くしてほしい。
	○子どもが遊ぶところを増やしてほしい。
	○公園を増やしてほしい 観光への力を入れてほしい。 ○車で移動する際に、通過点ではなく目的地になるような施設（公園など）。
公園や子供の遊び場等の整備 (4人)	○これからの南関町は高齢者の方が人口の比率を占めていくと考えられるので、医療福祉の充実は必須ではないかと思いました。
	○個人病院か総合病院があれば良いと思う。
	○居住空間（環境）に食料・医療が必要。
	○病院等を誘致する必要があると考える。
医療機関の充実 (4人)	○地区にあったまちづくりを考える。地区が元気になると町が活性化するのでは？
	○町の中心部（一小校区）だけでなく、他の校区もともに栄えていけるような“まちづくり”を検討してほしい。
	○役場周辺だけでなく町全体としてのまちづくりをしてほしい。
	○地区ごとのイベント（行事）が多すぎる。
地域別のまちづくり (4人)	○若い人がやりたがる仕事を作るべき。
	○若い世代の働ける環境が少ない。
	○若者が働く企業の誘致 商業施設の誘致。 ○南関町へ戻りたいと言っている人の話をちよくちよく聞くことがあるが、仕事がない、または給料が安すぎるため家族を納得させることができないから戻れないと話す人が多かった。地理的な問題等もあるかと思いますが、働ける場所が増えるといいですね。業種も選べるとベター。
	○リモートの環境の充実。
雇用の場の拡大 (4人)	○マイナンバーカードを使う機会がないのももっと便利に使えたらいいと思います。
	○防災無線のデジタル化に伴い各家庭からインターネット環境が整備できたら。
	○デジタル化 (3人)

空き家・空地対策 (2人)	<p>○人口減少が顕著であるため何かに対応できればよいのだが…。10年後の空き家状況について今以上に深刻化してくると思われるため、セカンドハウスとしての利用・移住促進など早めの対応が求められていると思う。</p> <p>○不動産(家・農地・山林など)所有者の相続・管理に対する意識改革(啓発)が必要。</p>
少子化対策 (2人)	<p>○結婚への誘導。</p> <p>○少子高齢化を見据えた対応策。</p>
教育環境の充実 (2人)	<p>○まちづくりをするならこの市町村もやっていないような子どもの高度教育など特化した物をしないと他市町村と同じになると思う。</p> <p>○更なる教育と福祉の充実したまちづくり。</p>
その他(15人)	<p>○お年寄りにやさしいまちづくり。</p> <p>○家しかないところを減らすまちづくりをすると町がにぎやかになると思います。</p> <p>○都市計画を策定し、新たな産業の参入を促し、農業及び商業施設の共存を図る。また、新たな産業の参入することにより南関町の町内総生産、町民所得の増加が狙え、永住や移住者の増加も見込める。なお、都市計画を策定すれば町外者への宅地提供も容易になると考える。</p> <p>○移住者等の促進するために南関インターをアピールし通勤の利便性を強調し、利用料金補助を検討したらどうか。新幹線通勤の補助等。</p> <p>○限られた財源を有効活用するために、インフラ整備等は地域を限定するなどの重点的な施策の展開。</p> <p>○まちづくりは人づくりというように、まず人から育てるべきである。それは子供たちだけではなく、子どもを育てる親に対しても何か学びあることをすべきだと考えます。</p> <p>○町職員の意識改革のためにも、近隣市との合併を検討する時期に来ているのでは。</p> <p>○人口の低下は避けられないので、それでもサービスの低下は避けてほしい。</p> <p>○これからを担う若者が自ら作り上げようと声を上げてくれるような取組み(仕掛け)から始めることではないか?どのようなまちを目指すか若者たちの意見が大切。</p> <p>○全国的な人口減少の中で、各市町単位で住民の取り合いをしても展望はないと思う。定住自立圏内での役割分担の検討が必要だと思う。</p> <p>○人権教育の推進</p> <p>○50年前の住み心地</p> <p>○賢明な首長と町議員 首長と議員はそれぞれ町民から選出された代表(=元代表)です。両輪をうんぬん言ってる場合ではないです。議院内閣制ではないです。</p> <p>○ハード面ではなくソフト面に力を入れる。「ことば」だけではない福利面の充実を図る。役場の機能も目先のことではなく、長期的な見方により、せめて職員が納得できるようにしてほしい。</p> <p>○フリーエネルギー、反動エンジン、メドベッド医療などディープステイト、創価学会の悪の支配の及ばない5次元の社会になると良いです。</p>

3) コロナ禍で南関町に欲しいもの

○「病院等、医療環境の充実」が154人と最も多く、次いで「テイクアウトのできる飲食店」が140人、「子どもを外で遊ばせられる広場」が80人の順。

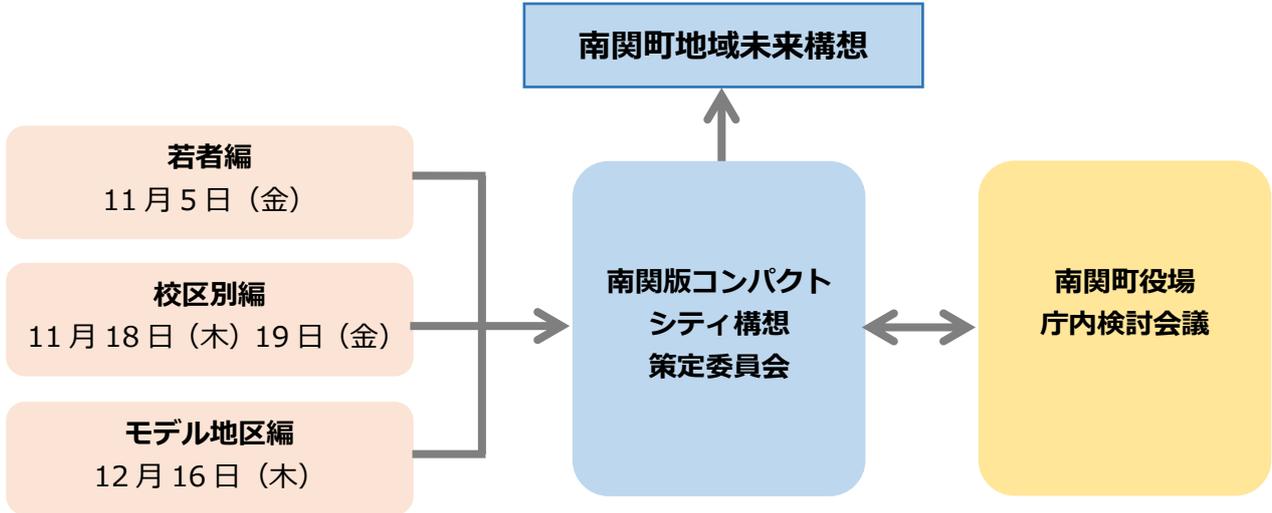


第5章 住民ワークショップによる意見

1. ワークショップの構成

南関町地域未来構想ワークショップは「若者編」「校区别編」「モデル地区編」の3種類開催し、今後の南関町のありたい姿を描きました。

このワークショップの結果は、南関版コンパクトシティ策定委員会や南関町役場で共有し、本構想の策定に活用しました。



2. 若者編ワークショップ（令和3年11月5日開催/36名参加）

若者編ワークショップでは、各班で南関町の魅力と課題、より魅力を高めるための取り組みのアイデアについて意見をまとめました。

若者編ワークショップにおいて出された意見は以下のとおりです。

■意見一覧（☆印：各班のイチオシ）

魅力	課題	取り組みアイデア
<ul style="list-style-type: none"> ○自然が豊か ○空気がきれい ○星がきれい ○田舎らしさがある ○のどかさがある ○水がきれい、水道代がかからない ○子どもと遊べる ○山も川も農地もある 	<ul style="list-style-type: none"> ×景観は美しい(ソーラーパネル、田圃風景) ×自然がきれいに保全されておらず、荒廃しているところもある ×中途半端な田舎感 ×猪が出る ×自然を活かした遊び場や公園がない ×虫や草が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ●田舎の価値を上げるPRをする(棚田など自然景観を整える)☆ ●キャンプやオートキャンプ、釣りなどが自然を活かした公園づくり☆ ●休耕地の活用(キャンプ場、貸農園) ●季節の花などを活用(ひまわり大作戦)☆ ●農地を家庭菜園レベルにして貸し出す☆ ●自然の中で町良くなるのがウリの学校をオープン☆ ●フォレストアドベンチャー南関を作る(よい田舎感を活かす) ●子どもに山、土、畑など自然を体験することへの強化 ●ドッグランを作る ●サバゲー拠点 ●子どもを連れていきたい大きな公園の整備☆ ●温泉が楽しめる場所 ●スケボーのバンクをつくる☆ ●人+公園 アスレチック施設☆ ●レンタルチャリ☆
<ul style="list-style-type: none"> ○お米や野菜類など農産物がおいしい ○おいしい特産品がある ○夏も冷たい地下水が飲める 	<ul style="list-style-type: none"> ×居酒屋やお店が少なく、土日に閉まっている ×飲んだら帰れない ×飲食店の時間が短い ×商店街に活気がない ×インバウンドきているのに商機をつかめない ×スポーツ・運動施設が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ●ブランド南関米を町ぐるみで作っていく(県外の有名なホテルと連携も)☆ ●みそ汁とおにぎりの店を作る☆ ●イノシシを食べる習慣や飲食店をつくる☆ ●地元食材を自ら調理できる共有できる場所☆ ●南関野菜の加工→ブランド化☆ ●農業法人の生産性を高める ●県外の有名なホテルと連携して米・水のブランド化☆ ●体験農園
<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツがさかん ○公共施設の使いやすさ 	<ul style="list-style-type: none"> ×若者向けの遊興施設が少ない ×居酒屋やお店が少なく、土日に閉まっている ×飲んだら帰れない ×飲食店の時間が短い ×商店街に活気がない ×インバウンドきているのに商機をつかめない ×スポーツ・運動施設が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ●スポーツ選手を呼びやすくなる ●芸能人など著名人を呼ぶ ●公共施設の有効活用(子どもの会や老人会などとのイベントの開催など) ●総合スポーツセンター(野球場、陸上競技場など)を作る ●図書館をスタバ付きに(武雄図書館イメージ) 代行補助

魅力		課題	取組みアイデア
○車で 30 分圏内に店がそろっている	買い物	×買い物できる店が少ない ×歩いてコンビニに行けない ×夜間空いているのがコンビニだけ	●移動販売(とくし丸) ●食料品、日用品、コインランドリー、カフェ等を集約した場所をつくる☆ ●ドラッグストアの誘致 ●IC 近くにファストフード店の誘致 ●セキアの空きテナントの活用☆ ●レンタルスペース☆ ●今ある店舗に頑張ってもらおう☆ ●ウーバーイーツを導入
○農業がしやすいような場所が多い	産業・仕事	×安売りしすぎ ×農業がしにくい・耕作放棄地の増加 ×仕事が少なく、特に学力のある人の職が無い	●新しい加工品を売る☆ ●南開あげいなりの専門店を作る ●PR する☆ ●町外の飲食店を呼ぶ☆ ●常設マルシェを作る☆ ●いきいき村とコラボする☆ ●国道 443 号沿いに飲食店を誘致する(ほっともっ等) ●小代焼の産業観光地化 ●役場にスタバやコワーキングスペースなど機能充実 ●圃場整備や補助で若手農業従事者を増やす
○子育てしやすい(環境も制度も) ※多数意見	子育て	×子どもが少なくコミュニティが狭い ×大きめの病院がない ×子ども同士で遊ぶときに送迎が必要 ×小学校の見回りが必要でも共働きで難しい	●小学校を 1 つにして送迎車を入れる 地域での見回り協力(地域の人々の参加)
○住宅の近隣は静かで住みやすい ○住宅が広い ○のどかでゆっくりと感じる暮らしができる	住環境・安全性	×空き家が多い ×賃貸住宅が少なく家賃が高い ×トイレの下水が浄化槽でない ×災害(水害)に弱く災害が多い ×テレビ・携帯の電波が悪い ×外灯が少なく夜が暗い ×暴走族が時々うるさい	●アパートを建てる・古いアパートは改装する☆ ●ペットタウン化する☆ ●基地局や通信環境の整備をする ●避難路を周知・確保しておく ●地域の集まりに参加すると家賃助成や農機具が得られるなど、移住者にメリットをつくる☆ ●空き家の無料貸し出し ●ソーラーパネルを活用した外灯設置 ●通学路を安全にし、外灯を増やす
○近くを新幹線が通っている ○IC が 2 つある ○渋滞が無い ○車があればどこへでも行けて便利 ○近隣市町や都市部への距離も遠くない ○ほど良い田舎	交通・立地	×最寄り駅がない ×公共交通が不十分、車がないと生活できない ×どこに行くにも遠い ×路側帯が狭い	●南開タクシーと町等が連携して子どもだけで乗れる「子どもタクシー」☆ ●約 30 分で大牟田・玉名・荒尾・山鹿に行けることを活かす ●町道・県道の通学路整備 ●通学の選択肢が増えるように電車(駅)を通すなど公共交通を充実させる ●自動運転の回遊バスを社会実験(ぶつかってもいいスピードとやわらかさ) ●バイパス等の建設でさらに交通網の整備 ●巡回バスの増加 ●シェアカー、シェア乗車 ●ガソリン代補助 ●ベイベイ導入 ●バスを増やす ●新幹線駅へのシャトルバス・乗り合いバス運用
○のんびりしている ○独自の文化が残り、文化芸能に寛容 ○人との距離感がよい ○面白い人が意外にいる ○野菜をもらえるなど近所付き合いがある ○生まれ育った場所である ○人権教育 ○子どもへのスポーツ指導等が充実している	地域	×部落の仕事が大変 ×地域のブランディングできてない ×価値観が古い ×マナーがよくない ×閉鎖性や閉塞感、しがらみがある ×トッパ丸ありき(でも新しいチャレンジがない) ×行政主導のイベントばかり ×まちづくり課がまちづくりできない ×情報を受け取る方法が少ない	●町内転居や世代交代を促し人の流れを活性化 ●移住者や有志の交流会開催などオープンなコミュニティづくり☆ ●店舗に頼らず、フェスなどでまちを盛り上げる☆ ●町民体育祭の復活☆ ●県境独特の歴史文化を他の市町村にはないで広く紹介したい 案内所 ●文化人芸術者やインフルエンサーを呼ぶ ●南開町の良さを周知、教育(子ども向けにも)☆ ●役場にスタバをオープン ●夜のイベントやたき火 ●1000 人集まるイベントより 100 人集めるイベントを個人で 10 個やる ●トッパ丸引退 フェス ●スマホの活用(町から町民・外への情報) ●婚活を盛り上げて独身者を減らす☆

3. 校区别編ワークショップ（令和3年11月18日・19日開催/60名参加）

校区别編は2回開催し、1回目は「自校区の魅力と課題」について、2回目は「自校区において今後取り組んでみたい“まちづくりプロジェクト”」についてワークショップを行いました。

以下に、2回目のワークショップで提案された「自校区で取り組んでみたいプロジェクト」の結果を示します。

(1) 1班（第一小学校区）

【将来像】南関町の玄関 一小学校区

【取り組んでみたいプロジェクト】

#南関町っていいなあプロジェクト



実施プラン		詳細
目的		町の PR、町でお金を使いたくなるようにするため
対象		南関町の良さを知らない人
やること		#南関町っていいなあ で SNS で発信する
やる人/ その役割	メンバー①	町の良さを知ってる人/発信する、SNS 発信の講座をひらく
	メンバー②	1 班のメンバー/拡散する
予算	おいくら	0 円!
	集め方	いらない!



一緒にやりたい人 3人
応援したい人 5人

(2) 2班・3班合同（第一小学校区）

【将来像】地域の人たちの見守りで活きる校区

【取り組んでみたいプロジェクト】

SNS プロジェクト



実施プラン		詳細
目的		全町民が SNS の基本的な使い方をマスターして活用できること
対象		全町民(特に高齢者)
やること		スマホ教室
やる人/ その役割	メンバー①	若い町民(10代~20代)/講師、広報など
	メンバー②	
予算	おいくら	数万円程度
	集め方	参加費(数百円)+クラウドファンディング



一緒にやりたい人 5人
応援したい人 3人

(3) 4班（第二小学校区）

【将来像】自然豊かな伝統文化のある校区

【取り組んでみたいプロジェクト】

自然と伝統文化を体験するプロジェクト!!



実施プラン		詳細
目的		豊かな自然と小代焼を知ってもらう
対象		町内外の全年齢 子どもから大人まで
やること		古小岱の里公園を活かした体験型イベント 古小岱の里公園での梅まつり
やる人/ その役割	メンバー①	窯元/体験指導
	メンバー②	地域の人/ガイド
	メンバー③	専任スタッフ(通年管理人)/窓口、管理
予算	おいくら	会場整備 1,000 万円、専任スタッフ人件費 2 名 300 万円、 材料費 200 万円、雑費 100 万円
	集め方	寄付金、クラウドファンディング



一緒にやりたい人 1人
応援したい人 3人

(4) 5班 (第二小学校区)
【将来像】自然体験の出来る校区

【取り組んでみたいプロジェクト】

さろいてつくって食べようプロジェクト



実施プラン		詳細
目的		地域の農業振興とコミュニケーションづくり
対象		地元住民
やること		体験とマルシェ、観光農園
やる人/ その役割	メンバー	地域住民とボランティア/得意分野の指導補助
予算	おいくら	空き家・店舗賃料、材料費(食料)、交通費、宿泊費、肥料、消毒費、農具、燃料費
	集め方	参加者負担、寄付(一般)(企業)



一緒にやりたい人 7人
応援したい人 5人

(5) 6班 (第三小学校区)
【将来像】意外と明るい校区

【取り組んでみたいプロジェクト】

空き家活用プロジェクト



実施プラン		詳細
目的		交流の場を作る、イベント開催、集客につなげる
対象		地元民と移住者向け 地域年齢を問わない全ての人の
やること		空き家募集、改修
やる人/ その役割	メンバー①	プロジェクトチーム/改修、空き家、イベント企画
	メンバー②	地元民/施設管理、情報発信(移住民もまじえながら)
予算	おいくら	1,300万円(改修費)
	集め方	協賛、クラウドファンディング



一緒にやりたい人 11人
応援したい人 6人

(6) 7班 (第三小学校区)
【将来像】人と人、人と地域をつなげる校区！！

【取り組んでみたいプロジェクト】

コミュニティスペース活用プロジェクト



実施プラン		詳細
目的		3小学校区の為に交流人口・関係人口の増加 認知度UP
対象		3小学校区住民 外部とのコミュニケーションが図れ年齢問わず喜ばれる！
やること		借家を使用して農業体験(筍採り)して筍ごはん作り、筍を使ったピザづくりをするよ！ってイベントをやった場合
やる人/ その役割	メンバー①	3小(子・PTA)/南中・俺家(Facebook、Instagram)の告知
	メンバー②	プロジェクトチーム/SNS・youtube(南中有志)で情報発信
	メンバー③	婦人会/料理指導、老人会/現地指導
予算	おいくら	場所代0円、交通費0円、材料代20,000円、人件費0円、光熱費0円
	集め方	参加人数20名 参加費1,000円/名(問わず) 込み込み ※希望 PTA・子ども会協賛



一緒にやりたい人 6人
応援したい人 1人

(7) 8班 (第四小学校区)

【将来像】 町も人も明るい四小校区 ～脱おせっかい～

【取り組んでみたいプロジェクト】

人の輪プロジェクト



実施プラン		詳細
目的		みんな知り合いになって笑顔で元気になる!! (取り残される人がいなくなる)
対象		老若男女
やること		なわとび大会、ラジオ体操、草刈り競争(お花畑にする)
やる人/ その役割	メンバー①	4小校区全員参加/なわとび大会・ラジオ体操・草刈り競争
	メンバー②	★実行委員会★/
予算	おいくら	燃料費、替え刃代、お茶代、種代、商品代→合計 200 万ぐらい???
	集め方	寄付、参加費



一緒にやりたい人 1人
応援したい人 3人

(8) 9班 (第四小学校区)

【将来像】 ぜひ!!子どもたちに残ってほしい四小校区!!

【取り組んでみたいプロジェクト】

花いっぱい夢いっぱいわくわくプロジェクト!!



実施プラン		詳細
目的		住民が一致団結する、ふるさとに魅力を感じる
対象		南関町民
やること		道に花を植える
やる人/ その役割	メンバー①	4小校区住民/種を買う、植える、世話する
予算	おいくら	500 万
	集め方	募金!!、寄付を募る、出身者(全国の)にお手紙を書く



一緒にやりたい人 8人
応援したい人 14人

■校区別ワークショップの状況



4. モデル地区編ワークショップ（令和3年12月16日開催/30名参加）

モデル地区編ワークショップでは、町の中心部を対象に、旧役場及び公民館敷地やうから館の活用について意見をまとめました。モデル地区編ワークショップにおいて出された意見は以下のとおりです。

（1）モデル地区において「活かしたい魅力」と「気になる課題」

活かしたい魅力！

【利便性が高い】

- ・ 高速道路（インター）から近い / ・歩いて公共施設・商業施設をまわれる
- ・ うから館などのJA・商店街などの空きスペースが多い（というのも魅力）
- ・ 今から変えられるチャンスがある / ・中心街としての機能が見込める / ・便利なほど良い田舎

【いい人・頑張る人がいる】

- ・ 顔なじみが多くお互いに声をかけやすい / ・行事が多い（中心になっている）
- ・ A-lifeの運動が充実している

【おいしい食に触れる】

- ・ スーパー、飲食店、特産品(そうめん、馬刺しなど)が集約している / ・松風のパフェ / ・ひつじのお菓子屋さんがある

【見どころが多い】

- ・ 御茶屋跡、広大な城跡 / ・御茶屋跡のきれいさ、写真映え / ・大津山がきれいに見える / ・大蛇山がさかん

■ 気になる課題！

【あぶないところがある】

- ・ トンネル / ・道路歩道が狭い / ・外灯が欲しい / ・自然災害が起きると孤立する（どこから行こうとしても通行止め）

【まちなかがさびしい】

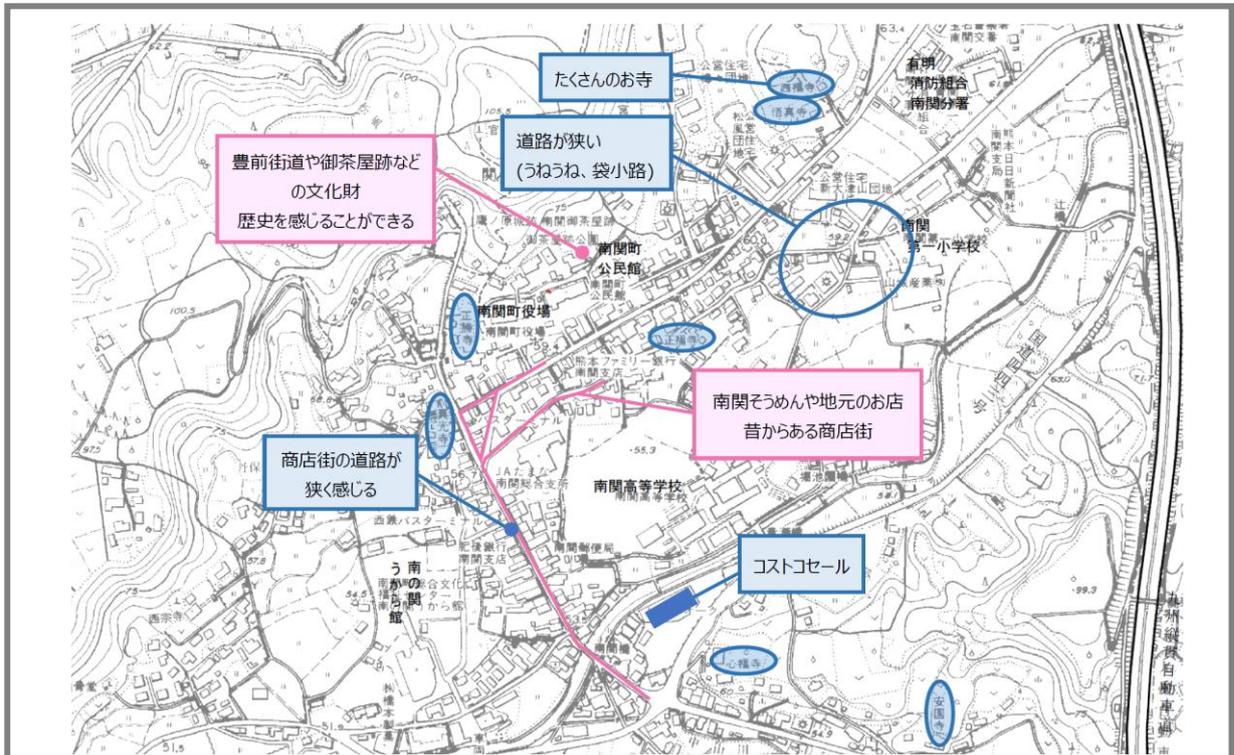
- ・ 使えそうな空き家が多い、古い建物がそのまま / ・個性を感じられない / ・気軽に立ち寄れるショップ等がない
- ・ 公園の遊具が少なく、さびしい / ・行く場所（人が寄る、案内したい）がない
- ・ 散歩するための駐車場がない⇒駐車場が多い / ・町外から来る人が必ず通る道は中心の外 / ・足湯が欲しい
- ・ 年配の方の賛同が得られるか

【情報が少ない】

- ・ 意外と関町は場所がわからない / ・町外から来る人の交通バイパスが離れている / ・町外から来る人の目的地がない

【交通の利便性が低い】

- ・ 校区外からの足（車やバス）の確保が年を取ったら難しい / ・徐々に整備されてるが、来訪を受け入れる道幅がない



(2) 地区全体に関わる提案

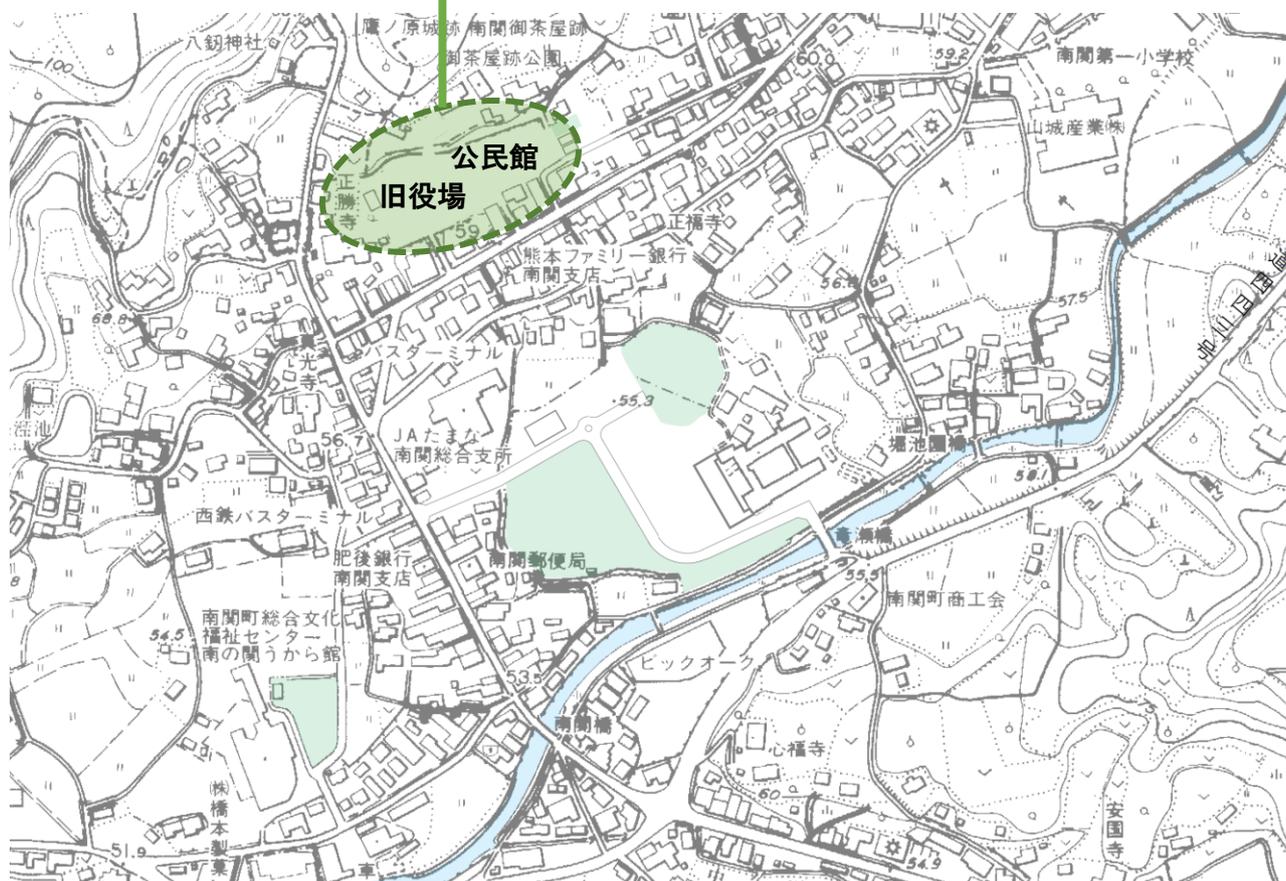
※赤文字は各班のイチオシ

南関町の良さをしっかり PR	
<ul style="list-style-type: none"> 町の良さをアピール（観光 PR 課等、SNS の活用） / ・花や紅葉、小代焼の器、ヤマチクの箸 / 南関そうめん流し 桜の名所に！！ / ・社協が来てほしい 	
中心地域ならではの感を出す	新たなおもしろみをつくる
<ul style="list-style-type: none"> 酒蔵をつくる 商店街の店構えを統一（のれん） ウォーキングルートを作る うから館までの道を拡張 夜も開いているお店（チェーン店） 	<ul style="list-style-type: none"> 野外音楽ステージ 防災広場で野外フェスや BBQ ばつぐんにきれいなトイレ 御朱印（10 個集めたら南関セット） レンタル用品貸出場（農機具等）

(3) 旧役場・公民館跡地に関わる提案

※赤文字は各班のイチオシ

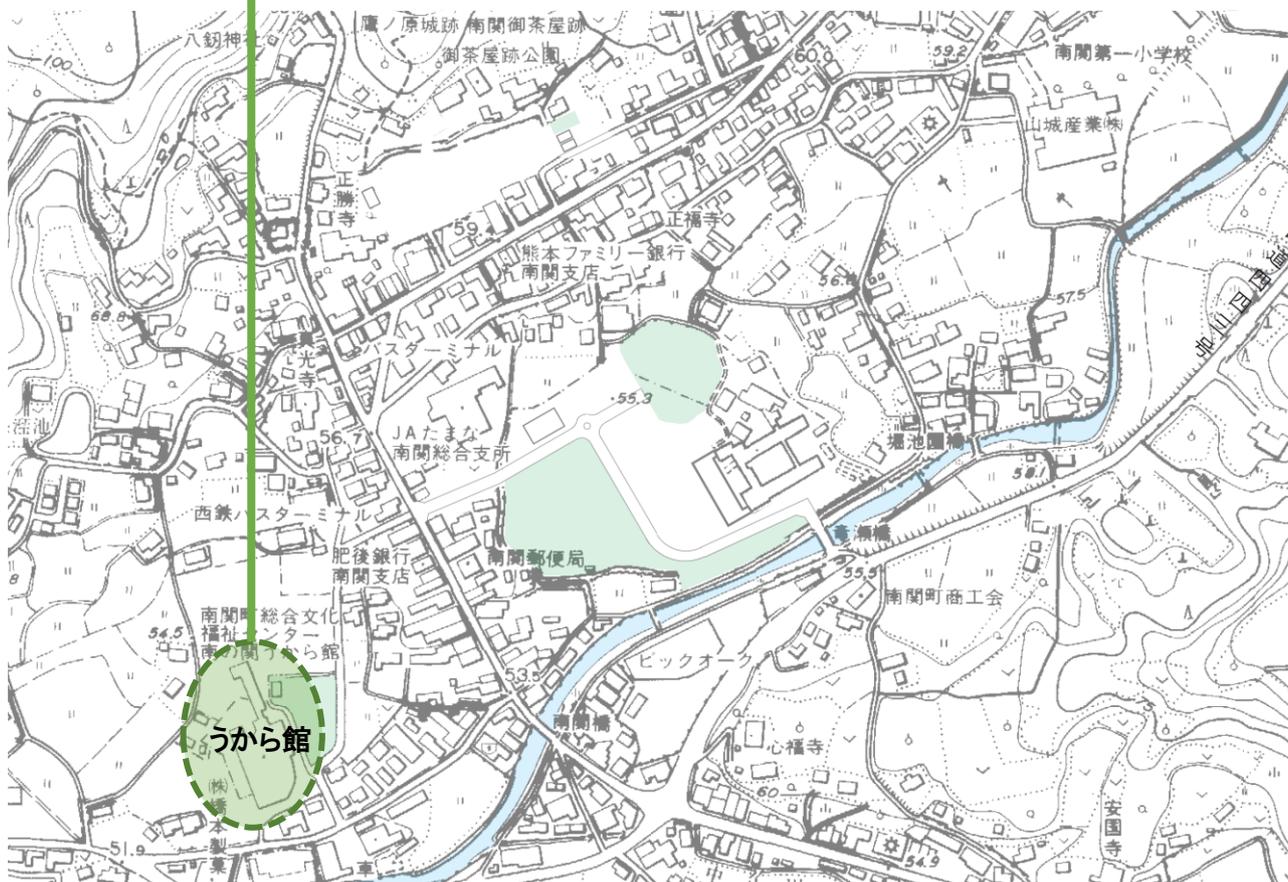
旧役場・公民館周辺			
図書館を活かす	食を楽しむ	憩い・あそび場づくり	御茶屋跡を活かす
<ul style="list-style-type: none"> 図書館の周りに人が集まれる場所⇒カフェ等 図書館増築 in スタバ 	<ul style="list-style-type: none"> コンテナマルシェ場 キッチンカーが集まれる場所(ベンチ等整備) 酒づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが遊べる公園 アスレチック公園、ジップスライダー アクティビティスペース ミニ四駆コース・マシン グランピング・キャンプ場 	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場(お茶屋跡、城跡への足掛かりとして) お茶屋跡、城跡の資料館を作る 観光案内、駐車場（観光用）
住む人を増やす			
<ul style="list-style-type: none"> 若者向け賃貸住宅 			



(4) うから館の活用に関わる提案

※赤文字は各班のイチオシ

うから館	
<p>憩い・あそび場づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> • 子どもの居場所(遊べる所、シアタールーム) • 屋内ゆぎ場、お化け屋敷 • 子どものための室内遊具 • おもちゃ屋さん(子どもが買える) • 遊び場、ボルダリングなど • 集合商業施設(南関のアミュプラザ 自営) 	<p>温泉を活かす</p> <ul style="list-style-type: none"> • 釣り堀 / ・養殖場 / ・家族湯 / ・水族館 • 生演奏ができる小ホール(練習もできる) • 身障者浴室のみ再利用個別ボイラー設置
<p>いやし・スポーツの空間</p> <ul style="list-style-type: none"> • サウナ、シャワールーム / ・浴場 / ・スポーツジム • 岩盤(酵素浴の施設) 	<p>寄り集まるどころ</p> <ul style="list-style-type: none"> • 飲食店 / ・農家レストラン / ・子ども食堂 / ・イベント場 • ネットカフェ宿(体験拠点) / ・まちの駅ゆた〜と • イベントスペース(遊・泊・食・学・癒 等) / ・ふれあいサロン • シェアオフィス(テレワークスペース) • コミュニティバスを走らせる
<p>レンタルスペース運営</p> <ul style="list-style-type: none"> • アートスペース / ・レンタルサロン / ・レンタル飲み屋 • 音楽スタジオ・練習場 / ・日替わりカフェ(月替わり) • イベント・多目的スペース(遊・泊・食・学・癒 等) • 雑貨類の委託販売 • シェアスペース(オフィスに絞らない)・貸しオフィス • レンタルスペース(1か月パン屋さん、カフェ、マルシェ) 	<p>学びやミュージアム的活用</p> <ul style="list-style-type: none"> • 郷土資料展示室 / 目指せ武雄図書館 / もの作り • ふれあいサロン / 放課後子ども教室 / 寺子屋教室 • 農家レストラン / 子ども食堂 / ネットカフェ • プロジェクションマッピング+α(風呂、観光案内等) • シアターミュージアム / チカケン展示 竹あかり • ものづくり・アプリなど知的体験や実験ができる場所



第6章 まちづくりの課題

前記の町の特性、住民意識調査結果、町内企業従業者アンケート調査結果、ワークショップによる意見を踏まえ、町全体に係るまちづくりの課題と校区別の課題を整理します。

1. 町全体に係る課題

(1) 現状の整理

(○：良好な特徴 ×：負の特徴)

項目	町の特徴	町民、町内企業アンケート	ワークショップの意見
① 人口・世帯状況	<ul style="list-style-type: none"> ×昭和30年から人口減少が継続(第2校区が最も著しい) ×少子高齢化が進行(第2校区が最も著しい) ×平成22年をピークに世帯数も減少 	<ul style="list-style-type: none"> ・20年以上南関町に居住している人が73%(4人に1人は20年未満の新しい町民) ・62%が二世帯同居又は三世帯同居 ・活性化のために必要と思うこと:51%が「若い人の流入」 ×1割の人が10年以内に町外転出を考えている ×町内企業の従業者の約7割程度が町外に居住 	
② 自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ・7割が森林、農地等の自然的土地利用 ○“ホテルの里百選”に2箇所選定 ○豊富で良質な地下水 ×たびたび水害が発生 	<ul style="list-style-type: none"> ・住みやすいと思う理由:「自然環境が良い」が54%で1位 	<ul style="list-style-type: none"> ○自然が豊か(空気がきれい・星がきれい・水がきれい) ○田舎らしさがある(のどか・しずか・山や川や農地・住宅が広い) ×自然がきれいに保全されておらず、荒廃しているところもある ×災害に弱く災害が多い ×害虫、害獣が多い
③ 歴史的環境	<ul style="list-style-type: none"> ○古くから交通の要衝 ○南関あげ、南関そうめん、小代焼、竹箸等の伝統産業が続いている 		<ul style="list-style-type: none"> ○神社の祭り ○独自の文化が残り、文化芸能に寛容
④ 産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・第1次産業と第2次産業従事者の割合が高い ○輸送の優位性を生かした工場が立地 ○南関あげ、南関そうめん、小代焼、竹箸等の伝統産業 		<ul style="list-style-type: none"> ○お米がおいしい ○おいしい特産品がある ×耕作放棄地の増加 ×仕事が少なく、特に学力のある人の職が無い
⑤ 生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ×中心市街の空洞化(空き店舗の増加) ×主要な公共建築物が老朽化 ×公共交通(バス)の空白地帯あり ×生活道路が狭隘 ×空地、空き家が増加 	<ul style="list-style-type: none"> ○「住みやすい」「どちらかと言えば住みやすい」との回答は65% ○住みやすいと思う理由:静かな生活が出来る40%、買物の利便性が良い39% ×自校区に欲しい施設(不足している施設) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ICが2つあり、車があれば近隣市町や都市部への距離も遠くない ○新幹線も利用しやすい ○静かで住みやすい ○住宅が広い ×スポーツ・運動施設が少ない ×子供の遊び場や公園がない ×買物できる店が少ない ×病院がない ×空き家が多い ×街灯がない ×賃貸住宅が少なく家賃が高い
⑥ 子育て環境	<ul style="list-style-type: none"> ○子育て支援センター「メイプル」 ○幼児教育・保育の無償化 ○こども医療費助成制度 	<ul style="list-style-type: none"> ・親との同居世帯が62%で子供を見てもらえる 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てしやすい(環境も制度も)
⑦ 住民間の状況		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事に毎回参加31%、時々参加40% ・活性化のために必要と思うこと:47%が「住民間の日常的な交流」 	<ul style="list-style-type: none"> ・人との距離感が良い ・ご近所付き合いがある ×新旧住民の交流がない、閉鎖的
⑧ 財政状況	<ul style="list-style-type: none"> ・財政力指数は0.40(H30年度決算) ・町の収入のうち約6割が地方交付税、町税、国庫支出金 		

(2) 町全体に係るまちづくりの課題

前記の町の現状から、町全体のまちづくりに向けた課題を整理すると以下のようになります。

①人口・世帯等に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆人口減少、少子高齢化が進行しており、若い世代の流出抑制と移住・定住を促進すべき ⇒町内企業に通勤する町外居住者の移住促進や、一度南関を離れた人たちのUターン促進 ⇒多くの人に、南関に来て観てもらい、住んでもらうような施策展開
②自然環境に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆豊かな自然環境が残っているため、これを保全し活用すべき ◆おいしい水、豊富な地下水をもっとアピールすべき ◆災害に備えた安心・安全なまちづくりを進めるべき
③歴史的環境に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆古くからの歴史的資源をもっと活用すべき ◆伝統産業を育成しPRすべき
④産業・雇用に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆輸送の優位性を生かして、町内への企業誘致や起業支援を進めるべき ◆農業を含む地場産業を振興して働く場を確保すべき ◆耕作放棄地や空地を活用すべき
⑤生活環境に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆中心部を再生し、まちなか居住を促進すべき ◆交通弱者への買物・通院等支援策の一層の周知を図り利便性をアピールすべき ◆空家や空地（遊休地）も資源の一つとして有効活用すべき ◆生活環境の向上を図るべき
⑥子育て環境に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆現行の子育て支援制度の活用を促進すべき ◆地域で子どもを育て見守る活動をより活発にすべき
⑦住民コミュニティに関する課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆住民間の交流拡大に向けた場の創出や機会づくりが必要
⑧財政等に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆効率的な行政運営に向けた公共施設の集約化、適正配置の検討が必要 ◆民間活力の導入、民間や住民との協働が必要



【持続可能なまちづくりに向けて】

☆今ある資源を活用して、より魅力ある誇れる町にする

☆より住み心地の良い生活空間や子育てしやすい環境をつくる

☆車がなくても不便を感じない町にする

☆企業立地を生かし、移住・定住の受け皿を提供する

☆働く場があり、町外に出なくてもよい町にする

☆新旧住民がひとつになり助け合う町にする

☆南関の良さをもっとアピールする

2. 校区別課題及び今後の取り組みの方向性

(1) 第一小学校区

1) 現状の整理

(○：良好な特徴 ×：負の特徴)

項目	町の特性	委員意見※	町民アンケート 町内企業アンケート	ワークショップ
① 人口・世帯状況	<ul style="list-style-type: none"> 2020(R2)年4月時点 3,170人/1,346世帯 ※1位 2015~2020年： 9.3%減少※3位 2015(H27)年10月時点 年少人口：321人 (10.1%)※2位 生産人口：1,621人 (51.2%)※2位 老年人口：1,228人 (38.7%)※2位 	<ul style="list-style-type: none"> 未婚が多い 新築需要があり、若年層の新築増 町内高齢者の転居 高齢者向け住宅 Uターンしやすいシステムの構築 ×町に魅力がないから、町外にでる 	<ul style="list-style-type: none"> 「二世帯(親と子)」の世帯：42%※最下位 「夫婦のみ」の世帯：31%※1位 三世帯世帯：15%※3位 単身世帯：9%※1位 10年後も住み続ける：65%※2位 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者が多い
② 自然環境	<ul style="list-style-type: none"> 自然的土地利用面積：86.0%※4位 大津山公園 			<ul style="list-style-type: none"> ○大津山公園 ×冠水する
③ 歴史的環境	<ul style="list-style-type: none"> 南関城址、官軍墓地 豊前街道南関御茶屋跡 大津山阿蘇神社、大津山城址 			<ul style="list-style-type: none"> ○御茶屋跡 ×資源はあるけど活かせていない ×観光客が集まる所がない
④ 産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> 企業アンケート対象44社のうち、12社が存在※2位 	<ul style="list-style-type: none"> 町ごとハローワーク ホテルセキア周知と活用 空き家の民泊利用 ×農業基盤が弱い ×南関そうめんの後継者問題 	<ul style="list-style-type: none"> 住民の通勤通学先：町内37%※2位、大牟田市13% 	
⑤ 生活環境	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設12施設※1位 町営住宅4団地106戸※1位 バス停から300m圏内人口/校区内人口：72.4%※2位 医療施設から600m圏内人口/校区内人口：34.0%※2位 商業施設から600m圏内人口/校区内人口：75.7%※1位 洪水想定区域内人口/校区内人口：7.7%※2位 土砂災害危険箇所内人口/校区内人口：5.6%※2位 	<ul style="list-style-type: none"> 住み心地いい。満足度が高い 関町地区が住みやすい 金融機関が集中、公民館、役場あり 歩いて生活出来る。ウォークアブル推進都市 車中心でバランスよく補える 関町商店街、楽しい空間づくり 若い世代が立ち寄れる場所 ワイファイの整備 乗合タクシーの範囲拡大、充実 空き地は住宅地として活用可能 町外の公共施設のシェア 隣町と連携するMaas ×登録空き家が少ない ×歩道が未整備、居酒屋がない、商店街に外商が多い、マルシェがない 	<ul style="list-style-type: none"> 「住みやすい」+「どちらかと言えば住みやすい」：74%※1位 「住みにくい」：4%※2位 買物先：自校区内51%※1位、大牟田市：31% 自校区に欲しい施設(不足施設)： 1位：食料品や日用品の購入が出来るスーパーやコンビニ 2位：診療所などの医療機関 3位：多世代が交流できる施設やスペース 	<ul style="list-style-type: none"> ○高速道路、近新幹線が近い ○車があれば交通アクセスが良い ○路線バス、バスターミナルがある ○乗り合いタクシーがある ○消防署、買物場所、役場、図書館、警察署、南関町B&G海洋センターがある ○コンビニが数社ある ○中規模のスーパーがある ×商店があるけどさみしい ×道路が狭い ×高齢者の居場所がない

※委員意見は、令和元年度南関版コンパクトシティ構想策定委員会において、各委員から出された意見です。

項目	町の特性	委員意見※	町民アンケート 町内企業アンケート	ワークショップ
⑥ 子育て環境		<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバスの導入 ・学力レベルの高い町 ・送迎の負担軽減 ・子供だけで乗れる移動手段の確保。 ×子育て世代が求める公園がない ×通学路でも街路灯が少ない ×地域の子供の学力不安 		<ul style="list-style-type: none"> ○のんびり暮らせる ○環境が良い ×子どもが安全に遊ぶ所がない ×子どもの見守りが少ない ×通学路が狭い ×習い事をする送迎が必要
⑦ 住民間の状況		<ul style="list-style-type: none"> ・行政区の再編、小学校の維持 ・町中は公役の負担が少ない ・小学生行事には参加が多い ・老人会などの加入はその人次第 ・校区単位の住民自治組織 ・在町外国人との交流。 ・これからのコミュニティづくり ・出初式(各校区の行事)の活用 ・一部の人への責任の集中の解消 ・若い人を支える仕組みづくり ×地区の公民館や交流の場が少ない ×隣近所への不満が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事への参加： 毎回参加 28%※4位 時々参加 45%※1位 	<ul style="list-style-type: none"> ○季節ごとに大きな祭り ○クリーン作戦参加者が多い ○挨拶ができています ○近所付き合いが良い ○協力的 ×新旧、世代間の交流が少ない ×県外町外から来た人馴染めない、閉鎖的

※委員意見は、令和元年度南関版コンパクトシティ構想策定委員会において、各委員から出された意見です。

2) 第一小学校区のまちづくりの課題

①人口・世帯等に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆若い世代の移住・定住を促進する必要がある ◆高齢者のまちなかへの移住の需要への対応を検討する必要がある
②自然環境に関する課題	—
③歴史的環境に関する課題	◆4校区の中で最も豊富に存在する歴史的資源を顕在化し、観光や学習等に活用すべき
④産業・雇用に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆まちのニーズに合った商店街にすべき ◆伝統産業の振興を図るべき(後継者の育成や体験の場づくりなど)
⑤生活環境に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆お年寄りにやさしいまちになるよう、中心市街地の環境を整えるべき ◆若い世代の受け皿となる良質な賃貸住宅の供給を促進する必要がある ◆危険な空き家の除却と活用可能な空き家・古民家等の活用促進を図る必要がある ◆緊急時に対応できるよう、狭隘な生活道路の改善を進めるべき ◆災害に備え、ハード。ソフトの両面から災害に備えたまちづくりを進めるべき
⑥子育て環境に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆小さな子どもを遊ばせる遊具のある小公園をつくるべき ◆通学路の安全性の向上を進める必要がある

⑦住民コミュニティに関する課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆新旧の住民や老若男女が自然に足をはこび、顔を合わせるような場（公園・広場や建物）をつくるべき ◆伝統的な祭りや伝統行事の継承を図るべき ◆新旧住民や町外から、誰もが参加できる交流イベントの開催を図るべき
-----------------	--

3) 課題から見た今後の取り組みの方向性

前記の課題を踏まえ、今後の取り組みの方向性として以下のようなことがあげられます。

■課題から見た取り組みの方向性

①まちなか居住の促進

⇒空き家の活用、老朽化した町営住宅の改善・更新、民間による住宅・宅地の供給など

②歴史的資源の顕在化とまちづくりへの活用

⇒史跡めぐりルートの整備、史跡めぐりイベントの開催など

③地場産業の振興

⇒南関そうめん等、伝統産業の後継者育成

⇒商店街の活性化

④公共施設の改善・更新

⑤公共施設の改善・更新に合わせた町の中心部の再生（商業・業務・交流・居住の拠点としての魅力アップ）

⑥昔ながらの居住環境の改善

⇒緊急路の確保、身近な公園の整備、空き家対策など、最低限の居住環境の整備

(2) 第二小学校区

1) 現状の整理

(○：良好な特徴 ×：負の特徴)

項目	町の特性	委員意見※	町民アンケート 町内企業アンケート	ワークショップ
①人口・世帯状況	<ul style="list-style-type: none"> ・2020 (R2)年4月時点 2,338人・1,032世帯 ※2位 ・2015～2020年：9.8%減少※1位 ・2015 (H27)年10月時点 年少人口：190人 (8.1%)※4位 生産人口：1,101人 (47.1%)※4位 老年人口：1,046人 (44.8%)※1位 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒数が少ない ・独居老人が多い ・付加価値を伴った身近なサービスの充実で人口を維持 ・満足度が低いが、長く住み人が多い ・高齢者世帯が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・「二世帯（親と子）」の世帯：45%※2位 ・「夫婦のみ」の世帯：31%※1位 ・三世帯世帯：19% ※2位 ・単身世帯：5% ※3位 ・10年後も住み続ける：57%※3位 	
②自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ・自然的土地利用面積 91.4%※1位 ・ホテルの里公園 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境がいい 		<ul style="list-style-type: none"> ○夜空と開けた空間がある（静かさ） ○水がきれい ○ホテルの里
③歴史的環境	<ul style="list-style-type: none"> ・古小代の里公園 ・小代焼・竹箸 ・八角目古墳群 			<ul style="list-style-type: none"> ○小代焼・竹箸 ○公園、梅まつり、果林の里 ○窯元がある
④産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・企業アンケート対象 44社のうち、2社が存在 ※最下位 	<ul style="list-style-type: none"> ・休耕地が多い ・専業農家が少ない ・町外への就業者が多い ・ベンチャー企業 ・窯元の人との繋がりは重要 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民の通勤通学先：町内 23%※最下位、大牟田市 13% 	<ul style="list-style-type: none"> ○米がおいしい ×工業もない ×職業の選択の機会が少ない（地域に関わる仕事）

※委員意見は、令和元年度南関版コンパクトシティ構想策定委員会において、各委員から出された意見です。

項目	町の特性	委員意見※	町民アンケート 町内企業アンケート	ワークショップ
⑤ 生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設3施設※最下位 ・町営住宅1団地24戸※最下位 ・バス停から300m圏内人口/校区内人口：1.2%※最下位 ・医療施設から600m圏内人口/校区内人口：16.4%※最下位 ・商業施設から600m圏内人口/校区内人口：51.1%※最下位 ・洪水想定区域内人口/校区内人口：8.9%※最多1位 ・土砂災害危険箇所内人口/校区内人口：6.9%※最多1位 	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物圏が大牟田市、荒尾市 ・ふれあい広場が中心 ・乗合は重宝 ・公共交通の充実、乗り降り自由 ・買い物の満足度は低くない。 ・住宅地があれば住む ×大牟田市への西鉄バスの廃止。 ×新築数が少ない ×空き家が多い ×大牟田市、荒尾市に近いということが、住みやすさの向上に繋がっていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・「住みやすい」+「どちらかといえば住みやすい」：52%※最下位 ・「住みにくい」：18%※1位 ・買物先：大牟田市41%、町内他校区20%、荒尾市18%、自校区内10%※3位 ・自校区に欲しい施設(不足施設)： <ul style="list-style-type: none"> 1位：食料品や日用品の購入が出来るスーパーやコンビニ 2位：診療所などの医療機関 3位：ATMを含む金融機関 	<ul style="list-style-type: none"> ×日用品が買えない ×車がないところにも行けない★ ×幹線道路以外の道が狭い、急、ボロい ×坂道多く、自転車使えない
⑥ 子育て環境				<ul style="list-style-type: none"> ○地域の人子どもを気にかけている ○ふれあい広場 ○さかき診療所 ×施設が少ない(保育所他) ×子どもの遊ぶ場所がない、遊具がない ×車がないと、子育て介護が出来ない
⑦ 住民間の状況		<ul style="list-style-type: none"> ・小さな行事の開催により繋がりが深まる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事への参加： <ul style="list-style-type: none"> 毎回参加35%※1位 時々参加35%※最下位 	<ul style="list-style-type: none"> ○つながりがある ○協力関係がある ×消防団活動拒否する人もいる ×IUターンの方など地域に興味関心が少ない

※委員意見は、令和元年度南関版コンパクトシティ構想策定委員会において、各委員から出された意見です。

2) 第二小学校区のまちづくりの課題

①人口・世帯等に関する課題	◆4校区の中で最も人口減少、少子・高齢化が著しく、若い世代の移住・定住を促進する必要がある
②自然環境に関する課題	◆4校区の中で最も自然的土地利用が残っている校区であり、森林体験や農業体験等で関係人口の増加を図るべき
③歴史的環境に関する課題	◆古小代の里公園など、歴史的資源の一層の活用を図るべき
④産業・雇用に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆農業や伝統工芸が盛んな校区であり、地場産業の振興を図るべき(農産物のブランディングや農業体験、伝統工芸品づくりの体験や工房見学など) ◆耕作放棄地や遊休地等を活用して企業誘致等を図るべき
⑤生活環境に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆4校区の中で唯一公共交通(バス)の空白校区であり、車がなくても買物・通院に不便を感じないような方策を図るべき(移動販売や出前販売、リモートによる買物、オンライン診療など) ◆後継者や若い世帯の居住の受け皿となる住宅の供給を図るべき

	(空き家の活用や民間賃貸住宅の供給促進) ◆緊急時に対応できるよう、狭隘な生活道路の改善を進めるべき ◆災害に備え、ハード・ソフトの両面から災害に備えたまちづくりを進めるべき
⑥子育て環境に関する課題	◆子どもの遊び場の整備を図るべき ◆通学路の安全性の向上を進める必要がある
⑦住民コミュニティに関する課題	◆伝統的な祭りや伝統行事、校区行事の継承を図るべき ◆新旧住民が参加できるような交流イベントや活動の開催・継続化を図るべき

3) 課題から見た今後の取り組みの方向性

前記の課題を踏まえ、今後の取り組みの方向性として以下のようなことがあげられます。

■課題から見た取り組みの方向性

①若い世帯の移住・定住の促進

⇒空き家の活用、老朽化した町営住宅の改善・更新、民間による住宅・宅地の供給など

②豊かな自然、のどかな田園風景の保全と活用

⇒さるくルートとフォトスポットの創出、農業の体験学習、森林の保全・育成活動など

③農業や伝統工芸等、地場産業の振興

⇒地場産業の後継者の育成、PRなど

④昔ながらの集落環境の改善

⇒緊急路の確保、身近な公園の整備、空き家対策など、居住環境の整備

⑤高齢者等の買物・通院等支援策の検討

⇒移動販売、オンライン診察、既存支援策の利用利便性の向上など

(3) 第三小学校区

1) 現状の整理

(○：良好な特徴 ×：負の特徴)

項目	町の特性	委員意見※	町民アンケート 町内企業アンケート	ワークショップ
①人口・世帯状況	<ul style="list-style-type: none"> 2020(R2)年4月時点 2,075人・860世帯 ※3位 2015~2020年: 3.1%減少※4位 2015(H27)年10月時点 年少人口: 287人 (13.8%)※1位 生産人口: 1,058人 (51.0%)※3位 老年人口: 730人 (35.2%)※4位 	<ul style="list-style-type: none"> 子供の減少 子育て世代が多いが、買い物先が少なく、定住に繋がらない ばらまき施策でなく、一体となって考える 近隣市町の奪い合いではなく、UIJターンを南関町に持ってくる ×補助金を貰って転出 	<ul style="list-style-type: none"> 「二世帯(親と子)」の世帯: 53%※1位 「夫婦のみ」の世帯: 16%※4校区で最も少ない4位 三世帯世帯: 20%※1位 単身世帯: 3%※4位 10年後も住み続ける: 68%※2位 	
②自然環境	<ul style="list-style-type: none"> 自然的土地利用面積: 86.5%※2位 肥猪公園 	<ul style="list-style-type: none"> 自然が多い。 山の手入れが必要。 		<ul style="list-style-type: none"> ○ホテルがある ○星がすごくきれい ○運動会の「夕日」
③歴史的環境				<ul style="list-style-type: none"> ○神楽がある ○豊前街道 ○金栗ロード ○南関そうめん
④産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> 企業アンケート対象44社のうち、12社が存在※2位 ・南関東部工業団地 	<ul style="list-style-type: none"> ×企業に勤める定住人口が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> 住民の通勤通学先: 町内39%※1位、大牟田市5%、荒尾市5%、玉名市5% 	<ul style="list-style-type: none"> ○南関そうめん ○塩山食品(工場見学) ○地場産業(地元の野菜)

※委員意見は、令和元年度南関版コンパクトシティ構想策定委員会において、各委員から出された意見です。

項目	町の特性	委員意見※	町民アンケート 町内企業アンケート	ワークショップ
⑤ 生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーンヒル二城（16世帯） ・公共施設 4 施設 ※ 3 位 ・町営住宅 2 団地 72 戸 ※ 2 位 ・定住促進住宅（80 戸） ・バス停から 300m 圏内人口 / 校区内人口：75.9% ※ 1 位 ・医療施設から 600m 圏内人口 / 校区内人口：20.7% ※ 3 位 ・商業施設から 600m 圏内人口 / 校区内人口：61.6% ※ 2 位 ・洪水想定区域内人口 / 校区内人口：1.2% ※ 3 位 ・土砂災害危険箇所内人口 / 校区内人口：2.7% ※ 4 位 	<ul style="list-style-type: none"> ・山鹿との繋がり ・アパートと企業が多い ・中学校、小原地区が中心 ・30 代の満足度は高いが、40 代以降は満足度が下がる傾向 ・住みやすさの満足感が高い ・4～5 件程度の住宅地を作る ×送迎等の不安。送迎希望が多い ×乗合タクシーの充実。町外への乗り入れが必要。 ×道路整備、街灯の整備が必要 ×医療機関の少ない ×通学路の危険箇所が多い ×袋小路。 ×空き家の解体、手入れが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・「住みやすい」 + 「どちらかといえば住みやすい」：60% ※ 3 位 ・「住みにくい」：4% ※ 2 位 ・買物先：町内他校区 29%、山鹿市 19%、大牟田市 18%、自校区内 12% ※ 2 位 ・自校区に欲しい施設（不足施設）： <ul style="list-style-type: none"> 1 位：食料品や日用品の購入が出来るスーパーやコンビニ 2 位：診療所などの医療機関 3 位：多世代が交流できる施設やスペース 	<ul style="list-style-type: none"> ○IC があってアクセス良い ○道路が傷んでない ○商業施設（野菜畑、セブン） ○飲食（肥後茶屋、しずく屋、Ozaki パン、弁当みなみ、白うさぎ） ○花屋（風音） ○パーマ屋 4 つ ○交流センター（風呂屋あり） ○セブンイレブン ○農村広場 ×公共交通の便数が少ない ×車がないと不便、車ありき ×街灯が少ない ×眼科、皮膚科、産婦人科がない
⑥ 子育て環境	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援施設あり 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代が多い ・小学校が中心だと思うが、複式学級により、競争力が低下 ・魅力の低下による転出 ・中学校の存在をもっと活かすべき 		<ul style="list-style-type: none"> ○子育て支援センター1時間300円（見返りが不要） ○学校付近に団地がある ○同居世帯が多い ○助成金が充実 ○近所で近いので助けてもらえる ×子どもの病院の際の預かり病児保育
⑦ 住民間の状況		<ul style="list-style-type: none"> ・集会所の集まりが多い ・三小と一小的繋がり強い ・大きな行政区により、まとまりが昔からある ・地区の行事等も人情で繋がらず、お金などで繋がり、価値観が変化している ×住民同士の挨拶が少ない、特に中学生 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事への参加： <ul style="list-style-type: none"> 毎回参加 31% ※ 2 位 時々参加 37% ※ 3 位 	<ul style="list-style-type: none"> ○近所の人の名前が良く分かる ○神楽（子どもから年配者まで） ○区役（道づくり） ○どんどや ○消防団 ○交流センター区役が多い ×地域の人が意外と控えめ

※委員意見は、令和元年度南関版コンパクトシティ構想策定委員会において、各委員から出された意見です。

2) 第三小学校区のまちづくりの課題

①人口・世帯等に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆過去5年間の人口減少率は最も低い校区であるが、今後も若い世代の移住・定住の促進が必要 ◆年少人口の割合が最も高い校区であり、今後も子育て環境の充実を図るべき
②自然環境に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆第2校区に次いで自然的土地利用が残っている校区であり、自然環境の保全を図るべき

③歴史的環境に関する課題	—
④産業・雇用に関する課題	◆東部工業団地をはじめ多くの企業が立地しており、今後も地理的な優位性を生かして、企業誘致や起業支援を図るべき
⑤生活環境に関する課題	◆職住近接の利便性を生かした移住・定住の促進を図るべき ◆新しい住民が他校区より多いことから多様な意見があるため、状況を慎重に見極めたうえで、住み心地の良さを高める施策の検討が必要
⑥子育て環境に関する課題	◆子育てセンターがあり、子育て世代の住民が多い校区であるため、子育て環境の良さを生かした移住・定住の促進を図るべき ◆通学路の安全性の確保など一層の子育て環境の向上を進めるべき
⑦住民コミュニティに関する課題	◆交流の場の創出を図るとともに、新旧住民が参加できるような交流イベントや活動の継続化を図るべき

3) 課題から見た今後の取り組みの方向性

前記の課題を踏まえ、今後の取り組みの方向性として以下のようなことがあげられます。

■課題から見た取り組みの方向性

- ①立地企業の従業者の町内への移住の促進
- ②企業立地を生かした若い世代の定住促進
- ③雇用の場の確保
⇒インターへの近接性を企業誘致の推進、起業支援など
- ④若い世帯や単身者等のニーズに合う住宅・宅地の供給促進
- ⑤集落地の居住環境の改善
⇒空き家対策、緊急路の確保、身近な公園の整備など、居住環境の整備
- ⑥住み心地の向上、住む付加価値づくり
- ⑦新旧住民や企業従業者と住民との交流促進
⇒交流の場、交流の機会づくりなど

(4) 第四小学校区

1) 現状の整理

(○：良好な特徴 ×：負の特徴)

項目	町の特性	委員意見※	町民アンケート 町内企業アンケート	ワークショップ
①人口・世帯状況	<ul style="list-style-type: none"> ・2020(R2)年4月時点 1,998人・911世帯 ※最下位 ・2015～2020年： 9.3%減少※2位 ・2015(H27)年10月時点 年少人口：198人 (9.9%)※3位 生産人口：1,089人 (54.5%)※1位 老年人口：711人 (35.6%)※3位 	<ul style="list-style-type: none"> ・校区外、町外との交流人口を増やしなが ら地域を維持する ・他町からの人気があ る ×人口減少や高齢化が 問題 	<ul style="list-style-type: none"> ・「二世帯(親と子)」の 世帯：43%※3位 ・「夫婦のみ」の世帯： 21%※3位 ・三世帯世帯： 15%※3位 ・単身世帯： 7%※2位 ・10年後も住み続け る：49%※最下位 	
②自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ・自然的土地利用面積： 80.8%※3位 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境は良い ・自然環境の保全のため の森林行政が必要 		<ul style="list-style-type: none"> ○蛍が見られる 自然が美しい 山田園 ×河川の近くは氾濫がある ×倒木などがある

※委員意見は、令和元年度南関版コンパクトシティ構想策定委員会において、各委員から出された意見です。

項目	町の特性	委員意見※	町民アンケート 町内企業アンケート	ワークショップ
③ 歴史的環境				○坂下阿蘇神社の夏越祭（花火がきれい） ○伝統行事（わらざうり作りなど）「地域の大先輩に学ぶ会」
④ 産業・雇用	・企業アンケート対象44社のうち、18社が存在※1位	・職場が多い ・職住近接を活かせないか	・住民の通勤通学先： 町内30%※3位、 玉名市13%	○ゴルフ場 ○エコアくまもと（環境学習）
⑤ 生活環境	・公共施設6施設※3位 ・町営住宅3団地32戸※3位 ・バス停から300m圏内人口/校区内人口：49.9%※3位 ・医療施設から600m圏内人口/校区内人口：35.5%※1位 ・商業施設から600m圏内人口/校区内人口：51.9%※3位 ・洪水想定区域内人口/校区内人口：0.0%※4位 ・土砂災害危険箇所内人口/校区内人口：3.7%※3位	・移動販売を地域公民館や病院等の駐車場で出来ないか ・住民同士の移送サービス ・施設の送迎車利用 ・単身者のよりどころが必要 ・コンビニや郵便局などに、行政やサービスを繋ぐコーナーの設置 ・民間のアパートが多い ×自家用車必須 ×県道沿いは大型車などの騒音 ×非常時の交通手段が課題 ×買い物の利便性が高いが、町外への買い物が主	・「住みやすい」+「どちらかといえば住みやすい」：69%※2位 ・「住みにくい」：2%※最下位4位 ・買物先：玉名市39%、大牟田市23%、荒尾市17%、自校区内5%※最下位 ・自校区に欲しい施設（不足施設）： 1位：食料品や日用品の購入が出来るスーパーやコンビニ 2位：診療所などの医療機関 3位：多世代が交流できる施設やスペース	○近隣市街へのアクセスが良い ○バスが通ってる（ギリ） ○ガソリンスタンドがある ○ファミマ ×高齢者の買い物が不便 ×通学路の危険箇所歩道がないところがある ×食事をするお店（カフェや気軽に食べる所）がない ×アパート・団地が少ない。借家がない。 ×空き家活用されていない
⑥ 子育て環境		×子供は送迎が必須 ×学校の生徒数が問題		○幼稚園がある ○田辺医院や歯医者がある ×公園がない ×保育園が遠い ×習い事の送迎が（高校生も）大変 ×小児科など病院が少ない ×公園など子どもだけで遊ぶ場所がない
⑦ 住民間の状況				○坂下阿蘇神社の夏越祭（花火がきれい） ○伝統行事（わらざうり作りなど）「地域の大先輩に学ぶ会」

※委員意見は、令和元年度南関版コンパクトシティ構想策定委員会において、各委員から出された意見です。

2) 第四小学校区のまちづくりの課題

①人口・世帯等に関する課題	◆人口が最も少ない校区で、少子高齢化も進行しているため、若い世代の移住・定住の促進が必要
②自然環境に関する課題	◆良好な自然環境やのどかな田園風景が残っている校区であり、これらの保全を図るべき ◆災害に備え、ハード。ソフトの両面から災害に備えたまちづくりを進めるべき
③歴史的環境に関する課題	◆伝統的な祭りや伝統行事、校区行事の継承を図るべき
④産業・雇用に関する課題	◆菊水インターへのアクセス性を生かし、一層の企業誘致や起業支援を図るべき
⑤生活環境に関する課題	◆居住環境の整備や賃貸住宅の供給を促進し、校区内に立地している企業の従業員の移住の促進を図るべき ◆高齢になっても買物・通院などに不便を感じないような方策を図るべき（移動販売や出前販売、リモートによる買物、オンライン診療など）
⑥子育て環境に関する課題	◆多くの企業が立地しているため、子育て環境の充実を図り、子育て世代の企業従業員の移住の促進を図るべき
⑦住民コミュニティに関する課題	◆既存の施設の活用を図りながら、新旧住民が参加できるような活動や交流イベントの継続化を図るべき

3) 課題から見た今後の取り組みの方向性

前記の課題を踏まえ、今後の取り組みの方向性として以下のようなことがあげられます。

■課題から見た取り組みの方向性

- ①立地企業を生かした若い世帯の移住・定住の促進
⇒空き家の活用、老朽化した町営住宅の改善、民間による住宅・宅地の供給など
- ②自然環境や田園風景の保全と活用
⇒フォトスポットの創出、農業の体験学習、森林の保全・育成活動など
- ③幹線道路の安全確保
⇒通学路の安全確保、夜道の安全確保（防犯灯・道路照明の設置）など
- ④昔ながらの集落環境の改善
⇒緊急路の確保、身近な公園の整備、空き家対策など、居住環境の整備
- ⑤高齢者等の買物・通院等支援策の検討
⇒移動販売、オンライン診察、既存支援策の利用利便性の向上など
- ⑥新旧住民や企業従業員と住民との交流促進
⇒交流の場、交流の機会づくりなど

第7章

地域未来構想（まちづくりの方向）

前記の町全体のまちづくりに関わる課題及び各校区のまちづくりの課題を踏まえ、町全体の未来構想（まちづくりの方向）、各校区別の未来構想（まちづくりの方向）、及びモデル地区のまちづくり構想を示します。

1. 町全体の未来構想

（1）まちづくりの方針

まちづくりの課題を短期間に全てを解決するのは難しいため、町民アンケートやワークショップにおいて今後のまちづくりに重要であると指摘された“魅力づくり”“住む場所づくり”“拠点づくり”“人づくり”の4つの柱でまちづくりに取り組むことを“4点トッパ”（突破）としてまちづくりの方針とします。

■町全体のまちづくりの方針

4点トッパ(突破)で “ 味のある拠点の連携と安心して暮らせる協働のまち ”
を目指す



南関4点トッパ(突破)



(2) 南関町の将来像

1) 周辺4都市と連携したまちづくりの将来像

本町は、世界遺産やテーマパークがある“大牟田市”、“荒尾市”、八千代座や温泉がある“山鹿市”、“玉名市”と隣接しており、南関インターは、これら4都市への玄関口となっています。

このため、今後の南関町のまちづくりは、町域の枠を越えた広域的な視野で周辺4都市を取り込み、“来て・観て・住んでもらうまちづくり”を目指し、魅力ある、住み心地の良いまちづくりを進めます。

町域の枠を越え、周辺4都市を取り込んだ、魅力ある住み心地の良いまちづくり

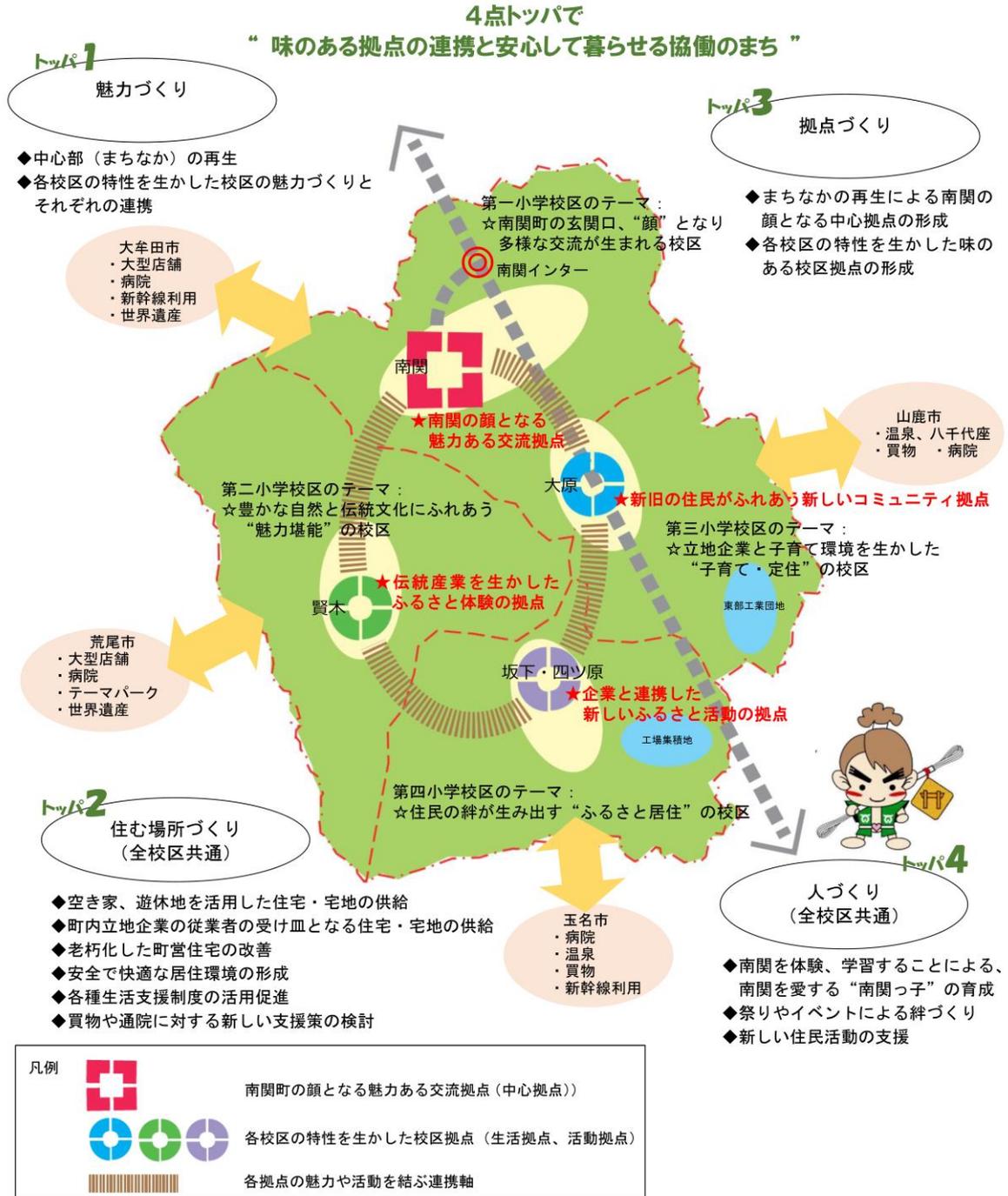
- 世界遺産や八千代座、温泉を訪れる観光客や修学旅行客が南関町の拠点に立ち寄り、南関町を楽しんで、住んでみたいくなるような魅力あるまち
- 周辺4都市に広がる生活圏域を形成し、4点トッパに取り組むことにより、日常生活はもとより、余暇も十分に楽しめ、町内の企業に通勤して来る町外居住者も、南関町に住みたくないような魅力あるまち



2) 4点トッパのまちづくりの将来像

4点トッパ（4つの施策の柱の展開と4つの拠点形成）により、“味のある拠点の連携と安心して暮らせる協働のまちづくり”を推進します。

■町全体の将来像



3) 南関版コンパクトシティの推進

南関版コンパクトシティの柱として、また町の一大プロジェクトとして令和3年度に役場庁舎、保健センター、地域包括支援センターを旧南関高校跡地を活用した役場新庁舎へ移転し、行政機能を集約することで防災及びまちづくりの拠点形成を進めてきました。

今後は、旧役場庁舎、公民館跡地、温泉施設廃止後の南の関うから館を活用し、さらなるまちなかの魅力化と行政コストの削減及び住民の利便性向上に取り組み、良好で魅力ある住まいづくり、まちづくりの実現を推進します。

(3) 施策の展開

4つの施策の柱ごとに、具体的な施策展開のイメージを以下に示します。

<p>トッパ1</p> <p>魅力づくり</p>	<p>《行政と住民、事業者等が協働で行うこと》施策展開のイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆中心部（まちなか・中心市街地）の再生⇒新庁舎を核とした南関版コンパクトシティの実現 <ul style="list-style-type: none"> ・旧役場及び公民館の敷地活用、うから館の活用 ・老朽化した町営住宅の改善 ・ニーズに合う魅力的な商店街の形成、活性化 ・空き家・空き店舗を活用した魅力ある施設の創出（お店、アトリエ、休憩所、交流施設、宿泊施設等） ◆各校区の特性を生かした校区の魅力づくりとそれぞれの連携 <ul style="list-style-type: none"> ・第一校区の特性：豊富な歴史的資源、伝統産業、公共公益施設や商業施設の集積、南関インターとの近接性など ・第二校区の特性：ゆたかな自然環境、農業や伝統工芸等の伝統産業など ・第三校区の特性：企業の集積、個性的なお店の点在、若い移住世帯など ・第四校区の特性：ゆたかな自然環境、企業の集積、PTA活動を柱とした強い住民コミュニティなど
<p>トッパ2</p> <p>住む場所づくり</p> <p>※全校区共通</p>	<p>《行政と住民、事業者等が協働で行うこと》施策展開のイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆空き家、遊休地を活用した住宅・宅地の供給 <ul style="list-style-type: none"> ・移住体験お試し住宅としての活用、民間賃貸住宅や持家としての活用 ・借り上げ町営住宅としての活用 ◆町内立地企業の従業員の受け皿となる住宅・宅地の供給 <ul style="list-style-type: none"> ・民間による賃貸住宅や分譲宅地・住宅の供給 ◆老朽化した町営住宅の改善 ◆安全で快適な居住環境の形成 <ul style="list-style-type: none"> ・安全な道づくり（通学路や夜道の安全性、緊急車両の進入路など） ・危険な空き家（特定空家）の除却 ・子どもの遊び場や憩い場の創出 ◆各種生活支援制度の活用促進 <ul style="list-style-type: none"> ・“住んでよかったプロジェクト”の周知、活用促進（見直しを含む） ◆買物や通院に対する新しい支援策の構築 <ul style="list-style-type: none"> ・移動販売やオンラインショップ、訪問診療、オンライン診療など、車がなくても買物・通院等の不便を感じさせないしくみの構築 ・お店や医療機関と連携した、デリバリーや送迎等の検討
<p>トッパ3</p> <p>拠点づくり</p>	<p>《行政と住民、事業者等が協働で行うこと》施策展開のイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆まちなかの再生による南関の顔となる魅力ある交流拠点（中心拠点）の形成 <ul style="list-style-type: none"> ・交流拠点としての「うから館」の活用、旧役場及び公民館の敷地活用 ・個性ある商店街の形成 ・まちなか居住の促進 ◆各校区の特性を生かした味のある校区拠点（生活拠点）の形成 <ul style="list-style-type: none"> ・第一校区：南関の顔となる魅力ある交流拠点 ・第二校区：伝統産業を生かしたふるさと体験の拠点 ・第三校区：新旧の住民がふれあう新しいコミュニティ拠点 ・第四校区：企業と連携した新しいふるさと活動の拠点
<p>トッパ4</p> <p>人づくり</p> <p>※全校区共通</p>	<p>《行政と住民、事業者等が協働で行うこと》施策展開のイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆南関を体験、学習することによる、南関を愛する“南関っ子”の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・自然体験学習、伝統産業の体験学習等 ・企業や伝統産業の工場見学、伝統工芸の工房見学等 ・都会の子を受け入れる山村留学制度（南関留学）の検討 ◆祭りやイベントによる絆づくり <ul style="list-style-type: none"> ・伝統行事や祭りの継承、校区運動会等の校区行事、花いっぱい運動などの住民活動の活発化 ・町内の企業や事業者と連携した、新しい交流イベントの開催 ◆新しい住民活動の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・提案型活動助成の検討 ・自治会活動、自主防災活動などの活性化

2. 校区别未来構想

各校区のまちづくりについても、町全体のまちづくりと同様に4点トッパ（4つの施策の柱の展開と4つの拠点形成）による施策展開を図ります。

以下に、各校区の未来構想（まちづくりの方向性）を示します。

(1) 第一小学校区

1) 校区のまちづくりのテーマ

南関町の玄関口、“顔”となり多様な交流が生まれる校区

2) 施策の展開

<p>トッパ1</p> <p>魅力づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆今あるものを生かした魅力づくり <ul style="list-style-type: none"> ・豊前街道と史跡をめぐるルートとフォトスポットの整備 ・空き家・空き店舗を活用した魅力ある施設の創出（移住体験お試し住宅、お店、アトリエ、交流サロン、託児所、宿泊施設など多様な活用） ・季節ごとの祭りの継承とPR ◆新しい魅力の創出 <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設の再生に併せた、まちのニーズに合う魅力ある商店街づくり ・新庁舎周りの芝生広場での、町外からも人を呼び込む新しいイベントの開催
<p>トッパ2</p> <p>住む場所づくり ※全校区共通</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆立地企業の従業者の受け皿となる住宅・宅地の供給 <ul style="list-style-type: none"> ・民間による賃貸住宅、分譲住宅、宅地の供給 ◆空き家、遊休地を活用した住宅・宅地の供給 <ul style="list-style-type: none"> ・お試し住宅、民間賃貸住宅や持家 ◆老朽化した町営住宅の改善 ◆安全で快適な居住環境の形成 <ul style="list-style-type: none"> ・安全な道づくり、危険な空き家（特定空家）の除却 ・子どもの遊び場や憩いの場の創出 ◆各種生活支援制度の活用促進 <ul style="list-style-type: none"> ・“住んでよかったプロジェクト”の周知、活用促進（見直しを含む） ◆新しい通院支援策の構築（南関デジタル化推進計画の実現） <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン診療など、車がなくても通院等の不便を感じさせないしくみの構築 ◆新しい買物支援策の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・民間事業者による移動販売やオンラインショップ、宅配サービスなど
<p>トッパ3</p> <p>拠点づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆公共施設の更新、再配置等に合わせた中心拠点の形成 ⇒南関の顔となる魅力ある交流拠点 <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設や町営住宅の改善・更新 ・町民の活動・交流拠点の創出
<p>トッパ4</p> <p>人づくり ※全校区共通</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆南関を愛する“南関っ子”の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・自然体験学習、伝統産業の体験学習等 ・企業や伝統産業の工場見学、伝統工芸の工房見学等 ・都会の子を受け入れる山村留学制度（南関留学）の検討 ◆祭りやイベントによる絆づくり <ul style="list-style-type: none"> ・伝統行事や祭りの継承、校区運動会等の校区行事や住民活動の活発化 ・町内の企業や事業者と連携した、新しい交流イベントの開催 ◆新しい住民活動の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・提案型活動助成の検討 ・自治会活動、自主防災活動などの活性化

3) 第一小学校区の未来構想図

第一小学校区の未来構想図

南関町の玄関口、“顔”となり多様な交流が生まれる校区

トッパ1

魅力づくり

- 豊前街道と史跡めぐりルートとフォトスポットの整備
- 古民家活用のお店や休憩所、宿泊施設など
- 防災広場でのイベント

トッパ3

拠点づくり

- 南関の顔となる魅力ある交流拠点
- ※公共施設の再生、再配置等に合わせた中心市街地の再生
- ⇒ 魅力ある商店街の形成
- ・歩いて暮らせる快適環境の形成
- ・まちなか居住の推進



トッパ2

住む場所づくり
(全校区共通)

- 町内立地企業の従業員の受け皿となる住宅・宅地の供給
- 空き家、遊休地を活用した住宅・宅地の供給
- 老朽化した町営住宅の改善
- 安全で快適な居住環境の形成
- 各種生活支援制度の活用促進
- 買物や通院に対する新しい支援策の構築

トッパ4

人づくり
(全校区共通)

- 南関を体験、学習することによる、南関を愛する“南関っ子”の育成
- 祭りやイベントによる絆づくり
- 新しい住民活動の支援

凡例：★学校・幼稚園 ◆公共公益的施設 ▲医療施設 ●商業施設・宿泊施設 ■歴史的資源
●町営住宅 ●公園・広場

(2) 第二小学校区

1) 校区のまちづくりのテーマ

豊かな自然と伝統文化にふれあう“魅力堪能”の校区

2) 施策の展開

<p>トッパ1</p> <p>魅力づくり</p>	<ul style="list-style-type: none">◆今あるものを生かす<ul style="list-style-type: none">・自然と歴史と食（農産物や郷土料理）をめぐるルートとフォトスポットの創出・伝統工芸の工房見学や体験学習・ホテルの里公園や古小代の里公園での体験イベントや体験学習・魅力スポットやお店のマップづくりとPR◆新しい魅力を生み出す<ul style="list-style-type: none">・農産物のブランディングや新商品（加工品）開発・集落営農の推進
<p>トッパ2</p> <p>住む場所づくり</p> <p>※全校区共通</p>	<ul style="list-style-type: none">◆空き家、遊休地を活用した住宅・宅地の供給<ul style="list-style-type: none">・お試し住宅、民間賃貸住宅や持家◆立地企業の従業員の受け皿となる住宅・宅地の供給<ul style="list-style-type: none">・民間による賃貸住宅、分譲住宅、宅地の供給◆老朽化した町営住宅の改善◆安全で快適な居住環境の形成<ul style="list-style-type: none">・安全な道づくり、危険な空き家（特定空家）の除却・子どもの遊び場や憩いの場の創出◆各種生活支援制度の活用促進<ul style="list-style-type: none">・“住んでよかったプロジェクト”の周知、活用促進（見直しを含む）◆新しい通院支援策の構築（南関デジタル化推進計画の実現）<ul style="list-style-type: none">・オンライン診療など、車がなくても通院等の不便を感じさせないしくみの構築◆新しい買物支援策の検討<ul style="list-style-type: none">・民間事業者による移動販売やオンラインショップ、宅配サービスなど
<p>トッパ3</p> <p>拠点づくり</p>	<ul style="list-style-type: none">◆既存の生活拠点（学校周辺）に特色を持たせる<ul style="list-style-type: none">⇒伝統産業を生かしたふるさと体験の拠点・空き家、公民館、小学校の空き教室、ふれあい広場等を活用した交流拠点の形成（郷土料理教室、農家体験、工芸体験、自然体験学習等による交流）
<p>トッパ4</p> <p>人づくり</p> <p>※全校区共通</p>	<ul style="list-style-type: none">◆南関を愛する“南関っ子”の育成<ul style="list-style-type: none">・自然体験学習、伝統産業の体験学習等・企業や伝統産業の工場見学、伝統工芸の工房見学等・都会の子を受け入れる山村留学制度（南関留学）の検討◆祭りやイベントによる絆づくり<ul style="list-style-type: none">・伝統行事や祭りの継承、校区運動会等の校区行事や住民活動の活発化・町内の企業や事業者と連携した、新しい交流イベントの開催◆新しい住民活動の支援<ul style="list-style-type: none">・提案型活動助成の検討・自治会活動、自主防災活動などの活性化

3) 第二小学校区の未来構想図

第二小学校区の未来構想図

豊かな自然と伝統文化にふれあう“魅力堪能”の校区

トッパ1

魅力づくり

- 自然と歴史と食をさろくルートとフォトスポット
- 伝統工芸の工房見学、工芸体験、農業体験イベント
- ホテルの里公園や古小代の里公園での体験イベント
- 農産物のブランディングや新商品（加工品）開発

トッパ3

拠点づくり

- 伝統産業を生かした
ふるさと体験の拠点
- ※既存施設（空き家、公民館、小学校の空き教室、公園施設等）を活用した交流拠点の創出
⇒郷土料理教室、農家体験、工芸体験、自然体験学習等による交流



トッパ2

住む場所づくり (全校区共通)

- 空き家、遊休地を活用した住宅・宅地の供給
- 町内立地企業の従業員の受け皿となる住宅・宅地の供給
- 老朽化した町営住宅の改善
- 安全で快適な居住環境の形成
- 各種生活支援制度の活用促進
- 買物や通院に対する新しい支援策の構築

トッパ4

人づくり (全校区共通)

- 南関を体験、学習することによる、南関を愛する“南関っ子”の育成
- 祭りやイベントによる絆づくり
- 新しい住民活動の支援

凡例：★学校・幼稚園	◆公共公益的施設	▲医療施設	●商業施設・宿泊施設	■歴史的資源
●町営住宅	●公園・広場			

(3) 第三小学校区

1) 校区のまちづくりのテーマ

立地企業と子育て環境を生かした“子育て・定住”の校区

2) 施策の展開

<p>トッパ1</p> <p>魅力づくり</p>	<ul style="list-style-type: none">◆今あるものを生かす<ul style="list-style-type: none">・やさい畑直売所や郷土料理のお店など魅力ある店舗のマップづくりとPR・空き家を活用した魅力施設の創出（お店、アトリエ、交流サロン、託児所、宿泊施設など）◆新しい魅力を生み出す<ul style="list-style-type: none">・お店と連携した、郷土料理教室やパンづくり教室の開催など・新旧住民や企業従業者等と住民との交流に向けた新しい校区イベント
<p>トッパ2</p> <p>住む場所づくり</p> <p>※全校区共通</p>	<ul style="list-style-type: none">◆空き家、遊休地を活用した住宅・宅地の供給<ul style="list-style-type: none">・お試し住宅、民間賃貸住宅や持家◆立地企業の従業者の受け皿となる住宅・宅地の供給<ul style="list-style-type: none">・民間による賃貸住宅、分譲住宅、宅地の供給◆老朽化した町営住宅の改善◆安全で快適な居住環境の形成<ul style="list-style-type: none">・安全な道づくり、危険な空き家（特定空家）の除却・子どもの遊び場や憩いの場の創出◆各種生活支援制度の活用促進<ul style="list-style-type: none">・“住んでよかったプロジェクト”の周知、活用促進（見直しを含む）◆新しい通院支援策の構築（南関デジタル化推進計画の実現）<ul style="list-style-type: none">・オンライン診療など、車がなくても通院等の不便を感じさせないしくみの構築◆新しい買物支援策の検討<ul style="list-style-type: none">・民間事業者による移動販売やオンラインショップ、宅配サービスなど
<p>トッパ3</p> <p>拠点づくり</p>	<ul style="list-style-type: none">◆既存施設を活用した交流拠点の創出<ul style="list-style-type: none">⇒新旧の住民がふれあう新しいコミュニティ拠点・交流の場として、公共施設の活用・空き家等を活用した交流の場の創出
<p>トッパ4</p> <p>人づくり</p> <p>※全校区共通</p>	<ul style="list-style-type: none">◆南関を愛する“南関っ子”の育成<ul style="list-style-type: none">・自然体験学習、伝統産業の体験学習等・企業や伝統産業の工場見学、伝統工芸の工房見学等・都会の子を受け入れる山村留学制度（南関留学）の検討◆祭りやイベントによる絆づくり<ul style="list-style-type: none">・伝統行事や祭りの継承、校区運動会等の校区行事や住民活動の活発化・町内の企業や事業者と連携した、新しい交流イベントの開催◆新しい住民活動の支援<ul style="list-style-type: none">・提案型活動助成の検討・自治会活動、自主防災活動などの活性化

3) 第三小学校区の未来構想図

第三小学校区の未来構想図

立地企業と子育て環境を生かした“子育て・定住”の校区



<p>凡例：★学校・幼稚園 ◆公共公益的施設 ●商業施設・宿泊施設 ■歴史的資源 ●町営住宅</p> <p>●公園・広場</p>
--

(4) 第四小学校区

1) 校区のまちづくりのテーマ

住民の絆が生み出す“ふるさと居住”の校区

2) 施策の展開

<p>トッパ1</p> <p>魅力づくり</p>	<ul style="list-style-type: none">◆今あるものを生かす<ul style="list-style-type: none">・エコア熊本と連携した、環境学習と自然体験イベント・祭りや伝統行事、住民活動などのPR・企業や農家と連携した、工場見学や農業体験等の検討・空き家を活用した魅力施設の創出（お店、アトリエ、交流サロン、託児所、宿泊施設など多様な活用）◆新しい魅力を生み出す<ul style="list-style-type: none">・住民による幹線道路沿道の美化・魅力づくり活動・農産物のブランディングや新商品（加工品）開発・集落営農の推進
<p>トッパ2</p> <p>住む場所づくり</p> <p>※全校区共通</p>	<ul style="list-style-type: none">◆空き家、遊休地を活用した住宅・宅地の供給<ul style="list-style-type: none">・お試し住宅、民間賃貸住宅や持家◆立地企業の従業員の受け皿となる住宅・宅地の供給<ul style="list-style-type: none">・民間による賃貸住宅、分譲住宅、宅地の供給◆老朽化した町営住宅の改善◆安全で快適な居住環境の形成<ul style="list-style-type: none">・安全な道づくり、危険な空き家（特定空家）の除却・子どもの遊び場や憩いの場の創出◆各種生活支援制度の活用促進<ul style="list-style-type: none">・“住んでよかったプロジェクト”の周知、活用促進（見直しを含む）◆新しい通院支援策の構築（南関デジタル化推進計画の実現）<ul style="list-style-type: none">・オンライン診療など、車がなくても通院等の不便を感じさせないしくみの構築◆新しい買物支援策の検討<ul style="list-style-type: none">・民間事業者による移動販売やオンラインショップ、宅配サービスなど
<p>トッパ3</p> <p>拠点づくり</p>	<ul style="list-style-type: none">◆既存施設を活用した活動の創出<ul style="list-style-type: none">⇒ 企業と連携した新しいふるさと活動の拠点・町民センターや小学校の空き教室等を活用した交流拠点や活動拠点の創出◆既存の生活拠点（学校周辺）の充実<ul style="list-style-type: none">・公園や広場の創出
<p>トッパ4</p> <p>人づくり</p> <p>※全校区共通</p>	<ul style="list-style-type: none">◆南関を愛する“南関っ子”の育成<ul style="list-style-type: none">・自然体験学習、伝統産業の体験学習等・企業や伝統産業の工場見学、伝統工芸の工房見学等・都会の子を受け入れる山村留学制度（南関留学）の検討◆祭りやイベントによる絆づくり<ul style="list-style-type: none">・伝統行事や祭りの継承、校区運動会等の校区行事や住民活動の活発化・町内の企業や事業者と連携した、新しい交流イベントの開催◆新しい住民活動の支援<ul style="list-style-type: none">・提案型活動助成の検討・自治会活動、自主防災活動などの活性化ど

3) 第四小学校区の未来構想図

第四小学校区の未来構想図

住民の絆が生み出す“ふるさと居住”の校区

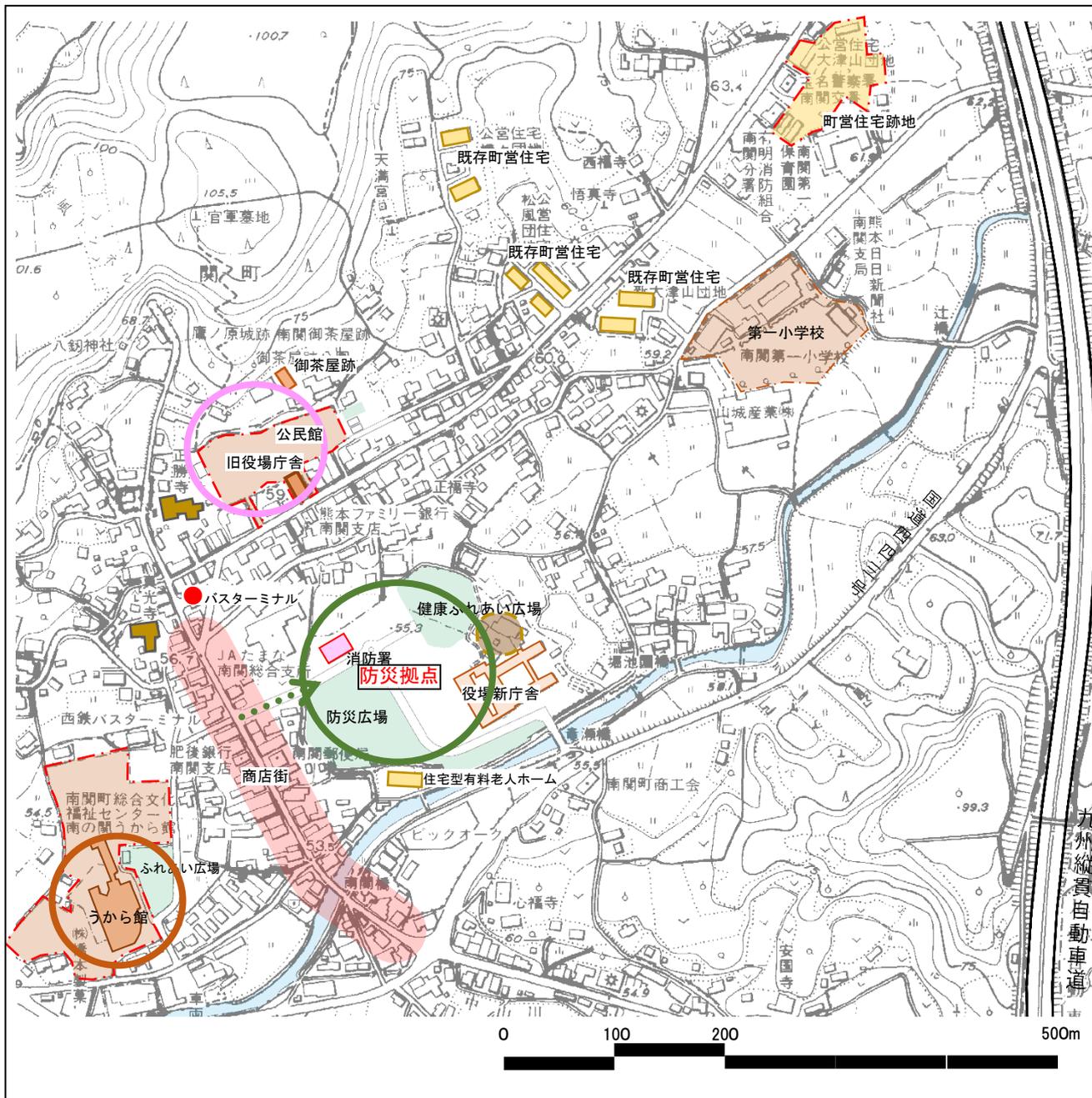


3. モデル地区のまちづくり構想

(1) モデル地区の位置づけ

“拠点づくり”のモデルとして、町全体の未来構想において“南関町の顔となる魅力ある交流拠点”と位置付けた、新庁舎、うから館、旧庁舎・公民館跡地、商店街等を中心とする下図のエリアを、モデル地区及び南関版コンパクトシティ推進エリアに位置付けます。

■モデル地区



(2) モデル地区のまちづくり構想 (3案比較)

3案のモデル地区のまちづくり構想 (案) について比較検討します。

1) A案

<p>比較検討案</p>	<p>A案：・図書館は残して旧庁舎跡地には起業支援施設を配置 (暫定利用)</p> <p>■地域密着型特別養護老人ホーム 町営住宅跡地 ⇒民間による戸建て住宅及び分譲宅地 +若い世代と高齢世代のミックス型の 集合住宅</p> <p>旧役場・公民館敷地の一部 ⇒多目的広場+来客用駐車場</p> <p>旧役場・公民館敷地の一部 ⇒起業支援拠点 (シェアオフィスやチ レンジショップなど) +カフェ</p> <p>図書館は現状のまま</p> <p>健康ふれあい広場 防災拠点 役場新庁舎 防災広場</p> <p>子どもや高齢者の遊び場拠点</p> <p>0 100 200 500m</p>
<p>考え方</p>	<p>○図書館：・現在の位置で継続利用</p> <p>○旧役場、公民館敷地：起業支援拠点+多目的広場 ・図書館と連携した起業支援 (応援) 施設とカフェ ※コンテナハウスなど暫定利用として考える ・起業支援施設の横は、多目的広場+来客用駐車場</p> <p>○うから館：・2階部分/公民館機能の移設 ・1階部分/隣接のふれあい広場と連続した“子どもと高齢者等の遊びの拠点”の創出</p> <p>○めぐりルート：商店街と御茶屋跡を結ぶルート (カラー舗装化)</p>
<p>メリット</p>	<p>○若い世代の起業支援により、若い世代の定住やUターンの促進にもつながる。</p> <p>○起業支援施設やカフェを、暫定利用のコンテナハウスで設置することにより、ニーズの変化への対応が可能。</p> <p>○うから館が子育て世代や高齢者が利用する施設になり、多世代交流も生まれる。</p>
<p>デメリット</p>	<p>○図書館の建物が残るため、旧役場跡地への視認性やアクセス性が改善されない。</p>
<p>総合評価</p>	<p>○旧役場跡地の活用：起業支援施設は、必ずしも南関町の“顔”となるべき位置にある必要がなく、商店街の活性化にもつながりにくい。△</p> <p>○図書館の活用：企業支援施設を活用する起業家への情報提供施設として図書館が生きてくる。○</p> <p>○うから館の活用：図書館を移設する案と比べて、若者の“たまり場”にはなりにくい。△</p>

2) B案

<p>比較検討案</p>	<p>B案：・旧庁舎跡地に南関のPR拠点を配置 ・図書館機能をうから館に移設して郷土資料館に用途変更</p>
<p>考え方</p>	<p>○図書館：・郷土資料館に用途変更 ○旧役場、公民館敷地：南関のPR拠点+和風公園 ・伝統工芸館やビジターセンター、市場、郷土料理など ・御茶屋跡の前はくつろげる歴史を感じさせる和風の広場+来客用駐車場 ○うから館：・2階部分/公民館機能の移設 ・1階部分/図書館機能の移設 ⇒ 本のある“たまり場（多世代交流拠点）”の創出 ○めぐりルート：うから館—商店街—正勝寺—御茶屋跡を結ぶルート（カラー舗装化）</p>
<p>メリット</p>	<p>○南関の顔となる場所に南関の歴史や伝統産業を紹介する拠点が形成される。 ○御茶屋跡や官軍墓地、豊前街道などの点在する歴史的資源の近くに郷土資料館が配置される。 ○うから館が「多様な世代が日常的に気軽に利用できる施設」になる。</p>
<p>デメリット</p>	<p>○図書館の建物が残るため、旧役場跡地への視認性やアクセス性が改善されない。 ○うから館の1階部分に図書館機能を移設する場合、建物の構造チェックが必要。</p>
<p>総合評価</p>	<p>○旧役場跡地の活用：南関のPR拠点は南関町の“顔”となる位置にふさわしい。○ ○図書館の活用：南関町の“顔”となる位置にふさわしいが、PR拠点への視認性を妨げている。△ ○うから館の活用：図書館や公民館などの多様な世代が利用する施設の複合化により、交流拠点となることが期待できる。○</p>

3) C案

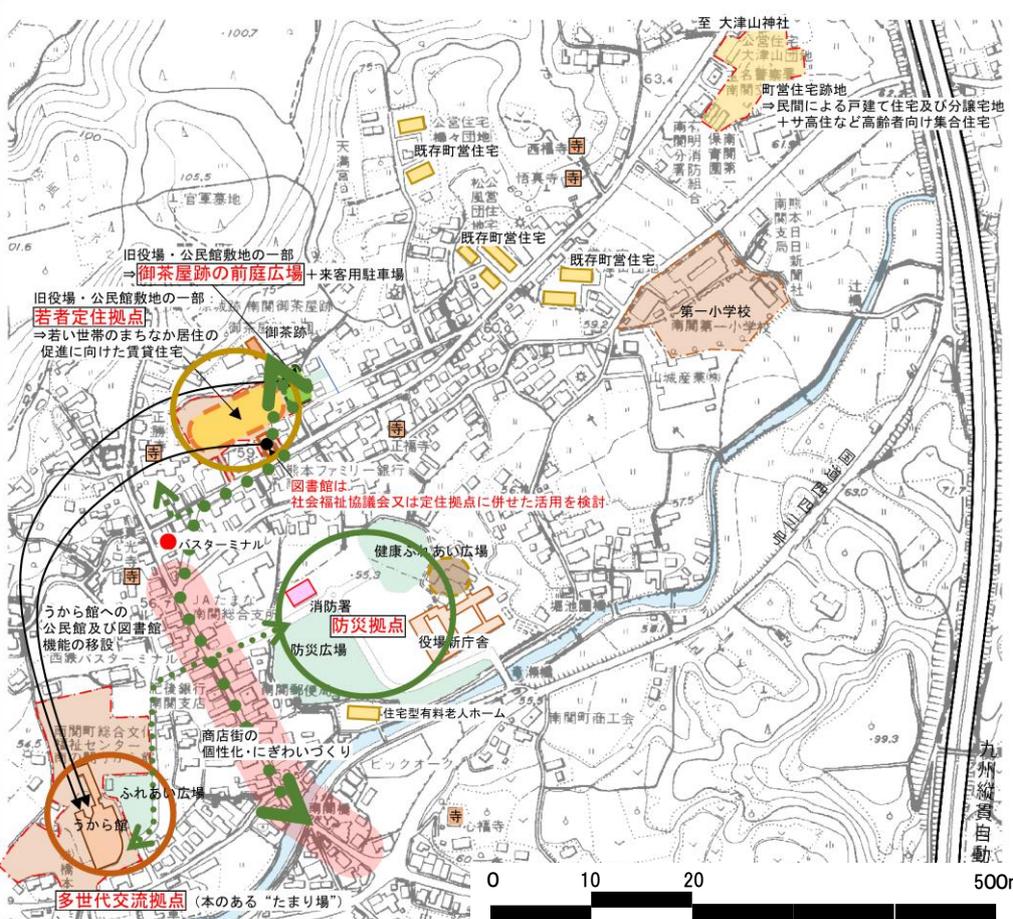
<p>比較検案</p>	<p>C案：・旧庁舎跡地に若者定住拠点（若い世帯向け住宅＋子供の遊具広場）を配置 ・図書館は機能をうから館に移設して社会福祉協議会に用途変更</p>
<p>考え方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○図書館：・社会福祉協議会に用途変更 ○旧役場、公民館敷地：若者定住拠点＋子どもの遊具広場 <ul style="list-style-type: none"> ・若い世帯向け賃貸住宅＋子どもの遊具広場 ○うから館：・2階部分/公民館機能の移設 <ul style="list-style-type: none"> ・1階部分/図書館＋郷土資料館機能⇒“生涯学習拠点” ○めぐりルート：中心部から大津山公園までのルート（カラー舗装化）
<p>メリット</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○若い世帯の居住の受け皿が提供され、まちなか居住が促進される。⇒商店街の利用者も増える。
<p>デメリット</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○旧役場及び公民館跡地が開かれた場所になりにくい。 ○郷土資料館は歴史学習など限られた目的利用となるため、誰もが気軽に立ち寄れる交流拠点にはなりにくい。 ○うから館の1階部分に図書館機能を移設する場合、建物の構造チェックが必要。 ○めぐりルートの延長が長いと歩いて巡るには遠い。
<p>総合評価</p>	<p>○旧役場跡地の活用：若い世帯向け賃貸住宅や遊具広場は、必ずしも南関町の“顔”となる位置にある必要はないが、人口増による商店街の活性化につながる。○</p> <p>○図書館の活用：福祉の拠点として活用されるが、必ずしも南関町の“顔”となる位置にある必要はない。△</p> <p>○うから館の活用：郷土資料館は歴史学習など限られた目的利用となるため、誰もが気軽に立ち寄れる交流拠点にはなりにくい。△</p>

4) 検討結果

○旧役場及び公民館敷地については、まちなか居住の促進による中心市街地の活性化の観点から、C案の“若者定住の拠点”として活用する方向で検討しますが、同時に行政コストの削減のためPFIなど民間活力を活用する検討を進めます。なお、同敷地内の御茶屋跡前の敷地については、御茶屋跡の歴史的な雰囲気損なわないよう配慮の上、検討を進めます。

○うから館については、多様な世代の人が気軽に立ち寄り、利用できる施設として、1階部分は“本のあるたまり場”として活用し、2階部分は公民館機能を移設するB案の方向で検討を進めます。

■検討結果に基づく最終案

<p>最終案</p>	<ul style="list-style-type: none"> 旧役場庁舎及び公民館敷地に若者定住拠点（若い世帯向け賃貸住宅）等の定住拠点を検討 図書館は機能をうから館に移設することを検討し、社会福祉協議会又は定住拠点と併せた活用を検討 うから館は“本のあるたまり場”（多世代交流拠点）としての活用を検討 
<p>考え方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○図書館：図書館機能をうから館に移設することを検討し、社会福祉協議会又は定住拠点と併せた活用を検討 ○旧役場、公民館敷地：若者定住拠点+御茶屋跡の前庭広場+来客用駐車場 <ul style="list-style-type: none"> ・若い世帯向け賃貸住宅（移住定住希望の子育て世帯や単身世帯優先など） ○うから館： <ul style="list-style-type: none"> ・2階部分/公民館機能の移設 ・1階部分/図書館機能の移設 ⇒ 本のある“たまり場”（多世代交流拠点）の創出 ○めぐりルート：うから館—商店街—正勝寺—御茶屋跡を結ぶルート（カラー舗装化）



●若者定住拠点：
若い世帯向け賃貸住宅のイメージ
例えば…
・移住定住希望の子育て世帯優先入居
・おおむね5年以内に他の持ち家への住み替えが条件
町は住み替え支援を行う。



●多世代交流拠点：
本のある“たまり場”のイメージ

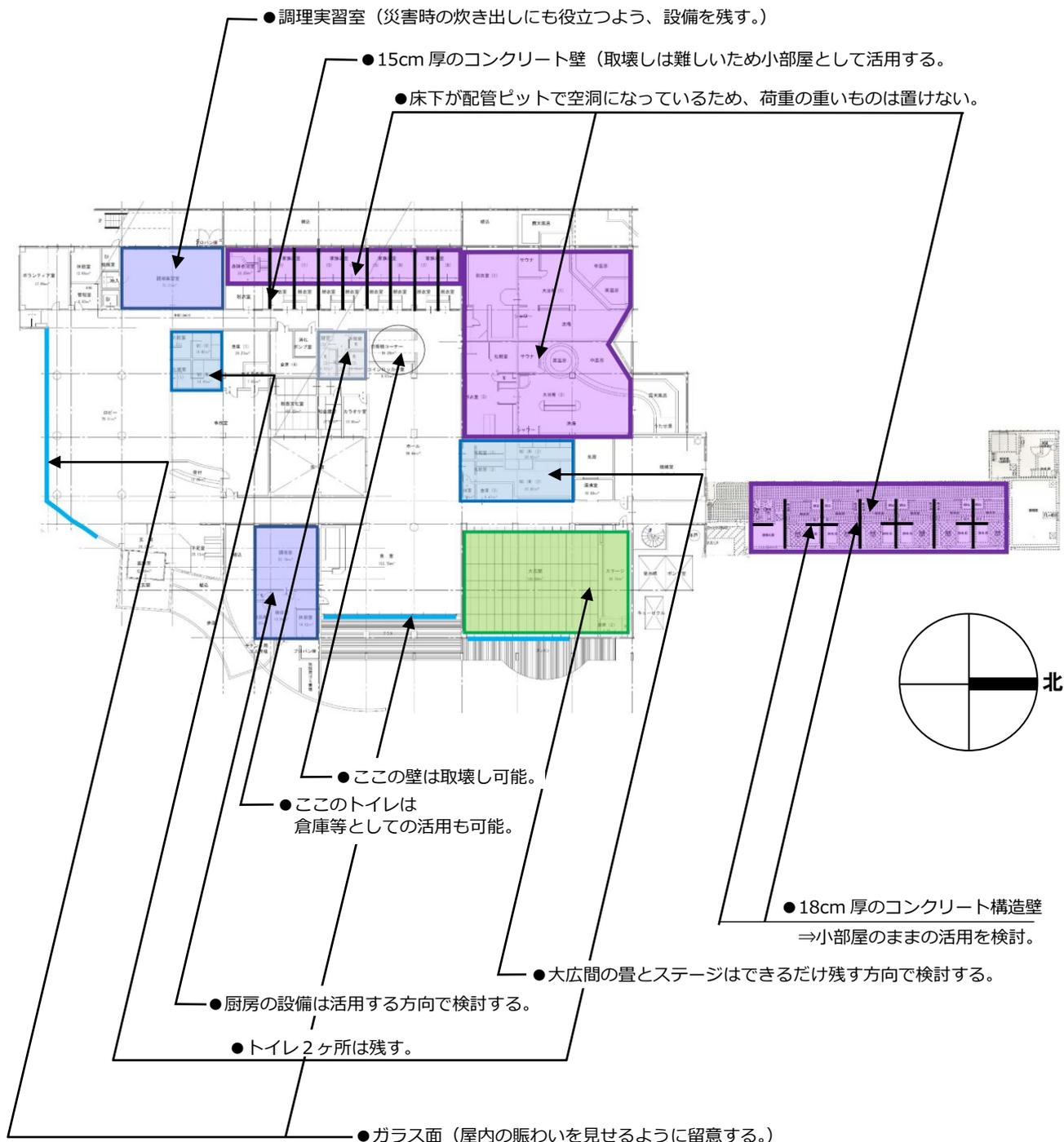
(3) うから館の活用イメージ

1) 活用の留意点

うから館を活用する際の留意点を以下に示します。

■うから館を活用する際の留意点

- 2階部分には「公民館機能」を移設する。このため、うから館の活用は1階部分と増築棟の部分で検討する。
- 内部はできるだけぬくもりを感じられる木材（県産材）を活用すべき。



2) うから館の活用イメージ（3案）

前記に示した「モデル地区のまちづくり構想」のA案・B案・C案に対応したうから館の活用イメージを示します。

※赤文字は住民アンケートやワークショップでの意見を反映

	活用の方向性	導入する機能、スペースの例	
		共通事項	個別事項
A案	○人が集まる機能として、雨の日でも子どもを遊ばせられる場と、高齢者等が気軽に立ち寄って過ごせる場を導入する案です。	○喫茶・軽食コーナー ○貸し会議室 ○料理教室（調理実習室） ○タタミの部屋とステージ	○屋内プレイルーム ○幼児プレイルーム ○タタミ敷きの娛樂室 ○趣味の工作工房 ○フィットネスルーム ○こども食堂 ○気軽に立ち寄ってくつろげる町民ラウンジ（新聞・雑誌コーナー）
	【イメージ】	●屋内プレイルームのイメージ  ■事例：福岡県嘉麻市足白ボルダリングセンター	●タタミ敷きの娛樂室のイメージ  ■出典：https://www.photo-ac.com
B案	○人が集まる機能として、まんが図書館や、気軽に立ち寄って、くつろいで本が読めたり、子どもに本を読み聞かせしたりできる場を導入する案です。	○喫茶・軽食コーナー ○貸し会議室 ○料理教室（調理実習室） ○タタミの部屋とステージ	○くつろいで本が読める開架図書コーナー ○読書テラス ○まんが図書館 ○絵本・児童図書コーナー ○紙芝居・読み聞かせお話ルーム ○学習室（小部屋） ○ビデオ・CD鑑賞室（小部屋）
	【イメージ】	●まんが図書館のイメージ  ■出典：https://www.photo-ac.com	●ビデオ・CD鑑賞室のイメージ  ■出典：https://www.photo-ac.com
C案	○生涯学習の拠点となるよう、郷土資料館と図書館の機能を導入する案です。	○喫茶・軽食コーナー ○貸し会議室 ○料理教室（調理実習室） ○タタミの部屋とステージ	○郷土資料展示コーナー ○郷土資料整理室・保管室 ○くつろいで本が読める開架図書コーナー ○絵本・児童図書コーナー ○紙しばい・読み聞かせお話ルーム ○学習室（小部屋） ○貸しオフィススペース（小部屋）
	【イメージ】	●郷土資料館のイメージ  ■出典：https://www.photo-ac.com	●貸しオフィス（小部屋）のイメージ  ■出典：https://www.photo-ac.com

4. 実現化に向けて

(1) 先導事業と推進事業

南関町地域未来構想の実現に向け、モデル事業として、今後1～3年程度を目安に早期に実現する協働事業に着手します。

早期実現 先導事業	(1) モデル地区の整備（まちなか再生事業）
	<ul style="list-style-type: none"> ●モデル地区におけるまちなか再生事業を早期に実現する事業 <ul style="list-style-type: none"> ・町営住宅を含む公共施設の改善、再配置 ・商店街の魅力アップ ・豊前街道と史跡めぐりルートの整備 など
	(2) まずは、各校区一つの魅力づくり
	<ul style="list-style-type: none"> ●第二、第三、第四校区における魅力づくりを校区毎に先ず一つ実現する事業 <ul style="list-style-type: none"> ・地域づくりなどに対して意識の高い地元プレーヤーや役場若手職員有志などを中心に、先ず、1校区1つの魅力づくりの実現化を図る。（行政はこれを支援する）
	(3) 空き家の活用モデルづくり
<ul style="list-style-type: none"> ●官民協働により、利用可能な空き家を、移住体験お試し住宅や賃貸住宅、店舗や地域住民のサロンなどとして活用するモデルをつくる事業 	
(4) 新たな通院支援策の構築（南関町デジタル化推進計画の実現に向けた環境）	
<ul style="list-style-type: none"> ●「南関町デジタル化推進計画（令和4年1月）」に基づき、“ICTを活用した医療の高度化”（オンライン診療）の実現化に向けた環境整備を進める事業 	
(5) 「住んでよかったプロジェクト推進事業」の活用促進（制度の周知、見直しを含む）	
<ul style="list-style-type: none"> ●既に実施中の事業であり、活用促進に向けたPRと必要に応じて見直しを行う 	

町民や民間事業者、関係機関や関係団体等への働きかけを通して、着手可能な施策（事業）から順次展開していきます

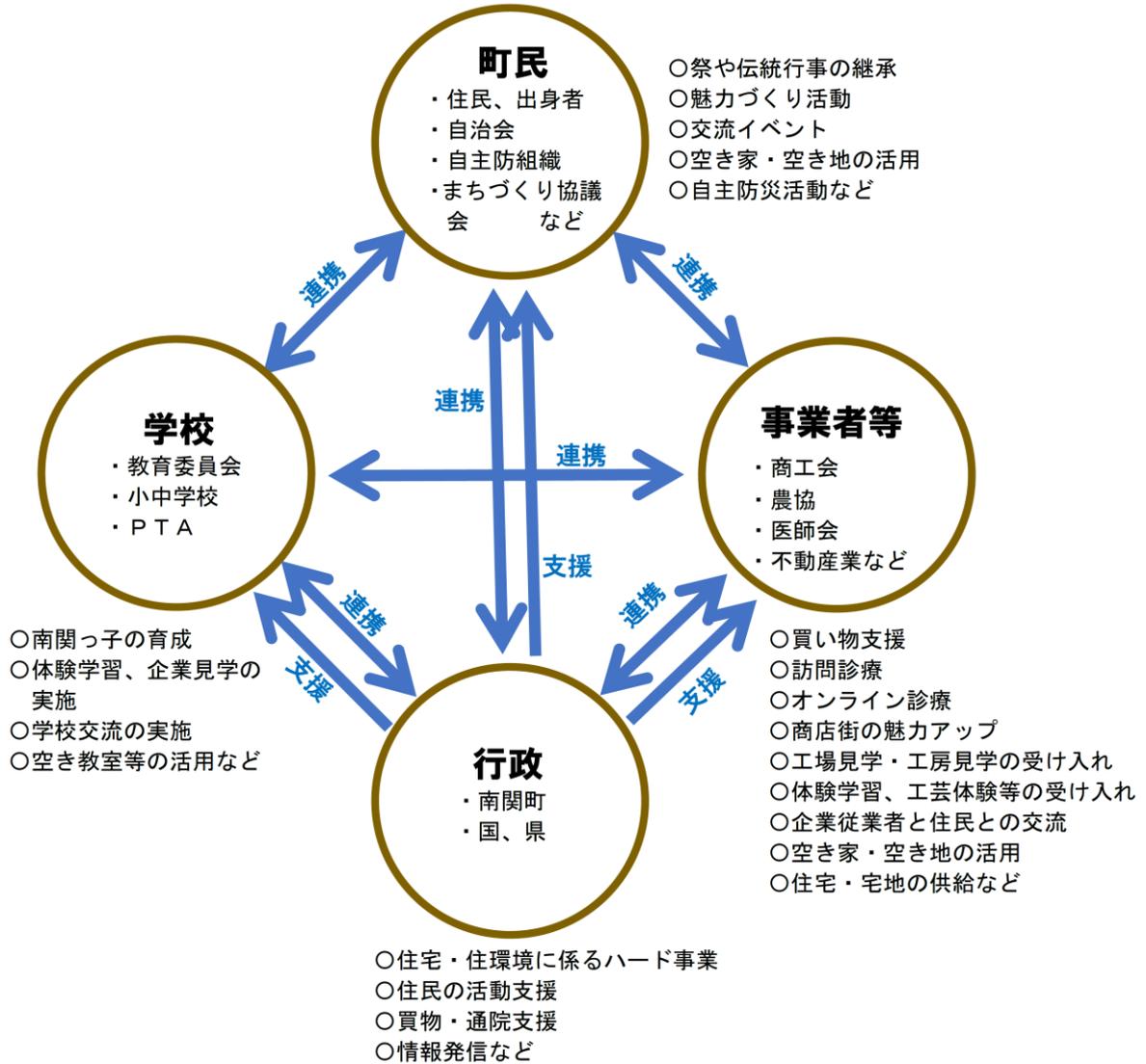
中長期 推進事業	(6) 提案型活動助成による新たな住民活動の支援
	(7) 新たな買物支援の展開
	(8) 町営住宅の改善
	(9) 身近な居住環境の改善（通学路の安全確保、緊急車進入路確保、身近な公園整備等）
	(10) 遊休地等の活用による企業誘致や宅地供給
	(11) 民間による住宅・宅地の供給促進
	(12) 南関っ子の育成（体験学習、工場・工房見学、学校交流、山間留学等の受け入れ）
	(13) 自治活動や自主防災活動の支援の充実
	(14) PRイベント（フォトコンテスト、自然と歴史と食を体験するイベントなど）
	(15) 新旧住民や企業と住民との交流活動の活発化（祭り、イベントなど）

(2) 推進体制づくり

南関町地域未来構想に示した施策や事業を実現していくためには、住民や事業者、関係機関や関係団体等と連携して、協働で施策や事業を推進していく必要があります。

このため、施策や事業を進める中で、以下のような推進体制を整えていきます。

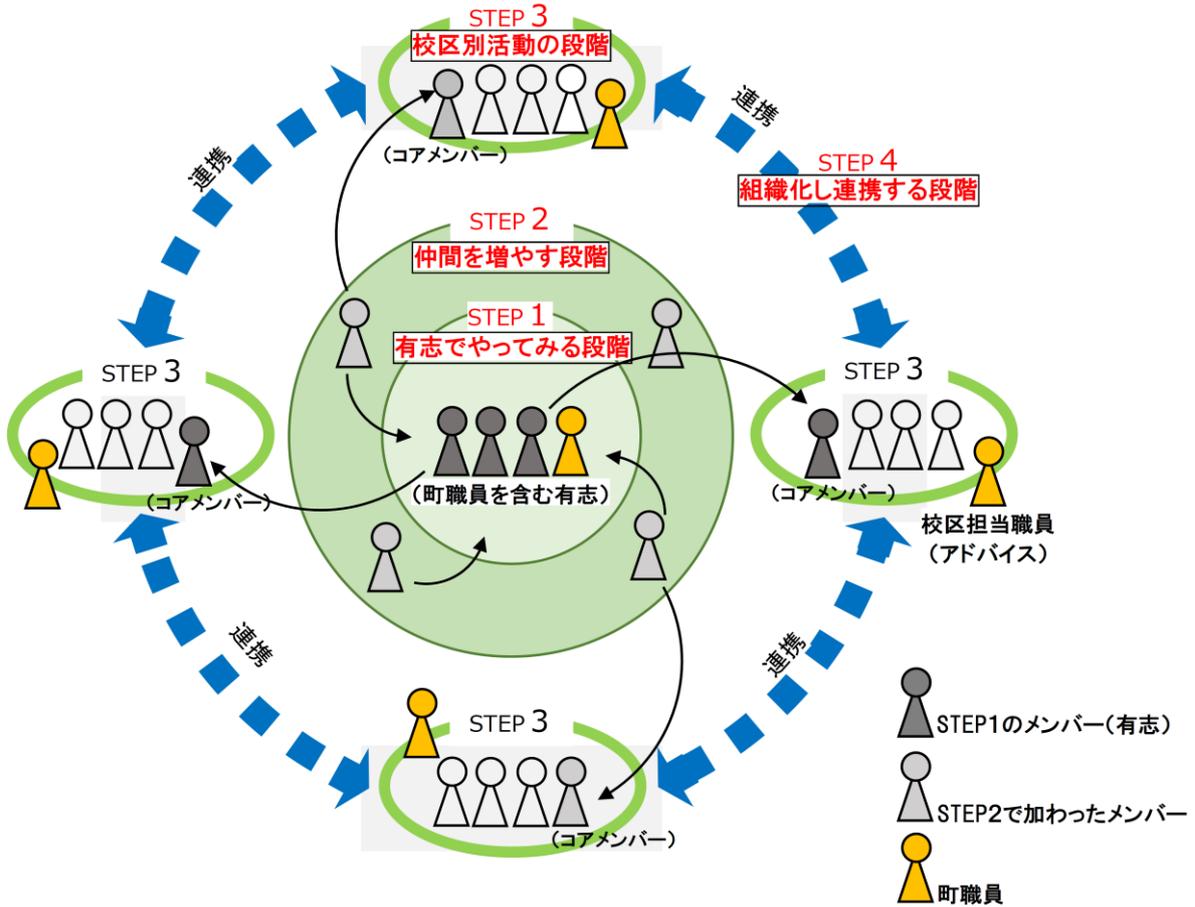
■ 推進体制



(3) 段階的な体制づくりのイメージ

前記の4つの先導事業への着手を契機として、まちづくりの段階に応じて下図に示すように徐々に活動の輪を広げ、体制を整えていく必要があります。

■段階的な体制づくりのイメージ



■ステップ毎の活動と支援のイメージ

活動を通して徐々に仲間を増やす	STEP 1 : 有志でやってみる段階 ○空き家の活用、防災広場でのイベントなどにチャレンジ	●提案型活動助成金等による支援	町
	STEP 2 : 仲間を増やす段階 ○STEP 1の活動の継続や規模拡大、新たなチャレンジなど	●提案型活動助成金等による支援	
	STEP 3 : 校区別活動の段階 ○まずは、各校区に一つの魅力づくりへの取組みなど	●情報提供やアドバイス等の支援	
	STEP 4 : 組織化し連携する段階 ○まちづくり協議会等の組織の立上げ、協議会間の情報交換や連携した活動の展開	●情報提供やアドバイス等の支援	

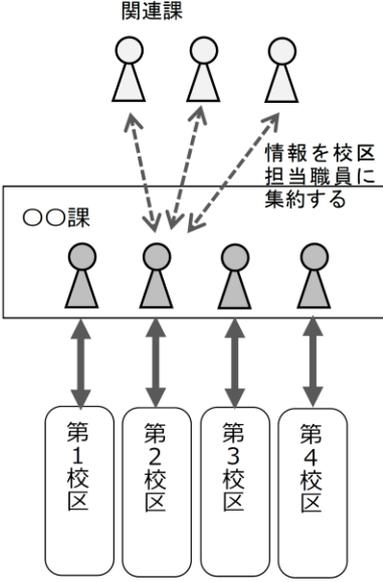
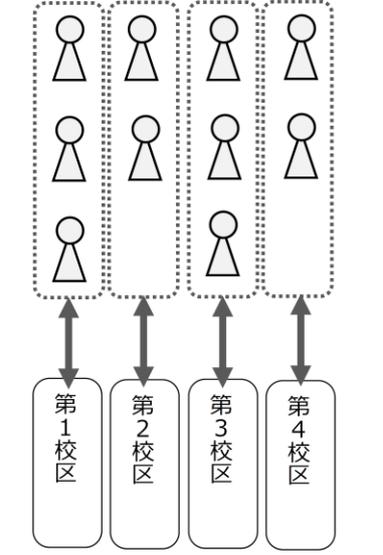
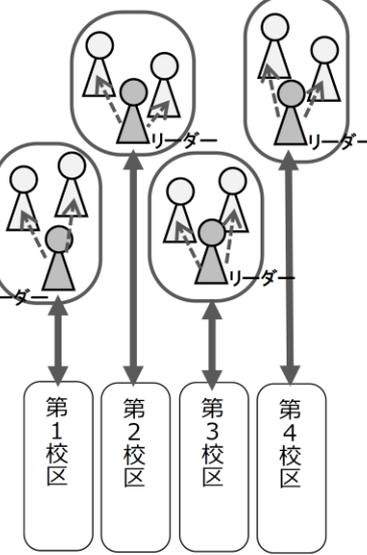
参考) 校区担当制のイメージ

STEP 3 又は STEP 4 の段階（地域でまちづくり協議会などの組織化が進む段階）においては、行政の支援体制も整えていく必要があります。

以下に、現時点で考えられる3通りの行政の支援体制のイメージを示します。

■校区担当制のイメージ

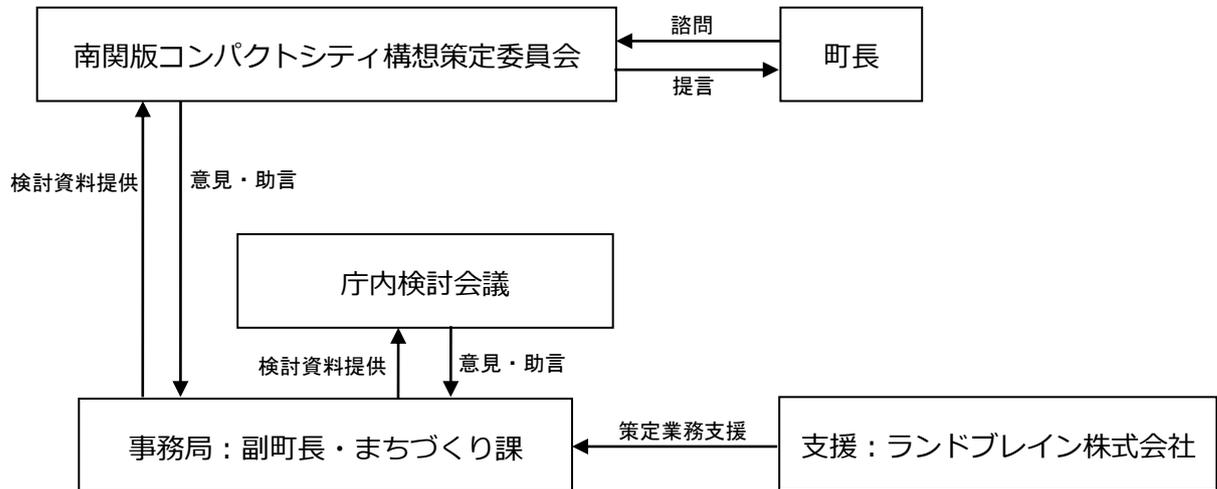
- STEP 3～4 の際の、校区担当制のイメージを以下に示します。
- 校区組織のあり方に合わせた仕組みを今後検討していきます。

A:担当窓口型	B:職員振り分け型	C:チーム型
<p>※専任課又は専任室を設置</p> 	<p>※全職員をいずれかの校区担当に振り分ける</p> 	<p>※職員による校區別担当チームをつくり、住民による校區別活動を支援する</p> 
<ul style="list-style-type: none"> ○校区側から見て担当者が明確で意思疎通しやすい ○校区の情報について、校区担当職員を中心に把握が可能 	<ul style="list-style-type: none"> ○職員全体で振り分けることで地域の声を反映しやすい ○校区支援の負担を分担出来る 	<ul style="list-style-type: none"> ○リーダーに情報を集約可能 ○校区側から見て窓口がわかりやすい ○校区担当者の負担を分担することが可能
<ul style="list-style-type: none"> ×校区担当職員の業務内容及び業務量の検討が必要 ×校区担当職員の異動の際の引き継ぎの検討が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ×支援の内容や情報が個人まかせになる ×責任者が不明確になりやすい ×校区側から作業員として扱われる可能性あり ×公務とプライベートの区別をつけにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ×公務とプライベートの区別をつけにくい ×校区担当職員の業務内容の明確化が必要 ×チーム内での分担がリーダーの力量により異なる

1. 策定体制

本構想は、以下の体制で策定しました。

■ 策定体制



2. 委員名簿

■ 策定委員名簿（敬称略）

氏名	住所（事業所所在地）	備考
西郷 正浩	熊本市	崇城大学 工学部教授
末竹 信雄	南関町大字上長田	区長会代表
上田 俊次	南関町大字関町	区長会代表
北原 浩一郎	南関町大字関町	商店街代表
立山 比呂志	南関町大字豊永	町議会議員
中村 正雄	南関町大字関町	町議会議員
猿渡 幹夫	南関町大字久重	一般公募
山下 美紀	南関町大字豊永	一般公募
西田 由実	南関町大字上坂下	一般公募
加藤 浩司 (任期 R1.5.20-R3.3.31)	大牟田市	有明高専 創造工学科准教授
北原 秀樹 (任期 R1.5.20-R3.3.31)	南関町大字関町	区長会代表
黒田 則行 (任期 R1.5.20-R3.3.31)	南関町大字四ツ原	区長会代表

3. 策定経緯

■ 策定経緯

日付	内容
令和元年 5月20日	・令和元年度第1回南関版コンパクトシティ構想策定委員会開催
7月 1日	・令和元年度第2回南関版コンパクトシティ構想策定委員会開催
8月	・住民アンケート実施
9月30日	・南関版コンパクトシティ構想策定委員会町内視察
11月27日	・令和元年度第3回南関版コンパクトシティ構想策定委員会開催
令和2年 1月29日	・令和元年度第4回南関版コンパクトシティ構想策定委員会開催
令和2年度	ー新型コロナウイルス感染症の影響により委員会開催を中断ー
令和3年 9月	・町内立地企業従業者アンケート実施
10月22日	・令和3年度第1回南関版コンパクトシティ構想策定委員会開催
11月 5日	・住民ワークショップ『若者編』開催
11月18日 19日	・住民ワークショップ『地域別編』開催
12月16日	・住民ワークショップ『モデル地区編』開催
令和4年 1月20日	・第1回庁内検討会議開催
1月26日	・令和3年度第2回南関版コンパクトシティ構想策定委員会開催
2月16日	・第2回庁内検討会議開催
2月22日	・令和3年度第3回南関版コンパクトシティ構想策定委員会開催
3月10日 ～23日	・パブリックコメント実施
3月30日	・令和3年度第4回南関版コンパクトシティ構想策定委員会開催

南関町地域未来構想 令和4年3月

南関町まちづくり課

〒861-0898 熊本県南関町大字関町 64 番地

Tel : 0968-57-8501 / Fax : 0968-53-2351

